

梅沢人間力アカデミー

2019年度夏合宿感想文集

目次:	(1班)	PP.	1	~	4
	(2班)	PP.	4	~	6
	(3班)	PP.	6	~	11
	(4班)	PP.	12	~	18
	(5班)	PP.	18	~	23
	(6班)	PP.	23	~	25
	(7班)	PP.	25	~	31
	(8班)	PP.	31	~	38
	(11班)	PP.	38	~	43
	(13班)	PP.	43	~	50
	(14班)	PP.	50	~	56
	(15班)	PP.	56	~	60
	(16班)	PP.	60	~	70
	(17班)	PP.	70	~	74
	(18班)	PP.	74	~	87
	(19班)	PP.	87	~	95

※各班内の優先順位 第一順位:学年、第二順位:名前の五十音

(1班)

大東文化大学 文学部 日本文学科 4年 平野みずき

4年生になり、梅沢人間力アカデミーで参加できる最後の夏合宿を終えました。

私は与えられた役職を全うすることと、大東日大学年関係なく様々な人とたくさん話して思い切り楽しむという目的を持って参加しました。

合宿まではリクルート幹事や勧誘班といった裏方的な役割を果たしましたが、当日は移動班として、合宿が予定通り進むよう積極的に誘導の指示出しを行いました。

しかし、合宿を過ごす中で私は他の同期に対して引け目を感じる瞬間が多くありました。

夏合宿幹事長の出崎はどのようにしたら夏合宿が上手く回るかを常に考え、素早い判断と指示を出していました。その姿を間近で見ていると、凄いと感じると同時に私にはその力が全

く無いと実感しました。

出崎だけではなく同期皆の姿が頼もしく思えました。そのような同期の一員であることを誇りに感じ、自分も追いつけるよう、残り半年しかありませんが精進したいと思いました。夏合宿を振り返り、宿舎では多くのアカデミー生と会話が出来、キャンプファイヤーや打ち上げはどれも楽しむことができました。迷惑をかけることも多々ありましたが、同期や後輩と4日間を共に過ごせたことが嬉しく、本当に4年間続けてきて良かったです。夏合宿を引率して下さった梅沢先生に感謝致します。誠にありがとうございました。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 3年 佐々木梨花

今回の夏合宿では、梅沢先生と山に登るという大変貴重な経験をさせていただきました。私にとって3度目の登山でしたが、先生から花の知識や鳥のことわざなど様々なことを教えていただいたり、山をゆっくり眺めながら登ったりと、例年とは違う視点の楽しみ方ができました。この登山を通して、様々な視点と知識を持つことは今後のアカデミー活動をより楽しく進めることにも繋がるのではないかと感じました。

来年は4年生としてもっと活躍できるよう精進して参ります。

このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生に心より御礼申し上げます。有難うございました。

大東文化大学 外国語学部 英語学科 3年 田中伶実

今回の夏合宿はイベント班として参加し、キャンプファイヤーの司会をしたり、3年目の夏合宿だったり今までの夏合宿とは全く違った気持ちで参加しました。後輩たちに楽しんでもらうにはどうすればよいのかということを中心に考え、事前に話し合いを何度もイベント班でしました。無事にキャンプファイヤーが終了し、多くの後輩たちに楽しかったと言ってもらえることができました。また、4年生の先輩方と一緒に参加できる最後の夏合宿だったため、1日1日を大切に過ごしました。先輩方がどれほど偉大な存在であるかを改めて知ることができました。私も先輩方のようになれるよう人間力の向上に努めていきたいと思えます。

大東文化大学 経営学部 経営学科 2年 黒須翔太

今年2年生で新規として入り初めての合宿でしたがとても楽しめました。日大にも友達ができ来年がさらに楽しみです。来年は3年生で役職も与えてもらえるかもしれないので、来年は今年よりも責任感を持って参加したいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 2年 齊藤久留美

わたしは2年目の夏合宿でした。

去年は三日目の昼からの途中参加で初めての全日参加ということもありすごく楽しみでした。実際3泊4日過ごしてみて去年ももちろん楽しかったですが、今年はそれ以上に楽しかったです。後輩もたくさんわたしに話しかけてくれ、すごく嬉しかったです。

また今年イベント班という役職も頂きすごくやり甲斐もある合宿でした。イベント班は本番1回なので全ての準備がシミュレーションで正直去年キャンプファイヤー、バスレクに参加してない私からしたら想像もつかないことだらけでした。しかし、4年生をはじめとする先輩方が去年のことをとてもわかりやすく説明してくださり、リハーサル中もわたしのことを気にかけてくださりキャンプファイヤーもバスレクも無事成功することができました。準備期間はやることや考えることが沢山で正直大変でしたが成功した時、達成感をすごく感じられ頑張った良かったと思いました。また先輩方のすごさも実感することができました。これからそんな先輩方に少しずつでも近づけるように精進していきたいと感じました。

最後になりましたが、このような素敵な機会を用意して下さいありがとうございます。

大東文化大学 経営学部 経営学科 2年 佐藤大介

3泊4日の合宿を終えて、1年の時と2年の時とでは楽しみかたが違うなと思いました。1年生の時はただ楽しむ、でしたが、今年の合宿は生活班で活動し、そこで仕事しつつ合宿も楽しむといったさらに楽しい合宿ができたと思います。生活班ではアゼリアで同期と4年生とで活動をしてとても大変でしたが、最後終わってみれば生活班は大変だけどすごく達成感があっていいものだと思います。先輩の背中を見て来年はさらに生活班頑張りたいと思います。

大東文化大学 文学部 中国文学科 2年 安野天

今回の夏合宿は2回目で役職や役割が増えて、大変でしたが充実した4日間でした。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 恩田梨瑚

夏合宿を通して様々な経験ができました。初めはとても不安でしたが、バスや宿舎やディスカッション、同期会を通して今まで関わったことのない人たちとたくさん話すことができました。

四日間過ごしていく中で先輩方のすごさや尊敬できる部分がたくさん見えました。総括で

は4年間サークルで過ごしているととてもいい経験ができるのだと感じたのでこれからの活動の活力になりました。参加してよかったなと感じました。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 1年 清水創也

沢山の人と話をして学校問わず友達が出来たこと、人との関わり方を学んだことで人に話しかけられるようになったこと、自分に自信が必要だということなど、この4日間で沢山の事を学ぶことが出来ました。非常に有意義な時間を過ごせたので参加して良かったです。

大東文化大学 社会学部 社会学科 1年 田川翔

夏合宿を経て普段話す機会がない日大の人と話す機会があったのはとてもいい経験になりました。特に宿舎で日大側の先輩と話すことが出来たのは個人的にはかなり好印象でした。自然の中で過ごすことで1年生は時間という制約をいつもよりも緩く過ごすことが出来、そしてたくましい先輩方の姿を見ながら過ごすことが出来たのは今後アカデミーを引っ張る良いきっかけにもなったと思いました。

しかし疑問点もありました。みんなが他校の同期と話す機会が欲しいという要望を先生や先輩方が機会を与えてくださったのにも関わらず日大と大東のグループに集まってしまい他校と話そうにも話しかけづらいという状況が生まれたことで他校間コミュニケーションが予想していたよりも少なかったことです。もちろん個人のコミュニケーションの問題もあるとは思いますが、話しかけづらい状況が生まれたことの方がより大きな疑問に感じました。結論として合宿に参加したのは先輩方とのコミュニケーションを取れたことはとても良かったです同期とのコミュニケーションは取れませんでした。同期と仲良くなる機会が欲しかった自分としては満足とは言えない合宿になりました。

(2班)

大東文化大学 経営学部 経営学科 3年 有山祐佳

今年で3回目の夏合宿となりました。1年生の時に初めて参加した2年前と比べ、大分見えるものも、感じるものも変わってきたと思いました。私は移動班と勧誘班の仕事を頂き、微力ながら夏合宿を運営する側に携わらせて頂きました。実際に合宿当日では臨機応変に対応しなければいけない状況が多々あり、大変な仕事でありながらもやりがいがありました。しかし、そのような状況下であっても、4年生が素早く的確な指示を出して下さったことで、後輩の私達や2年生や1年生はスムーズに動くことが出来ました。来年は私達3年生が4年生を受け継いで夏合宿をより良いものにしていかなければならないと強く感じま

した。またディスカッション班では班長として初めて顔合わせする班員と円滑にディスカッションするための雰囲気作りとして既存生と新規生の交流を重視しました。その結果、短い期間ではありましたが日大生、大東生ともに仲が深まったと感じました。今後も夏合宿でのディスカッション班との繋がりを大切にしていきたいです。いつものワークショップ班とは違うメンバーからまとめディスカッションする貴重な機会であり刺激的でありとても勉強になりました。この様な貴重な機会を与えて下さった梅沢先生をはじめとする、幹事の皆様、先輩方に感謝致します。本当にありがとうございました。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 上田夢実

最初は、日大生と面識がなかったので、誰とも話すことができず不安でしたが、バスレクなどで先輩方が自然と周りの人と話せる環境づくりをしてくださいました。宿舎では大東の一年生の女の子は自分しか宿舎にいないととても心細い気持ちになりましたが、同じ部屋だった湯原亜美さんや普段から仲良くしていただいている田中怜実さんに助けをもらい日大生やほかの先輩方とも話せるようになりました。夜は、日大の先輩や大東の先輩とトランプなどを通じて交流を深めることができました。

2日目は2班のみんなで山登りをしました。登っている間は班員のみennaと楽しく登ることができ、山頂から見た景色はとても綺麗で、とても感動しました。

夜に行われたキャンプファイヤーでは今まで話したいことない人たちとも交流を深めることができました。たくさん楽しい企画があつて本当に楽しかったです。

夏合宿前からたくさんの楽しい企画を考えてくれた先輩方には本当に感謝でいっぱいです。この合宿で、今まで交流を深められていなかった先輩や同期ともたくさんの交流を深めることができました。

なかなか人とすぐに話すことができない自分ですが、この短い期間でたくさんの思い出や貴重な体験をすることができました。

最後に梅沢先生をはじめ運営に携わっていただいた先輩方、本当にありがとうございました。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 佐藤由梨

3泊4日の合宿を通してたくさんの人と触れ合えることができました。先輩や日大の人、今まで関わることのできなかつた大東の同期とも話すことができ交友関係を広げることができました。初めは合宿自体に参加するか迷っていましたが、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができ、夏合宿に参加してよかったと思いました。夏合宿で得た経験を今後のアカデミー活動に生かし、更なる自己成長につなげていきたいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 富井悠揮

自分はこのサークルに途中から入り、夏合宿前のワークショップには3回しか参加できておらずサークル内にほとんど知り合いがいない状態で合宿に参加しました。出発当日の朝、待ち合わせ場所について時改めて話しかけることのできる知り合いがいないということを実感しとても不安を覚えました。しかしバスに乗り込んでみるとまず隣の席の先輩が話しかけてくださったり、宿舎に着くと同じ部屋の先輩が合宿のことを教えて下さったり、宿舎内の同期と仲良くなることができました。ほかにもディスカッションや登山で少しずつ人間関係を広げていくことができ、それを実感することがとても楽しかったです。

このように、人と関わり仲を深めるということを夏合宿で学ぶことができたのが今回の自分の一番の収穫だと感じます。今回の合宿で手に入れた人間関係をこれからも絶やさず、たくさんいい影響をもらっていこうと思います。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 中北魁

夏合宿では非常に密度の濃い時間を過ごすことができました。他学年、大東生、日大生を問わず親交を深めることができました。

合宿中に発表をする機会も多く、普段のアカデミー活動の時よりも大きく成長できたと感じています。また、普段とは違うディスカッション班で話し合い、意見を出し合うということはいつもと進行から違って面白かったです。

来年の夏合宿は忙しく動き続けていた先輩のように何かの役職を持って、また今年とは違う形で成長したいと思っています。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 吉野優佳

私は今回初めて夏合宿に参加したので、行くまでとても不安でした。1泊2日と短い期間の参加でしたが、とても濃い2日間でした。山登りは、自分の体力が持つか不安でしたが班のみんなと楽しく登れたためとても楽しかったです。登ったあとの達成感は忘れられません。また、日大の人と仲良くなれるか不安でしたが、先輩方が積極的に話しかけてくださり、同期の仲を取り持ってくれたためすぐに打ち解けることができました。このような貴重な経験ができる機会を設けてくれた梅沢先生をはじめ先輩方本当にありがとうございました。この夏合宿で得たたくさんの経験を今後のアカデミー活動に生かしていきたいです。

(3班)

大東文化大学 4年 福澤君義

今年の夏合宿は最後という事もあり自分の人生にとってかけがえの無いものとなりました。夏合宿に参加してくれたゼミ生全員に感謝しています。その中でも特に同期の存在はとて大きく同期の頑張る姿を見て自分も頑張る事が出来ました。感謝の気持ちを忘れずに残りのゼミ生活を過ごしていきます。最後になりますが、梅沢先生、普通の学生生活を送ってでは絶対に経験することの出来ない夏合宿という素晴らしい行事に参加させていただき、本当にありがとうございます。以上を私の夏合宿を終えての感想とさせていただきます。

大東文化大学 3年 関矢詩織

今回の夏合宿は幹事長補佐と生活班を兼任させて頂きました。

1年生からずっと参加してきた夏合宿でしたが、今回はもう3年生なのかと思いながら、凄く感慨深い思いで夏合宿を終えました。

まずは、班長として3班の班員を支えながら夏合宿ができ、大変嬉しく思いました。3班の新規生については、活動には来てくれていたものの夏合宿への参加を考えたいという新規生が多く、凄く勧誘が難しかったことを覚えています。ただ、参加しますと言ってくれた新規生のためにも「全力で楽しみ、全力で楽しませる」という思いで夏合宿に挑みました。

初めは山登り嫌だなどと言っていた新規生やまだ少し班員と距離がある新規生など少し問題があるように思えた3班でしたが、山登りの休憩ポイントや頂上ではそのような不安を一切感じさせないほど仲良くなっていました。

「登り切ったね」「一緒に写真撮ろう」などと自分から声をかける新規生もいて、目頭が熱くなりました。

山登りは、班員と班員を繋げる良い場なのだと、班長という立場になって改めて感じる事ができました。

次に、生活班は昨年に引き続き務めさせて頂き、今年は更に幹事長補佐という役職を頂きました。

生活班については、後輩と先輩のパイプ役としての動きを果たすことや自分が裏を支えることを意識しながら取り組みました。

幹事長補佐については、途中から任命して頂いたのですが、「幹事長補佐を出来るのは詩織ちゃんしかいなかったよ」などと先輩に声をかけて頂いて、期待されているということに身に染みて感じました。また、その期待に対して期待以上で応えたいと思うようになりました。

幹事長補佐と生活班を兼任して、改めて先輩方の偉大さに気付きました。

頭の回転が早いところなど自分も来年度に活かしていきたいと思うものが沢山あり、もっ

とスピード感をもって先輩方の良いところを奪っていかなくてはという思いと同時に、来年は自分達が4年生になり、この夏合宿を作り上げていく側になるんだとかなり焦りも感じました。この先輩方のレベルを超えるような夏合宿が作れるのかと不安にもなりました。

まだまだ未熟ではありますが、先輩方に作り上げて頂いた今までの夏合宿を超えられるような夏合宿を来年度に作り上げられるよう精進致します。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生や幹事の方々に心より御礼申し上げます。誠に有難うございました。

大東文化大学 3年 三浦明

今回の夏合宿を通して学んだことがいくつかありました。まず、会話をする上で必ず相手に伝えなくてはならないことです。初日で梅沢先生が仰っていましたが、内容よりも大きい声で相手に伝えるということを学びました。そして今後は大きい声で話すことだけでなく、内容もしっかりとしていかなくてはなりません。今回の夏合宿で相手に話を伝える重要性を学びました。そしてもう一つは縦と横の繋がりを再認識することができました。困った時は一人で抱え込まず周りを頼ること、そして自分は一人ではないのだと再認識できる機会となりました。このような機会を与えていただき梅沢先生をはじめ、幹事の方や協力者の方に心より御礼申し上げます。

大東文化大学 3年 山路健仁

今回夏合宿に生活班として参加して、4年生から吸収すべきこと、そして自分が後輩に伝えなければいけないこと、自分が気づかなければいけないことが沢山あると感じました。自分は今あることに精一杯になってしまい、先を見て行動することがあまり出来ませんでした。しかし、生活班の4年生方は先を見て臨機応変に行動する事で、スムーズに夏合宿を進行していて、改めて4年生の偉大さを感じました。自分も来年は4年生として、夏合宿に参加するので今回で明確になった自分の課題を克服して夏合宿に挑みたいです。最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生に心より御礼申し上げます。有難うございました。

大東文化大学 2年 上木華

今回、梅沢人間力アカデミーに新規2年として参加させていただきました。4月からアカデミーに加入してできた友人達はほとんど責任ある役職をこなしていました。夏合宿の前々から忙しく準備に勤しむ彼らを近くで見えてきて、私自身も役職無しながら責任ある行

動が求められるなと感じていました。

いざ夏合宿当日になってみると、想像していたものよりずっと集団行動の重要性を意識しなければならぬものでした。常に働いている友人達に声をかける暇もなく、同じ部屋になった日本大学の後輩や先輩と親睦を深めることを優先しました。これによって、自分の足りないところが見えました。具体的には、初対面の人と接する時にかなりの壁を作ってしまうということです。今後改善していくためには、初めて会う人と会話を積極的にするような経験をしていくべきだと考えています。

最終日の総括で同期や先輩方のお話を聞いて、今まで軽い気持ちでサークルに参加していた自分を振り返りました。これからの活動は、新規だからという負い目を感じずに責任を持ってやっていきたいと思いました。

大東文化大学 2年 岡嶋雄士

夏合宿の感想としては、昨年一年生としていった時とは違い今年は生活班という役職をただいて、仕事としては大変だったけれどもやりがいがあったので生活班という役職をただいて良かった。そして班の後輩が出来たことによって夏合宿を自分だけが楽しむことなく後輩と一緒に楽しむことが出来たのではないかと思った。

大東文化大学 2年 佐野菜

3泊4日の夏合宿に参加して良かったと心から思いました。今回私は生活班という役職をいただきました。生活班の仕事としては、みんなの救護やお風呂シフトを作ること、ゴミの分別など、縁の下の力持ちのような役です。そのような、サークルの人全体を支えるような仕事を任せていただいたことや、それをやりきれた事の達成感を心地よく感じました。あぜりあの宿舎は忙しくて、私は焦ってしまうことがありました。しかし周りの2年の仲間が、少し水でも飲んできなよ、などと優しい言葉をかけてくれて本当に嬉しかったです。

山登りでは、3班の仲間たちと山登りはできませんでしたが、3班のみんなと写真を撮ったり、頂上ではみんなといられたり、本当にいい思い出になりました。この夏合宿のあいだ、さらに多く時間を3班の人と一緒にいたかったです。

また今年の総括をきいて、尊敬できる四年生の先輩方や、同じ班の四年生の福澤さん、三年生の関矢さんや、山路さんと一緒にいられる時間が残りわずかになってきているのだなと実感できました。本当に悲しくなりましたが、残されている時間を有意義にしていきたいと思いました。これから大好きな先輩方とたくさんの思い出を作っていこうと思いました。

大東文化大学 1年 朝日友貴

私は今回はじめて梅沢人間力アカデミーの夏合宿に参加して、普段のアカデミー活動では体験できない夏合宿ならではの経験ができとても充実していて楽しい4日間だったと思いました。私は参加する前は日大の人とのコミュニケーションが上手くできるかななどの不安がありました。が、いざ参加してみると沢山の友達や先輩と交友を広げることができとても楽しい4日間にすることができました。夏合宿を通して広がった交友関係をこれからも継続していきたいと思います。

まずこの夏合宿を通して印象に残っていることは2つあります。

1つ目は、2日目に行った登山です。普段交流をもっている班の人と登山をして自分の班の居心地の良さや安心感を感じることができ、より自分の班が好きになりました。また苦しいことを一緒に乗り越えることで絆が深まったと思います。

2つ目は、4日目の総括です。総括で3年生や4年生が涙ながらに語っていた姿が印象に残っています。自分もアカデミー活動を続けて総括で涙を流せるような青春を味わいたいと思いました。

この夏合宿が楽しく充実したものだと思えたのは、先輩方のお仕事のおかげだと強く感じました。それは、合宿中近くで先輩方の働きをみることができ、先輩方の力を感じることができたからだと思います。そのような先輩方をみて、私も来年再来年そんなカッコいい先輩になりたいと思い、これからのアカデミー活動を頑張っていきたいと思います。

大東文化大学 1年 塚原悠貴

私は今回の3泊4日の梅沢人間力アカデミーの夏合宿に参加してとても良かったと感じています。まず1日目の自己紹介では、あんなに大勢の前で話すという経験があまりなかったため、自分にとって価値あるものとなりました。2日目の山登りではワークショップ3班のみんなと登れてとても楽しく、貴重な体験ができました。普段の生活からは見られないみんなの一面が見られました。3日目のディスカッションでは、自分の意見を出し、また他の人の意見を聞きそれをまとめ発表するということが、班の団結力を感じることができました。そして4日目の総括では、4日間の様々な体験を通じたことで少し人前でうまく話せるようになり、自分にとっていい刺激をもらった合宿になりました。また懇親会や打ち上げなどの交流の場を設けてもらったおかげで大東と日大の友人を増やすことができ、人脈を広げることができました。以上のことからこの夏合宿は私にとってとても良い経験になったと思います。

大東文化大学 1年 武田兼太郎

私は8月2日から4日間、戸隠へ社会人交流の夏合宿に参加しました。参加した理由は、前期のワークショップで紹介されていた活動の中で特に印象に残ったイベントであったこと、また、日本大学の学生と交流できる初めての機会だったからです。先に夏合宿全体の感想を述べると、「参加してよかった！！本当に充実した4日間」でした。初日は都会とは違った大自然に囲まれつつも、日大生が多かったこともあり同じ宿舎の人とは馴染みきれずにその日はおわりました。そんな中、2日目が始まりました。この2日目は特に印象に残っています。登山は思ったよりハードでした。けれど、下山して下についた頃には同じ3班のみんなとは今までより距離が近くなった気がします。キャンプファイヤーは久しぶりに非日常的な楽しい体験でした。部屋長がダースペーダーとして登場したのはビックリしました。笑 でもなにより、合間の時間や宿舎内懇親会で同じ1年の日大生や先輩方と仲良くなれたことが1番大きかったです。3日目のディスカッションでは班の方たちにも恵まれ、いつも以上に内容の濃いディスカッションができました。また、全員の前での意見の発表も自分なりに上手くこなすことができました。何度やっても緊張はしますが、班の先輩と一緒に添削などしてくれたのも後押しになった気がします。4日目の総括を振り返る前にこの夏合宿を思い返すと、1年ということもあり役職は特にありませんでしたが、本当に楽しいことばかりでした。幹事やイベント班、生活班などの仕事、その他イレギュラーな事にも柔軟に対処し運営している姿を見て尊敬の眼差しや感謝の気持ちで一杯になりました。このようなこともあり4日目の総括の先輩方のお話は1年ながら感動で涙を堪えずにはいられませんでした。この夏合宿の経験はサークルのモチベーションにもなるし、今後自分がどう活動していけばよいかの指針にもなった4日間でした。来年も必ず参加したいと思います。

大東文化大学 1年 富岡大揮

私は社会人交流会の夏合宿に参加したことにより、以前よりもたくさんの人の前で話すことに対して抵抗がなくなりました。それは、初めの自己紹介の時やディスカッションの時に前に出て話をしたからだと思います。なんとなく大学生活をしているだけでは何百人もの大勢の前に立ち一人で話をするなど絶対にはないと思います。だから、この夏合宿に参加できてとてもいい経験になったと思いました。また、日大と合同で行ったので今まで以上に人脈を広げることができコミュニケーション能力も身に着けることができました。この日大との繋がりをサークル内だけで終わりにするのではなく、個人的に遊んだりしてさらに友好関係を深めていこうと思いました。

先輩方が頑張ってくれたおかげでとても楽しい夏合宿になりました。改めて先輩方の逞しさや優しさを実感しました。来年は自分たちが先輩方のように後輩を引っ張り楽しませられるように頑張りたいと思いました。

(4班)

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 4年 等田裕偉

今回、私は最高学年として微力ながら夏合宿を運営する側として携わせて頂きました。私は一昨年、昨年同様に移動班としての仕事を頂きました。去年とは違い、自分が下の学年に的確な指示を出す事の難しさを痛感しました。それと同時に、同期の存在の大きさも身をもって体感しました。特に、移動班班長である田幡は、班長としての自覚をしっかりとっており、その日その日のスケジュールをしっかりと把握し、イレギュラーな事態にも慌てる事なく臨機応変な行動をしていました。私は田幡が班長であってよかったと心の底から感じました。移動班は、私にとって大きな場所でした。あまり目立つことのない自分でも微力ながら活躍できる事がとても嬉しかったですし、移動班を通して日大側との関係もより一層深める事ができました。3日目の同期会では、久しぶりに同期とお酒を嗜みながら楽しく過ごす事ができました。年々、同期の人数は減っていきましたが、それ以上に絆は深くなっていったと思います。こんな素晴らしい同期と一緒にいられるのも残り半年しかないと思うと寂しさも感じました。しかし、残りの半年を有意義に過ごし、より多くの思い出を作りたいと思います。また、移動班や、WS 班、ディスカッション班や宿舎など大東日大関係なく多くの後輩が私に声をかけてくれました。特に、日大側との交流はこの夏合宿が初めてだったということもあり、大東生以上に交流する機会が多かったと感じました。夏合宿が終わっても個人で遊びに行こうという誘いも多く、この夏休み中にさらに親睦を深めていこうと思います。4度目の夏合宿で、感じた事はこの夏合宿に一度もかけることなく4回全て参加できてほんとによかったと感じました。学生のうちにこんなまたとない経験を4度もさせて頂きありがとうございます。大勢をまとめることの大変さ、的確な指示出し、スケジュール調整など社会に出てから必要ない力をここで身につける事ができたと思います。残りの半年を無駄にせず、より精進していきたいと思います。

大東文化大学 経営学部 経営学科 3年 湯原亜美

今年で3回目となった今年の夏合宿はWS 班長、ディスカッション班長、会計班班長、移動班として参加させて頂きました。

沢山の役職を与えて下さり参加した今年の夏合宿では「周囲の人に頼る事の大切さ」を大きく感じました。

1番実感したのは会計班の班長という重要な役職を与えて頂き過ぎた準備期間です。会計班の班長となり、不安な気持ちがとても大きく逃げ出したくなる瞬間が多々ありました。夏合宿前日まで梅沢先生、出崎さん、各班班長のみなさんへ沢山のご迷惑をおかけしてしまい、大変申し訳なく感じております。しかし、先輩方はどんな時も責める事なく支えて下さ

いました。同期は自分から相談する事が苦手な私をみてそっと話を聞いてくれました。また、先生から頂いたメールでの「何もかも自分でやろうとしたら必ず失敗する」というお言葉で「もし早くから頼っておけば」という気持ちにかられ、「周囲の人に頼る事の大切さ」を改めて感じました。

また、ディスカッションでは班に4年生が居ない中での班長でした。文章力もまとめる力もない中、2年生の3人が自ら力を貸してくれました。そのおかげでスムーズにディスカッションが進んだのだと感じております。

同時に「先輩方の偉大さ」を感じました。

みんなが全力で楽しめるよう準備期間だけでなく合宿中も遅くまで話し合いを行う姿や、辛い時でも後輩の前では常に笑顔でいる姿を間近で見る事が出来ました。また、移動班の先輩方は常に周りをみて素早い判断をするだけでなく、私達がみんなへどの様に指示をすべきかまで考えてくれ、とても頼りになり一緒に仕事が出来たことを嬉しく思いました。そんな先輩方へはまだまだ追い付きませんが、一年後、少しでも追いついている事が出来るよう努力して参ります。

また、「仲間の大切さ」を改めて感じる事の出来た合宿でもありました。

個人的に沢山のひとと仲良くなることができたほか、WS4班の1年生から「4班で本当によかったです」という言葉を聞く事ができ、班員の絆がとても強くなったと感じ、今後の活動への意力ともなりました。

梅沢先生、この様な大変貴重な機会を与えて下さり、誠に有難うございます。

今後の活動でも気を抜かず全力で取り組んでまいります。

至らない点多々ございますが、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 2年 國谷颯

今回の夏合宿では、1年生のころとは違った感想を得ました。前回の夏合宿は、ただ合宿を楽しむことや、様々な人に話しかけていき、交流を深めていくことしか考えられていませんでした。

しかし、今回の夏合宿では移動班と部屋長という役職を頂いたことや、より近くで先輩方の活躍する姿を見たこと、夏合宿の運営携わらせていただいたこともあって昨年とは全く違う学びを得ることができました。特に移動班の活動では、団結して活動していくことの大切さを学びました。仕事の中では移動する際の指示や統率が大変でした。そんな状況でも先輩方を中心に一致団結して行ったことで移動を円滑に進めることが出来たと思います。また、3日目の夜に行われた同期会では、今まで関わりのなかった同期とも交流を深めることができ、来年は3年生として同期達と共に夏合宿を成功させたいという思いを持ちました。今年の経験を生かして来年の夏合宿をもっと良いものにしていきたいと考えています。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 岡田隆之介

今回初めてこの夏合宿に参加させていただきました。初めての参加でわからないことや不安なことも多々ありましたが、先輩たちの後ろを見てたくさんのことを学ぶことができ、いつもと違う姿に尊敬しました。また、大自然の中日大生や大東生の人たちと触れ合うことができとても刺激になりいい経験になりました。自分との違う価値観や考え方など様々な意見を聞くことができとても参考になり色々な側面から考えられるようになりました。客観的に周りを見たりコミュニケーションをとる大切さを知りました。合宿で学んだことをこれからの生活やアカデミーで磨いて自分の強みにしていきたいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 菊地可南太

今回この合宿に参加してみて先輩方の苦労や優しさがとても伝わってきました。それぞれの先輩がじぶんのやるべきことをやって、人数が多くて言う事を聞かなかったりする1年生にも優しく丁寧に教えてくれたりして、合宿中にとっても助かったことが多かったです。自分が来年今の先輩と同じ立場になった時、同じように苦労を乗り越え優しい先輩になりたいと思いました。そして、初の合宿の参加ということで日大の人とも仲良くなれるか不安ばかりでしたが、同じ宿舎の人や同じ部屋の人、話しかけてくれたりする人達が沢山いていろいろな人と仲良くなることができました。この様にいろいろな人と仲良くなれたのも自分一人の力では成しえないことだったと思います。このような機会を与えてくれた梅沢先生をはじめ先輩の方々には感謝しております。ありがとうございました。

大東文化大学 経済学部 現代経済学科 1年 近藤桃子

今回の合宿は先輩方が作りあげてくださったということを四日間を通して強く感じました。私たち一年生が不自由のないよう次々に起こるアクシデントに対応し、周囲のために活動していた姿が印象に残っています。私のWS班は学年でも全体でも仲が良く、総括では先輩方の言葉を聞いて感涙にむせびました。こんなに深くなれる関係にあることを有り難く思いますし、私も3年後後輩からそう思われるような関係を築きたいと強く思いました。また、いつもの仲間がディスカッションで前に立って発言している姿は心強く同時に嬉しく思いました。ディスカッションでは深く考えられるよう先生がルールを敷いてくださったので班で協力しながら自分たちなりの答えを導き出すことができました。合宿に参加しなければ会うことのなかった人ともたくさん繋がりました。後半2日間は宿舎での食事は話したことがない人と座るというルールを先輩方が作ってくださったおかげで多くの友人ができました。はじめは知り合いのいない机で摂る食事は緊張したけれど気がつくともそれはわくわくに変わっていました。宿舎やディスカッション、学年飲みやバスなど交

友の幅が大きく広がり、今回の私の目標は大きく達成されました。来年は役割をいただいて今回とは違う視点の合宿にしたいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 渋谷瑠輝亜

今回の夏合宿ではたくさんの同期の友達ができ、先輩と仲良くなれました。最初バスの隣が知らない人と聞いて不安を抱いていましたが、実際隣の人に話したら行きも帰りもとても仲良くなれたのでよかったです。1日目はバスと自己紹介だけで終わり、何しに行っているのかよくわかっていませんでした。ピアロッキーの部屋割りでは自分の部屋には他に大東生がいなく他3人が日大生だったのでとても不安でした。しかしランプなど自分から積極的に話しかけに行ったらみんな仲良くなれたのでとても嬉しかったです。2日目の山登りは、具合が悪かったので憂鬱でした。しかしいざ頂上に着くと、大きな達成感が生まれ頑張って登ったかいがあったなと思いました。3日目のディスカッションと発表は、暑くてあまり気が乗りませんでした。しかし日大の先輩とディスカッションを組むことにより、ものすごい判断力とまとめる力を目の当たりにして刺激をもらいました。また、いままで発表した事がなかったので初めてのいい経験になりました。キャンプファイヤーではイベント班の皆さんが盛り上げて下さり感動しました。初めての夏合宿は自分にとってとても大きな経験になった四日間でした。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 野村大樹

今回の夏合宿では大自然の中、初めて会う人も大勢いて、人生で初めての経験をさせて頂きました。初めて会う人とはどのように接すればいいのかなど、考えることも多かったですが、それも含めて、自分を成長させることができたのかなと思っております。また、いつもはふざけあったりしている先輩達がまじめに仕事をこなしている姿などを見ることができ、自分にもこんなメリハリが必要だなと思知らされました。今は一年生で楽しんでいるのですが来年、再来年となると、他人を楽しませる、といった視点も大事になってきます。来年はもっと成長した自分で夏合宿に参加し、他人を楽しませたり喜ばせることができるよう、頑張りたいと思っております。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 1年 東快知

今回、1年生ということで初めての合宿に参加しました。行くか行かないか本当に迷いましたが、先輩に誘われ参加を決めました。先輩に誘われたという単純な理由のため、全体の輪にうまくなじめるか最初は心配でした。しかし、合宿を終えた今、仲間との絆が深まり、新たな交友関係やいい思い出ができ、参加してとてもよかったですと感じています。

今回の合宿で一番心に残ったのは先輩のすごさです。全体を、仕切る姿はもちろん、ディスカッションなど少人数のときにもうまく話を広げ、全員が意見を言いやすい環境にして下さいました。カッコいいなあと思いましたし、同時に1年後、2年後にはこんな姿になりたいなあと思いました。それぞれの役割を全うするなかで、なにもかもが初めての1年生に対して優しく接してくれ、来てくれてありがとうと何度も言われました。このような素晴らしい集団の中にいることは、人生のなかの大学生という4年間の短い時間で絶対いい経験になると確信できました。一番下でいられる残り半年間、先輩の姿をしっかりと見て来年に繋げていきたいと思います。

登山やキャンプファイヤーなどといった普段できない活動をできたことはもちろん、いい思い出の1つですが、私はディスカッションの時間が1番有意義であったと思いました。第二回のディスカッションでは今後のアカデミーについてという内容で話し合いました。ですが、発表の内容がいいものではなく、急遽第三回も行うことになりました。それにより具体的な内容を各班員で出し合うことができました。どうすればよいのか、どのようなことをすれば達成できるのか、真剣に考えた時間はこれからに必ず生きるものになったと感じます。

合宿に参加することで予想を超える様々な経験ができてとてもよかったと思います。今回知り合った日大の人や、先輩方とはプライベートからも交流を深めていき、よりよい集団、そのなかになじめるひとりになっていきたいとおもいます。

大東文化大学 法学部 政治学科 1年 瀧脇麻衣

正直、本当に楽しいのかな、初めて話す人とバスが隣で宿舎が一緒に仲良くできるのかな、と不安がいっぱいでしたが、終わってみた今、充実していた素晴らしい時間だったなと感じています。先輩同輩皆さんとてもフレンドリーで、会話が弾むことが多かったです。梅沢先生のお話で、ここにはいじめがない、というお話を聞いて、本当にその通りだなと思いました。一人一人が輪を広げようとする気持ちがあるからこそのことだと思います。その結果、最後の先輩方のスピーチが、気持ちのあふれ出てしまう感動的なものになるのだと感じました。4班の先輩方が4班ありがとうと言ってくれた時は、先輩方が頑張っていた姿を思い出して、私ももらい泣きしてしまいました。

また、忍耐力が大事なこともわかりました。私は自分が面倒くさいと思うことは後回しにしてしまったり、やらなかったりすることが多い傾向にあるのですが、今回の山登りや、ディスカッションでの発表は体力を限界まで使ったり、人前で話す緊張感など普段逃げていた事が多くとても辛かったです。それでも、山登りでは先輩が荷物を持って下さって助けてくれたり、4班の同輩同士で休憩時間に草木や花を頭につけたりして、くだらないですがとても楽しい時間を過ごす事ができました。そのおかげで辛かった山登りも登り切ることができました。登り切った時は、久しぶりの達成感で気持ちよかったです。

ディスカッションでは、難しいテーマの時になかなか自分の意見がまとまらず、大変な思いをしました。先生のご意見もあるため、できるだけ完璧な発表にしようと20班の先輩方がとても手伝ってくださって、とても心の支えになりました。

日大生だけでなく、大東生ともさらに仲良くなれて、とても楽しい合宿でした。来年、もし役職をいただけたら、後輩が心から楽しめるようにストレスなく合宿が進むよう、時間通りの行動や、積極的に話しかけたりするサポートをして、参加したいと思います。今回の合宿をやるにあたって関わっていただいた方々、特に運営してくださった梅沢先生、先輩方、本当にありがとうございました。

大東文化大学 経営学部経営学科 1年 蒔田悠介

私は今回夏合宿に参加してみて本当に良かったと思いました。

参加する前はどんなことをするのかよく分からず、初めて関わる人が多いので不安が多くありました。しかし参加してみると先輩たちとの縦の繋がりや、大東、日大の1年生たちとの横の繋がりができ人脈が広がり、多くの人と仲良くなることができました。

こんなに短期間に色々な人たちと出会い会話をする経験はなかなかないと思うのでとても良い経験になりました。

また、先輩方がいろいろな役職を持ち夏合宿の運営をしてくださったことに本当に感謝しています。ありがとうございました。来年は既存生として役職をいただくことができたら、その時は今年の先輩方のようにしっかりと与えられた仕事をこなして良い夏合宿にしていきたいと思います。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 山崎麻唯紗

私は今回の合宿に参加して本当によかったなと思いました。最初は人見知りだしお金もかかるので行きたくないという気持ちが正直大きかったのですが、先輩方の体験談などを聞き少しずつ行きたいなと思うようになりこの合宿に参加しました。楽しそうだなと思ったものの不安の方が多く、3泊4日が充実するか心配でした。しかし、バスでは先輩方がリードしみんなを楽しませてくれて不安が減りました。宿舎でも部屋長の方が中心に輪を和ませてくれていつの間にか自分の不安だったものが消えていました。また、山登りで班の仲がより一層深まったなと思います。私はこの合宿で1番印象に残っているのは総括の時間です。普段から頼りにしている先輩方が涙を流している姿を見て私達の見えないところでたくさん苦勞をし、普段から私達のために最高の時間を作ってくれたのだと知りました。改めて尊敬し、これからもついていきたいと思いました。来年もこの合宿に参加したいなと思いました。ですが、私は来年先輩方のように後輩をまとめられるような頼れる先輩になれるか不安なのであと約半年、先輩の姿を見習って成長出来たらなと思いま

す。また、この合宿は私にとっての財産になったなと思い、本当に自分の糧になる時間でした。

(5班)

大東文化大学 国際関係学部 国際関係学科 4年 上野真衣

私は今回の夏合宿を通して、4年間のアカデミー活動への充足感を感じました。その理由は2点ございます。

まず1点目に、幹事長補佐、メルヘン・ヒュッテ宿舎長、イベント班と3つもの役職を頂くことが出来たことです。これらの大役を務めさせていただき、責任感のある仕事に合宿前は不安でしたし、私自身の力不足でみんなの役に立っているのか分からないときもありました。しかし、合宿前から合宿中まで、励まし合ってきた頼もしい同期や後輩のおかげで、無事夏合宿を終了する事ができ、ご采配くださった梅沢先生や同じ役職と一緒に頑張った同期や後輩には感謝してもしきれません。まだまだ私の至らなさを感じる場面もあり、やりきった達成感とまでは言うことが出来ませんが、みんなで作り上げた合宿に対する充足感のようなものを去年以上に感じました。

また、2点目に後輩たちの成長を感じられたことです。5班の1年生は、口下手で人前で話すことへの苦手意識のある人が多く、夏合宿への不安もコミュニケーションに関することが大きかったようでした。しかし、夏合宿中の宿舎での時間やディスカッション班など、ws班以外でのやり取りを楽しんでいる声を聞くことができ安心すると共に、総括で前を向いてしっかりと自分の言葉で話している様子に成長を感じました。2年生は、初めて役職についていたり、後輩へ配慮しながらの夏合宿でしたが、周りをよく見て配慮しながらも自分たち自身しっかり楽しんでいる様子に、先輩としてや2年生として、上手く切り替えて夏合宿を楽しんでいた姿にとっても成長を感じました。中でも、1~4年生のいる中、バスレクを回して全員を楽しませていたときは自分がバスレクをしていたとき以上にとても嬉しかったです。そして3年生に関しては、同じ班として1年生の時から見ている人たちが係の班長や様々な役職として夏合宿に大きく貢献しており、2年前からの大きな成長を感じると共に、来年の夏合宿で私たち4年生がいなくなった後も安心して任せられる頼もしさを強く感じました。

以上のようなことから、今回の夏合宿に対してとても充足感を感じましたが、先程述べたような後輩たちの頼もしさは、卒業する寂しさも同時に感じました。4年間毎年恒例行事であった夏合宿が今年で最後であると考え、毎年苦手だった山登りや、悩まされた虫刺されにもなんだか愛着が湧きます。後期の残りのアカデミー活動では、自分の為にも後輩たちの為にも、自分の出来ることをやりきって、私たち同期の卒業後のアカデミーのために貢献出来れば良いなと思いました。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 3年 山本新奈

私は今回の夏合宿を通して、感じたことが3点あります。まず1点目は、先輩の偉かさです。私は夏合宿準備から当日の4日間、大変忙しい中でもしっかりと仕事をこなす先輩方の姿を間近で見えてきました。幹事長であった出崎さんをはじめとする四年生の先輩方は、私たち後輩に対して常に笑顔を絶やさないで接してくださいました。私は、自分に対する自信のなさが周りに伝わってしまう時があります。しかし皆を引っ張る立場になった場合、それは下の者にも不安を与えてしまいます。「この先輩についていきたい」「この先輩は頼もしくて安心できる」と思ってもらうためにも、笑顔を絶やさないことが大事になるのでは、と今回四年生の姿を見て感じました。

2点目は、後輩の頼もしさです。今回私はぴあろっきーの部屋長を努めさせて頂きましたが、その中で、食事の準備や入浴時間など非常にスムーズに行うことが出来ました。それは、1, 2年生が5分前行動を心がけてくれたり、指示をしっかりと聞いてくれたりととても協力的だったからです。また、3, 4年生が忙しくしているときは、ぴあろっきーの生活班と移動班の2年生が積極的に動き、各班の務めをしっかりと果す姿が見受けられ、後輩の頼もしさを感じた夏合宿となりました。

最後に3点目として、組織で動くことの大変さです。私は、撮影班の班長として夏合宿に参加しました。今年の撮影班は、4年生がいなくなってしまったため急遽移動班の新井さんに兼任して頂いたり、カメラ経験者が少なかったりと不安要素が多く、班長としてうまく皆を引っ張ることができるかととても不安でした。また登山では、学年写真や頂上での班ごとの撮影においていかにスムーズに誘導できるかという点で、何度も当日の動きを考え練り直すなど苦労しました。その中で、移動班に協力を促すなど約200人をスムーズに誘導することを徹底し、当日は指示通りにてきぱきと動く撮影班の2年生や、移動班の素晴らしいチームワークのおかげで、各撮影の誘導をうまく行うことが出来ました。そしてアカデミー生一人一人の協力もあり、無事登山を終えることができました。

これら3点から私は、夏合宿が充実したものであったと感じています。たくさんの人の協力や連携があって夏合宿は成功するものなのだということが分かりました。今後のアカデミー活動では、この4日間で得た新たな人脈をさらに深めて、より切磋琢磨できる場にしていきたいと思います。来年は私たち3年生にとって最後の夏合宿となるので、同期とともに悔いの残らない最高の夏合宿にしたいです。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 2年 斉藤和幸

私は戸隠に到着した時、ふと昨年一年生として参加した夏合宿を思い出すと同時に、「自分は今年の夏合宿のためにどんな準備をしてきたのか」を振り返りました。そして、これから

始まる 3泊 4日の夏合宿を最高の思い出にしよう、と強く思いました。また去年の夏合宿では私は、先輩方の総括を聞いて「来年こそは自分の力で夏合宿の思い出を作り上げるのだ」と強く決意した記憶が残っており、4日目にある総括を迎える時、自分はどんな思いでその場に立っているのだろうと、とてもドキドキした思いを巡らせていました。

そんな気持ちで参加した夏合宿は去年とは見えてくる景色が大きく異なりました。去年は友達を作ることに必死でただただ楽しく充実した時間を過ごしたのに対し、今年是一年生が友達を作りやすくなるようなや、夏合宿を楽しみと思える時間を提供した上で、みんなと夏合宿の思い出を共有したいという思いで過ごしました。また、充実した時間を過ごすためにどうしたら良いかと考える機会が多くありました。そのため、運営する上での先輩達の姿や、自分の行動でたのしんでくれている一年生をみて、去年とは違う視点から頑張ることや目標を明確にすることを意識し、目まぐるしく変わる状況を把握して行動することを意識していました。そういった行動を続けているうちに自分の至らない点や反省すべき点多く見つかりました。また、自分の行動で楽しかったと言ってくれる後輩から自分の成長ややりがいを感じた夏合宿でした。

こういった思いを持って立った総括では、大変だったことや楽しかったことなどを思い出して感極まる場面も多かったのですが、やはり強く思ったのは先輩への感謝と来年への決意です。先輩方と作り上げた夏合宿が成功で終わり先輩方の偉大さを改めて実感し、そんな先輩方への恩返しは、やはり来年は先輩方の作った夏合宿を超えるものを作り上げるのが重要なのだと思い、来年がほんとに楽しみになりました。

夏合宿を通して偉大な先輩方の姿を目の当たりにすることができ、また一段と成長することができたのではないかと強く実感することができました。またこれからもっと成長をつづけ来年は先輩が作った夏合宿よりも最高の夏合宿を完成させることで先輩方へ感謝の思いを伝えたいと思います。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 2年 佐藤大地

今回夏合宿に参加させて頂いて僕が感じたことは、責任感が増したことです。去年の夏合宿では1年生の立場で、日大、大東、先輩、後輩関わらずたくさんの人脈をつくって、楽しもうという気持ちで挑みました。しかし今回は、部屋長とイベント班という役割を頂いて準備の段階から、去年とは違うことを感じていました。部屋長としては、部屋の人が僕以外みんな日大生でしっかりコミュニケーション取れるか不安だったのですが、同部屋の1年生が積極的に行動してくれたおかげですごく仕事がしやすく無事に問題が起きることなく終わることができました。イベント班としては主にバスレクの司会とキャンプファイヤーでの機材を担当させて頂きました。バスレクは夏合宿の1番最初のイベントだったのでプレッシャーが大きくて緊張して拙い司会だったのですが、盛り上げようとしてくれる同期や先輩のおかげで楽しいバスレクになったのでよかったです。キャンプファイヤーでは、機材係

として3、4年生の先輩に1からすべて教わり来年の子に教えてあげられるようになるくらいまで抜けのないように覚えました。また、キャンプファイヤー中に発電機が止まったり、マイクの電源が入らなかつたりといった突然のハプニングにも冷静に対応する4年生を間近でみて、僕もこのような対応をとれるようになりたいと強く思いました。来年は、今年みた先輩達のかっこいい背中を自分が後輩に見せられるように頑張りたいです。今回の夏合宿を通して改めて僕は同期や先輩、後輩などたくさんの人に支えられているのだと実感しました。最後にこのような素晴らしい体験をさせていただいた梅沢先生に心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 2年 野口智哉

私は今回2回目の合宿参加でした。去年の合宿も今年の合宿もとても楽しかったのですが今年の楽しいと去年の楽しいは少し違うような気がしました。去年はただ楽しむ、楽しませてもらったという感じでしたが今年は合宿をつくっていく側というか1年生を楽しませる側に回れたのではないかと思います。私は今回の合宿で生活班という役職を頂いたのですが、最初はなにをすればいいのか分からなくて色々戸惑っていましたが先輩達に支えてもらい生活班の仕事が分かってきました。今回の合宿は行きバスから帰りのバスまで全てがとても楽しかったです、特に山登りとキャンプファイヤーはとてもいい思い出になりました。

今回の合宿で、自分は先輩達からたくさんことを学びました。来年はその学んだことを生かして自分達が引っ張っていけるように頑張りたいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 2年 渡邊真由

夏合宿に参加して、1年生のときとは違い、多くの人がそれぞれ生活班・移動班・撮影班・イベント班などの役職に所属していたり、宿舎でも2、3、4年生がうまく連携をとって円滑に物事を進めたりと、責任をもつ場面が増えたように感じました。

私は今回イベント班に所属になりました。夏合宿が始まる前に何回も集まりみんなが楽しめるようにと考えている姿、夏合宿中イベント班や全体をまとめている先輩方の姿をみて、とても偉大に感じました。こんなにも大きな組織をまとめ上げるのは簡単なことではないのに、それをやってのける先輩方の姿を間近で見ることが出来たのは、とても貴重な経験であり、私もこんなふうになりたいな、と思いました。

先輩方に誘っていただき夏合宿の参加を決めたのですが、今年の大東側の2年生の夏合宿への参加率が悪く、仲の良い同期も来られないことをとても心細く感じていました。でも行ってみると、仲の良い同期がいないことを思い出してしまう瞬間もありましたが、先輩方・同期の支えがあり、とても楽しく自分の目標を見つけることのできた貴重な3泊4日でした。

た。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 内田陸斗

今回の3泊4日の合宿に行く前はwi-fiが使えなかったり、エアコンがなかったり、山登りが大変と先輩方がおっしゃっていたので、楽しみと不安が両方ありました。結論として行った最後は、楽しかったと思いました。理由としましては、まず、あぜりあで一緒に大富豪や食事をしていただいた皆さんに感謝しています。また、同じディスカッション班、ワークショップ班の皆さん、こんなダメダメな自分でしたがありがとうございました。最後にこの4日間の感想です。時には楽しみ、笑い、そして時には怒られという4日間でしたが、その全てが自分の成長に繋がったと思っています。本当にありがとうございました。

大東文化大学 法学部 法律学科 1年 大辻健太

同大学の学生だけでなく、他校の学生とも交流することが出来て良かったです。交流するだけでなく、2大学共に多くの友達を作ることも出来たので良かったです。ホテル滞在中やキャンプファイヤーなどの多くのイベント時には、イベント班や撮影班、移動班などそれぞれ与えられた役職を見事にこなす先輩達の姿を見て自分も先輩方のような先輩になれるように頑張りたいと思いました。また移動時に、しっかりとみんなをまとめ上げている先輩方の姿は、見習うべきものであり、自分も後輩をまとめ上げるしっかりとした先輩になりたいと思いました。総括では、先輩方の素晴らしいお話を聞いて、後輩に慕われる先輩でありたいと思いました。最終的には、この先輩がいてくれて良かったと思ってもらえるような先輩になれるよう努力していきたいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 室伏杏美

今回の合宿を通して、同じ大学内だけでなく他大学の人達と交流することによって、自分の視野の狭さや、将来初見の方と交流する際の練習の場として経験をつむことが出来ました。宿舎滞在中や、キャンプファイヤー、山登りなどのイベントでは、先輩方の偉大さが分かりました。人数が多い中多くの人をまとめていただき、初めての山登りでは正直辛かったですが、同じ班の先輩たちの励ましのお陰で、頂上まで辿り着くことができました。キャンプファイヤーでは、私たちが楽しめる様に事前から色々と考えて下さるなど、大変さが分かりました。私も来年は、そのような役職をもらい後輩から同じように尊敬される先輩となれるようになりたいです。

(6班)

大東文化大学 法学部 法律学科 3年 小笠原将冬

私は夏合宿に参加するのは3回目です。3年生の立場ということで責任のある立場となり、夏合宿に参加しました。私は3泊4日という短い期間を経て感じたことが沢山ありました。まず1つ目に、準備期間も含めてこれほどの時間があったという間に過ぎてしまうものなのかと改めて感じたことです。4年生の先輩方から吸収すべきこと、自分から気づき動かなければいけないこと、自分にはまだ沢山の課題があるのだと感じました。2つ目は多くの学生が存在する中で同じ方向を向けることです。最後の夏合宿を成功させたいという4年生、今までお世話になった先輩方を全力で支えようとする3年生、初めて役職に就き、その重みを感じながら初めての事をする2年生、大学の枠を超え、人脈を広げて友達を増やしたい1年生など、このサークルには自分と違う考え方で夏合宿に参加し、社会人交流会に所属している人が沢山いるのだと感じました。その中でこの夏合宿をより良いものにしようとする、そのような意識と目標を一人一人が思っていたことによって夏合宿は成功したのだと思います。来年は4年生になるので今年の夏合宿に負けないよう頑張りたいと思います。最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生に心より御礼申し上げます。本当に有難うございました。

大東文化大学 文学部 教育学科 2年 浅子かすみ

今年の夏合宿は初めての後輩もいるという去年とはまた違った合宿になりました。今まで全く絡みの無かった1年生と山登りや宿舎などで話すようになり、ずっと話してみたいかったです！とか写真とりましょう！とか会う度にかすみさんと、声かけてくれるのがとても嬉しくて改めて後輩ってかわいいなあと思いました。役職がなかった分、新規の同期や後輩との交流の時間が増えたのはよかったです。その分他の役職あった同期たちも、去年とは全然違って一人一人が責任をもって自分の仕事をこなしているのを見て素直にすごいと思ったしもっと自分も頑張らなきゃいけないなって思いました。来年はもっと楽しい合宿になるように自分も積極的に行動して行きたいと思います。

大東文化大学 経済学部 現代経済学科 2年 高山裕也

昨年の夏合宿とは違って今回の夏合宿は移動班という役職を与えられ、運営側として参加したことで全く違う感覚でした。一年生のときはこんなにも先輩方が裏方で動いているとは思いませんでした。夏合宿の前から入念に準備をして班の中で縦と横の繋がりが強くなっていくのを感じました。宿舎間の移動の整列や先導、付き添いが主な仕事で先輩に注

意されることもありましたが、誰も怪我や事故なく合宿を終われたことに安心感と達成感を感じました。今回の夏合宿では同期との中がより深まったことが一番の収穫でした。同期会では普段はしないような深い話をして今まで以上に打ち解けることができました。後悔したことは後輩とあまり話せなかったことです。後期の火曜アカデミーからは積極的に後輩に話しかけて信頼される先輩になりたいです。

この合宿が成功したのもペンションで働く方々、幹事の先輩方、そして梅沢先生のおかげです。ありがとうございました。これからもアカデミーの力に少しでもなれるように成長していきたいと思います。

大東文化大学 法学部 政治学科 1年 高野泰生

私は火アカでの夏合宿に関する説明を聞いたり、合宿中の写真を見たりするまで合宿に参加しようとは思っていませんでした。しかし、火アカで合宿のことを聞いて参加しようと思いました。実際、参加して良かったと思っていますし、とても楽しかったです。登山での体験やディスカッションなど普段体験できないことなので、その良さは実際に参加してみないとわからないと思います。

私のこの3泊4日で最も印象に残った思い出は3日目の夜の全体飲み、同期飲みです。ここでは先輩、後輩がごちゃ混ぜにお酒を飲みながら合宿での思い出や大変だったことこのアカデミーについてのことなど色々なことを話しました。ここでたくさんの人と話し仲良くなれました。もちろん登山やグループディスカッション、宿舎での交流会も良い思い出となっています。

そんな合宿の中で私はたくさん得られたものがあります。それはまず、友達です。大学では中学、高校のようにずっと同じ人というわけではなく友達もサークルに入って自分から仲良くなりに行くしかありません。しかしすでにグループが出来てしまっていたり、先輩であったりすると話し掛けにくく仲良くなりにくいですが、この合宿では先輩、後輩関係なくランダムに参加させられたたくさんの人と話す機会を得て人脈を広げることが出来ました。

次に、人前で話す機会を与えてもらったことです。合宿中何度か発表をし、自分の意見や班の意見を人前で発表することがありました。それはただ大学に通っているだけではそのような機会はまず無く、ましてや普段生活している中では経験できないものです。その様な貴重な機会をこの合宿では得ることが出来、人前で話すことに以前よりは慣れ、自分の成長を感じました。

そして、たくさん先輩達がこの合宿をより良くしようと自分の仕事を夜遅くまでこなしていることをみて改めて先輩方を尊敬をすると同時に次は自分も先輩達のように役職をもらいアカデミーに貢献したいなと思いました。そのためにまず、後期では自分のことをもっと積極的に参加し、信頼を勝ち取りたいと思います。

今回夏合宿を企画、運営して下さった先輩方、またこのアカデミーを開催し、たくさんの素

晴らしいお話を聞かせてくださる梅沢先生ほんとうにありがとうございます。来年もまた夏合宿に参加したいです。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 1年 平井直樹

今回の合宿、私は当然初めての参加だったのですが、とても楽しみにしていました。人数が多く、お互いの顔も名前も知らない人がまだまだたくさんいるなかでの参加ですが、これを機にまだ話したこともない同期や先輩方と話す機会があり人脈が広がるいいチャンスだと思ったからです。加えて、日本大学との合同ということで、さらに知らない人と話す機会が増え、自分にとってプラスのことしかないと行く前から確信していました。実際に行ってみると、最初はやはり初対面の人と話すので緊張しましたが、特に先輩方が優しく話しかけてくださったので、その緊張もすぐに消え、たくさんの人と話すことが出来ました。また、班での登山は人数の少ない班ですが、全員で登り切ったことで達成感を得ることが出来ました。今まで仲が良かった人達ともより絆を深めることが出来たし、同じ大学、同じサークルに入っていながらも話したことの無い人や、日大生とも仲良くなることが出来たことが私にとっての夏合宿の一番の思い出です。他にもイベントが多いこの合宿で、様々な係で先輩方が動いている姿や、ディスカッションで堂々と発表している同期をみてとても刺激になりました。とにかくもう一度この合宿に参加したいと思いました。来年は自分も先輩方のように仕事を任せられ来年来た1年生にもまた来たいと思って貰えるような合宿を作りたいと思いました

(7班)

大東文化大学 経済学部 現代経済学科 3年 大峰脩季

私は、今回の夏合宿を通して、先輩の偉大さ、同期の頼もしさ、後輩の成長を身をもって感じる事ができました。そして、今の自分がいかに恵まれた環境にいるのか、周りに支えられているのかを再認識する事ができました。

私が夏合宿中一番意識していたことは「常に周りを見て行動する」ことです。

夏合宿で周りをよくみると、人のためにテキパキ動いている人や、見えないところで動いている縁の下の力持ち、周りとの連携を取って大きな影響を与えている人、自分の仕事ではないのに自主的に動いている人など、いろんな先輩や同輩、後輩がいることに気づきました。

そんな、自分は考えもできなかったことに取り組んで、周りに貢献して頑張っている人たちをみて、「すごいな、まだまだ学ばないと」と思う反面、悔しいという気持ちが湧き出してきました。

来年はこの悔しさをばねに、最高学年としてみんなを引っ張っていけるような先輩になり

たいと考えています。

また、今回の夏合宿で、WS7班はより賑やかで大家族のような班になったと感じました。

ふとした時に7班の新規生の子と目が合うと、安心した様子で近づいてきてくれ、山登りでは、新規生と既存生がふざけあってみんなで一緒に笑っている様子が伺えました。

夏合宿終えた帰り道に、7班の新規生に直接感想を聞くと「楽しくて、まだあと2日くらい延長したい。7班だったから楽しめました。」と嬉しそうに言ってきて、私自身とても感動しました。これからも、さらに7班の親睦を深めることができるよう、尽力して参ります。

最後に、1,2年生の頃と比べ、仕事や役職に対する責任感や影響も大きく、不安も一杯でしたが、今年の夏合宿は先輩や、同輩、そして後輩と沢山交流し、忘れられない思い出ができ、そして周りの成長、自分の成長を感じることができた、とても充実した3泊4日になりました。

このような、貴重な体験をさせて頂き誠にありがとうございました。

これからもご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 3年 山口麗

夏合宿に参加するのも3年目となりましたが、変わらず先輩方がとてもすごいと感じました。私は2年生の頃からイベント班を努めさせていただいていますが、今年もイベント班を任されることになり、今年はキャンプファイヤーの大役である司会をまかされました。最初はとても不安でしたがイベント班班長の吉田まゆさんの支えもあり、無事に成功し、みんなを楽しませることができたと感じています。それとともに大きな達成感を得られることができました。途中で諦めることなく、やれてよかったと思っています。また、来年は4年生となりイベント班を引っ張っていくこととなります。私も今年の4年生みたいに指示を出せるか不安ですが頑張りたいと思っています。最高の2泊3日になりました。ありがとうございます。

大東文化大学 経営学部 経営学科 2年 伊藤達哉

今回の夏合宿では先輩や同期との交流だけではなく後輩との交流も増え、より楽しくいろんな人と話せて楽しかったです。梅沢先生が言っていた、学年が変わるごとに違う景色が見えてくるというのが改めてわかりました。今回の夏合宿では、今まであまり話すことをしていなかった7班の1年生とたくさん話せて、自分の班の一年生の良さに何回も気づかされました。とても嬉しかったことは、7班1年の久保田が1番話しやすい先輩と言ってくれたり、石井がとても手紙良かったですと言ってくれたり、他にもたくさん後輩が自分に先輩先輩って言ってくれたことでした。今回の夏合宿に来て良かったなと思いました。来年はも

っと後輩ができるので先輩らしく見本になれるような人になりたいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 2年 北浦賢人

今年の夏合宿は去年と違い、得るものが多かったです。1つめの去年と違う点は、後輩がいるということ。特に部屋の中で、部屋長としていかに後輩を盛り上げていくか、楽しいものにしていくかというのを常に頭の中で考えながら振る舞うようにしていました。初日と最終日には、部屋のメンバー全員で話し合う機会もつくり、みんなで仲を深め合えたので良かったと思います。2つめは役職があるということ。私は移動班という役職をいただいたのですが、他宿舎への移動や、イレギュラー対応が沢山あったため、臨機応変に行動することが多々ありました。その中で、先輩方のLINEの全体グループや班長の方への報告、連絡、相談の徹底ぶりを間近でみて大変驚きました。また、自分もそれについて行かなくてはならないということで、焦りも感じました。来年は自分も先輩方のように後輩に何かを考えさせられる立場になりたいと切実に思いました。3つめは他大学との交流が増えたこと。去年、夏合宿や秋季ワークショップ、謝恩会などで出会った日大の沢山の仲間と夏合宿で再会し、さらに仲を深め合うことができました。3日目夜の同期会という機会でも、それをはっきりと実感することができました。去年1年を通して、大東側の同期とは全員友達になり、懇親会などのイベントの準備や仕事などをする時にとってもやりやすさを感じました。今年はその輪を日大側にも広げ、アカデミーの同期全員と友達になれば、大東、日大合同での動きもとてもスムーズにできるのではないかと思います。今年の目標は日大の同期全員と友達になることです。

以上の3点のように、今年の夏合宿は先輩、後輩、同期からたくさんのもので得ることができました。とても有意義な時間を過ごすことができました。

大東文化大学 経済学部 現代経済学科 2年 竹部弥拓

今年で2回目の参加だったのですが、撮影班に指名していただいたということもあり、去年とはまた違った意味で充実したものとなりました。特に印象に残っているのは、橋本様に同行させていただいたことです。奥社の杉並木の壮観は素晴らしいものでした。梅沢先生に指名していただけたことで、橋本様と2人で話す時間が多くでき、とても充実した時間を過ごすことができました。

また、ディスカッションで3年生の飯田さんと一緒に活動したことで、3年生と私との実力の差をはっきりと実感し、今後のアカデミー活動により精力的に取り組もうと思いました。

この夏合宿では、モチベーションの向上の他、様々な人の価値観に触れることで今までの自分になかった新たな考えが生まれ、人間力の向上にも繋がったと思います。

大東文化大学 経営学部 経営学科 2年 外山雄大

私は2年新規ということで、初めて合宿に参加させていただきました。正直、私は合宿に行こうか迷っていました。2年生の友達から合宿で友達ができたので行った方がいいよ、教えてくれたので、とりあえず参加してみました。

自分が今回の合宿の中で特に印象に残ったのは、ディスカッションです。全然知らない大東生や日大生が班になり、自分がその中でしっかりと意見を言えるか心配でした。しかし、3年生の先輩が積極的に声をかけてくれたおかげで、その場に打ち解けることができ、緊張することなく意見をすることができました。それぞれのディスカッションで代表になった1年生が全体の前で堂々と発表している姿を見て、新規とはいえ2年である私は刺激を受けました。

合宿の中でディスカッションや同じ宿舎の人との関わりを通して、合宿前に比べて人前で話すことが慣れたと思います。その様な面で自分は合宿を通して成長できたと思います。

大東文化大学 経営学部 経営学科 2年 逸見徹

夏合宿では最初は参加者が200人を超えることや宿舎の人や部屋の人、ディスカッションでの班の人とうまくやれるか心配でした。しかし、同じ部屋の先輩が積極的に話しかけてくれたところから緊張が一気に解けて自分からも先輩、後輩関係なく話しかけることができました。その結果、学年、日大、大東関係なく多くの友人ができました。また、総括では多くの人が涙を流しながら話すところを間近に見て改めてこのサークルの活動が大学生活を豊かなものにするのかを再確認することができました。このことからこの合宿は自分にとってとても充実したものにできたのでよかったです。

大東文化大学 社会学部 社会学科 1年 石井智也

日々の活動や懇親会などで、先輩方が優しく声をかけてくださるので、先輩方とは話すことも多かったのですが、同じ学部が社会人交流会に少ないこともあり、他の班の一年生はほとんど話したことがなく、顔見知り程度の人ばかりでした。なので、夏合宿では自分から積極的に、先輩同輩構わず話しかけていこうと心掛けました。日本大学の人ともたくさん話して交流を広げられたらな、と考えていました。

一日目の自己紹介では、日々の活動でよく発表をさせていただいているので、思っていたよりも緊張をせずに、しっかりと話すことができ嬉しかったです。そして宿舎では、先輩同輩、同性異性関係なく、たくさんの人と話することができました。

二日目の山登りは最高でした。自分は7班が大好きだな、四月に大峰さんに声をかけていただいていた本当に良かったな、と心から思いました。確かにきつかったけれど、皆で支え合いな

がら写真撮ったり話したりしていると頑張ることができました。下山している時はすごく気持ちよかったです。

キャンプファイヤーもとても楽しかったです。ここでは同期の男と話す機会が多かったかな、と思います。何より、伊藤さんと大峰さんがめっちゃくちゃかっこよかったです。

懇親会でも同期とたくさん話せて良かったです。

三日目のディスカッションでは、前に出て発表をさせていただきました。自己紹介の時とは違い、とても緊張しました。でも、班員が「良かったよ！」と声を掛けてくれて7班の先輩方が褒めてくださったので、自分の自信に繋がりました。また、大東だけでなく、日本大学の皆さんとディスカッションができたことも、良い経験になりました。

そして、打ち上げでの同期会がとても楽しかったです。ずっと笑っていたし、仲良くなれた人達と話している時間が心地よかったです。仲良くなった人たちでライングループを作ったので、早くみんなと遊びに行きたいです。

四日目の総括でも、緊張せずに話すことができました。この合宿を通して、一点を見つめるのではなく、周りを見ながらハキハキ話すことが少しできるようになった気がします。まだ少し早口になってしまうので、これからも注意していきたいです。先輩方の総括を聞いていたら、何度も目頭が熱くなりました。それくらい感動したし、改めて社会人交流会を続けよう、頑張ろうと思えました。

夏合宿に参加してみて今思うことは、本当に参加して良かった！これに尽きます。たくさん思い出ができたし、たくさんの人と交流することができたし、7班のことをより好きになりました。そして先輩方がとてもかっこよかったです。見えるところでも見えないところでも先輩方が動いてくださっているからこそ、私たちは楽しく合宿を過ごすことができたのだと思います。こんなに素敵な先輩方の後輩になることができて幸せだし、来年もし役職をいただけることがありましたら一生懸命頑張って、この素晴らしい夏合宿に少しでも貢献したいな、と強く思いました。今から来年の夏合宿が楽しみです。

大東文化大学 経済学部 現代経済学科 1年 小田諭輝

夏合宿についてアカデミーでたくさんの既存生の先輩方から話を聞いているときからこの夏合宿についてとても楽しみにしていました。親しくない人たちばかりで不安だという思いもありましたが、最終的には全ての先輩方が行ってよかったと答えていたため、それほどよいものなのかとも思いながら胸を弾ませていました。結論から言うと最高でした。

特に、日大の人たちと交流ができるだけでなく、大東側で全く接点がなかった先輩や同期と話す機会が多く、同じ班の人としかほぼ喋ったことがなかった自分には他班にも自分の居場所をつくることができました。また、仕事をこなす先輩方、総括で泣き崩れる先輩方の姿を間近で見て、自分もあ場で泣いてみたいと強く思いました。そのため、これからのアカデミー活動により一層力を入れていきたいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 久保田麗生

3泊4日という期間を経て、今までにない貴重な体験をいくつも経験しました。その一例として私が挙げるのは、その日初めて出会った人と部屋、食事、ディスカッションを共にし、新たな視野を広げることができたということです。私は普通の人よりも人見知りが激しく少しずつ関係の距離を詰めなければ会話すらろくに出来ない性格でした。ですが、この度の合宿においてなにか学ばなければと思い私は自分自身の目標としてこの人見知りの克服を目標として掲げていました。先に言ってしまえば結果からして目標は達成出来たと思います。多くの人と会話を交わし食事を共にし、キャンプファイヤーや山登りでも人脈の輪を広げることができました。しかし、それは今回社会人交流会という名目のもと皆が来ているので、その人たちは自分と同じ或いは似たようなことを考えて来ていたと私は考えています。そのせいもあり成功するきっかけになったと思うので、この先、社会に出てこのような機会だけではなく本当に自然な状況になった時にもお互いを知らない人と積極的に話が出来ようよう精進しようと思いました。とても楽しかったです。

大東文化大学 法学部 法律学科 1年 高祖慶菜

私は合宿に行く直前は、周りがみんな知らない人という環境の中で3泊もするのは疲れてしまいそうだなと考え、少し乗り気ではありませんでした。しかし、そんな環境だからこそ普段話さない先輩や同期と話ことができ、交友関係を広げられたのでとても満足し、今は参加してよかったと感じています。実際かなり疲れたのですが、山登りやキャンプファイヤーは滅多にすることがないことなので、とても楽しくて夏休みっぽいなと思いました。来年も合宿に是非参加したいと思いました。

大東文化大学 法学部 法律学科 1年 佐藤桜子

今回の夏合宿に参加して、本当に楽しかったです。特に、山登りと宿舎生活が印象的でした。山登りでは、はじめは本当に登るのに抵抗があったのですがWS7班の先輩達と登れて良かったです。途中途中荷物を持ってくれたり、手を貸してくれたりで先輩達がいなかったら頂上まで登れてなかったと思います。ラストスパートが本当に辛くてキツかったです。でも楽しかったです。

宿舎生活では、WSの人達と1人も一緒になくて不安と緊張で山々だったのですが宿舎の人達がとてもいい人で大東・日大の同期・先輩みんなと仲良くなれました。みんなフレンドリーで接しやすかったです。同じ部屋の先輩も以前から知っていて話したことがなかったので不安だったのですが声をかけてみたらとても話しやすく面白い先輩で仲良くなれまし

た。今回の合宿を通じて、沢山のひとと絡むことができ、友達もできてよかったです。自己紹介や総括でも大勢の前で話したことで人前で話すことに抵抗がなくなりました。また来年も参加したいです

大東文化大学 経済学部 現代経済学科 1年 米田匡祐

自分は3日目からの参加でした。途中参加だったので馴染めるのかとてつもなく不安でした。しかし、同期の人や先輩たちが優しく声をかけてくれたおかげで溶け込むことができました。

ディスカッションの課題が難しくなかなかいい解答が思いつきませんでした。そのため、班の人に迷惑をかけたと思います。その時先輩達のサポートに助けられました。改めて先輩達がすごいと思いました。

ディスカッションの後の打ち上げではいろんなひとと話すごうことができよかったです。日大の人達は大東生にはない個性豊かな人が多かったので面白かったです。また、同期会で普段見せない一面も見ることでより仲が良くなったと思います。

総括では先輩達の話でもらい泣きそうほど感動しました。特に4年生の話には心に響きました。この総括を通して先輩達の偉大さを感じるすることができました。自分も来年は何かの役職について先輩達をサポートしたいなと思いました。

この合宿を通して日大生と仲良くなれて良かったと思いました。また、普段話さないひとと話すごうでき良かったです。先輩達の凄さを感じるこゝのできた合宿でした。途中参加でしたが、内容の濃い合宿を送れたと思います。

(8班)

大東文化大学 経済学部 社会経済学科 4年 高野直紀

私にとって4回目の今年の夏合宿は、最後にして、とても忘れられない最高の思い出となりました。今回、私は高妻ロッヂの宿舎長とディスカッション班という役職に就かせて頂き、夏合宿に参加しました。これまでの夏合宿以上に重要な役割に就かせて頂いたので、しっかりと役割を全う出来るか不安でした。高妻ロッヂの宿舎長としては、初日から責任の重さや不安を感じながらも、生活班の方々を初め、宿舎の皆の協力の元、無事に3泊4日の夏合宿を乗り切る事が出来、とても達成感でいっぱいになり、高妻ロッヂの宿舎長として携われた事を嬉しく思いました。ディスカッション班では、去年から一緒に活動してきたメンバーと今年から加わってくれたメンバーとで、準備の段階から協力しあいながら、当日もスムーズに連携を取りながら、初日の自己紹介や3日目のディスカッション、最終日の総括を運営する事が出来、とてもやりがいを感じる事が出来ました。このディスカッション班のメンバー

と準備から当日まで一緒に活動する事が出来て良かったです。また、今回の夏合宿では、今までの夏合宿以上に多くの人と関わる事が出来たと思います。今まで話した事無かった、1年生を初めとする人達とたくさん話をする事が出来、更にこれまで一緒に活動してきたメンバーとも山登りや打ち上げ、同期会等を通して仲を深める事が出来たと思うので、良かったです。夏合宿で出来た繋がりや深められた繋がりを、今後も継続していけたらと思います。今回の夏合宿を通して、改めて縦と横の繋がりや深さを感じる事が出来、4年間アカデミー活動を続けてきて良かったと思いました。4年生という事で、残り少ないアカデミー生活を思いっきり楽しんで、悔いの残らない充実したものにしていきたいと思います。最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。

大東文化大学 経営学部 経営学科 4年 當麻雄一郎

今回4回目ということでアカデミー生活最後の夏合宿でしたが、一番充実していて、楽しい夏合宿でした。最初のバスレクから去年1年生だった班の後輩がなんとかみんなを楽しませようとがむしゃらに頑張っているところを見て、1年で人はこんなにも成長することができるものなのかと衝撃を受けました。また、班の1年生が夏合宿前は班内の人たちとばかり話していた子たちが他班の人たちと楽しそうに話しているのをみて、とても嬉しくなりました。今回の夏合宿で私は随所で後輩の成長を感じることができ、一人で感動をしておりました。またこの夏合宿で初めて話す事ができた後輩たちがたくさんいるので、これからのアカデミーがより楽しみになりました。残り半年と少なくなりましたが、後輩に自分が伝えることができるアカデミーの魅力色々な形で伝えていきたいと思っています。

大東文化大学 文学部 日本文学科 3年 石井秀弥

私にとって今年の夏合宿は、今までで一番充実したものとなりました。私は、今年の夏合宿では、昨年に引き続きディスカッション班という役職に就いたのに加え、WS8班の班長も兼任していました。ディスカッション班の仕事は、主に初日の自己紹介、3日目のディスカッション、4日目の総括の際に使用するブルーシートの設置や誘導、時間管理などがありました。私は去年も経験していたこともあり、誘導と整列の全体管理を行いました。初日は少し問題点が起きて苦労しましたが、3日目以降には改善でき、結果的には成功しました。

8班では、2日目の山登りにはしっかり班員と関わる事が出来ましたが、初日の自己紹介や最終日の総括では、仕事のためあまり班の新規生とか変わることが出来ず心配でした。しかし、班の2年生が私がいなくても、しっかりと動いている姿を見て、感謝するとともに、成長したなと感動しました。

夏合宿に行く前は、責任が重くなった仕事を全うできるか、班員が来て良かったと思えるような夏合宿に出来るか、とても心配でしたけれども、結果的には仕事もスムーズに行き、新

規生からも「夏合宿に来て良かった」との声が挙がり、頑張った良かったなと思いました。後期アカデミーでも、しっかりと8班の新規生を定着できるよう頑張っていきます。

大東文化大学 経営学部 経営学科 3年 小林晋也

今回の夏合宿は昨年とは違った感覚の夏合宿となりました。3年生ということで後輩と関わる機会が増えました。宿舎のめるへんひゅってでは食事やトランプ、3日目のディスカッション班では大東・日大関係なく多くの後輩と仲良くなることができました。3泊4日を通して多くの後輩と交流できてとても楽しかったです。私と関わってくれた後輩達に感謝しています。さらに、2日目の山登りでは8班で和気藹々とした雰囲気ですべて登山しました。また、昨年に引き続きイベント班に就かせて頂きました。準備期間では設営に必要な音響機材の借用やキャンプファイヤーの全体の流れなどを確認しました。みんなに楽しんでもらうにはどうすればよいのかということを考え、イベント班で話し合いました。そして、当日のキャンプファイヤーは大成功しました。私がキャンプファイヤーを通じて感じたことは、仲間の大切さです。今回のキャンプファイヤーは1回機材トラブルが発生しました。私は一瞬焦りましたがイベント班全員で対応しているのを見て、先輩・同期・後輩の存在を大きく感じました。宿舎に帰ったときの懇親会で新規生から「キャンプファイヤー楽しかったです」と言ってくれたのでとても嬉しかったです。イベント班でよかったと感じました。今回の夏合宿は4年生と過ごす最後の夏合宿でした。夏合宿を通して4年生の偉大さを感じました。4日目の総括ではお世話になった4年生の姿を見たら思わず涙を流してしまいました。来年は最後の夏合宿になるので、悔いを残さないようにアカデミー活動に精進していきます。

大東文化大学 文学部 英米文学科 2年 井野口奈海

夏合宿は、山登りはとても辛かったけれどとても楽しかったです。バスレクや同じ宿舎での親睦会、キャンプファイヤーや同期会など、たくさんの方の振り分けられたお仕事のおかげで事故もなく安全に楽しめたのではないかと思います。先輩方や同期のおかげで大成功しました。また、今回の夏合宿を通して、他大学との交流の大切さと自分から話す積極性の大切さを心に強く感じました。同じ大学で初めて話した人や他大学の上級生など、色々な方がいましたが、自分から積極的に話しかけることができたのではないかと思います。自分から話しかけることによって、その人の内面を知ることができ、偏見だけで終わらないことがとても良いと思いました。そして相手がこころよく対応してくれたおかげで会話のキャッチボールが続き、相手のことをより深く知ることができたと思います。やはり人脈はとても大切な事だと実感したので、今回できた繋がりをこれからも途絶えさせないように大切にしていこうと思いました。

大東文化大学 社会学部 社会学科 2年 酒井智萌

まず、私は金銭面のこともあり、行くか悩んでいました。しかし、この夏合宿に参加して心から良かったと感じています。

理由は3つあります。一つ目は、自分に自信がついたことです。200人以上の前で大きな声を出して発表する機会はなかなかないので、自分に自信がつけました。2つ目は、人見知り直ったことです。宿舎の部屋、バスの中、ディスカッション班、様々なところで初対面の人と話す機会があり、たくさん自分から話しかけることができました。3つ目は、友達や先輩をより心から尊敬できたことです。普段のゼミ活動では、あまり他班の先輩や同期が活躍している姿をたくさんは見ることはできなかったのですが、今回の夏合宿で役職をもって一生懸命働いてくれているところを見て、この人たちみたいになりたいと心から思いました。

大東文化大学 社会学部 社会学科 2年 鈴木亮輔

私は今回の夏合宿に対する思いとして、不安と楽しみの2つの感情を感じていました。不安要素としては、去年は夏合宿に参加しておらず夏合宿自体がどのようなものかわかりませんでした。また、私の性格が消極的で控えめなため、初対面で日大生や関わったことのない大東生と本当に仲良くなれるのか不安でした。楽しみな要素としては、火曜アカデミーでも同期や先輩が話していたように夏合宿に対して経験したことや感想を聞いて、とても楽しい印象を感じていました。また、人間力の成長につながると言っていたので楽しみでした。実際に夏合宿に参加してみて、4日間を通して自分と先輩の人間力を含め力の差を感じました。同期や先輩はワークショップ班を含め円滑に班をまとめていたのに対し、私はまだまだ人をまとめたり、指示を出せたりできる人間ではないのでその面で力の差を感じました。しかし、夏合宿自体は私が不安要素に挙げていた事はすぐに払拭されました。初日のバスレクからとても楽しく毎日のイベントが楽しく過ごせました。ディスカッションでは、普段関わらない日大生とも意見交換でき、考え方の幅が広がりました。もう一つの不安要素であった人間関係の面では、日大生や大東生ともに初日から仲良くなることができ、また同じ宿舎の方々ともすぐに仲良くなれてよかったです。仲良くなった人とは今後も親睦を深めていきたいと思っています。最後に川越に到着してから、大東2年で同期会をしました。同期会では今後のアカデミーに対する思いなど話し、やはり同期の存在は大切だと感じました。また、今回の夏合宿は役職にも、就かせていただきました。私は会計班で夏合宿当日、直接的に関わることはありませんでしたが、この梅沢人間力アカデミーの夏合宿に少しでも関わったことにとっても光栄に思いました。会計班での活動を通して報連相の大事さを改めて知ることができました。

今後のアカデミー活動を通して、同期や先輩との力の差を埋めるために、私の憧れの先輩に近づくにはどうしたらいいかということを考えながら活動に取り組んでいきたいです。

大東文化大学 経済学部 現代経済学科 2年 和氣慧太

2年生になり去年とは違い役職も与えられ、より大きな責任が自分にあることを実感することが出来ました。また、イベント班ではいかにみんなを楽しませられるかどうか考え、それを実行し、素晴らしいイベントに出来たことをとても嬉しく思っています。そして、改めて先輩方の凄さと優しさを感じられとても感謝しています。

今回の合宿では改めて気づくことも多く、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。この素晴らしい経験を今後生かしていきより一層の成長をしていきたいと考えました。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 川内貴登

今回初めて合宿に行きましたが正直知らない人と話せるかが不安でした。しかし宿舎の食事の時に仲良くなった日大の友達とトランプをして遊んだりして、とても楽しかったです。また、知らない人との交流だけでなく、8班のみんなで登った山登りもとても印象に残っています。とても疲れましたが楽しくてやっぱり8班で良かったと思いました。また、先輩方が一生懸命仕事をしてくれたのを見て自分は来年あんな風によくできるのかと少し不安になりましたが、なるべく先輩方に近づけるよう頑張っていきたいです。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 神田琢磨

僕はこの合宿をとても充実した四日間にする事が出来ました。合宿中は宿やディスカッションなどで初対面の方と過ごすことが多かったのですが、すぐに打ち解けることができ、たくさんお話しすることができてとても楽しかったです。また、山登りではワークショップ班で登ったので、すごい安心感があったとともにみんなで頑張って登れたので、班員同士の仲もさらに深まったと思います。そして、この合宿中先輩方には本当にお世話になりました。何も知らない僕たちをいつも気遣ってくれて、そして自分たちの役職の仕事を全うしている先輩方の姿は本当にかっこよかったです。僕もそんな先輩方のようになれるよう、これからの活動をより一層努力していきたいと思いました。四日間本当にありがとうございました。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 佐藤綾奈

一日目、自己紹介を行ったがたくさんの人がいて覚えきれるかなと少し不安に思った。特に

目立った自己紹介をするつもりもなかったため、特に緊張はしなかった。しかし大きな声を出したつもりでも意外と聞こえないのだなと思った。

二日目の登山は昔から好きだったため苦痛ではなかった。むしろ楽しかった。しかし下りのほうでは膝も痛くなるし転びそうでとても大変だった。キャンプファイヤーで虫に刺された影響か、足が腫れてしまったので、来年はしっかりと虫刺され対策をしていこうと思う。懇親会では、大声を出して話したため喉が痛くなったが、とても楽しめた。

三日目のディスカッションでは多くの日大生と交流した。班のメンバー的に日大の人が多かったことが影響した。班の人の意見を聞き、こんな意見もあるのかと驚いた。四年の先輩にも就活についてのお話を伺えて、貴重な体験だったと思った。

四日目に振り返ってみると、電波も通じなければ、虫の脅威に晒される生活は苦しかった。しかし、四年の先輩の総括での発表を聞いて、三年であんなに変わるのかととても感心した。一年の自分はとてもあの総括の場で四年になったときに泣けるのかなと疑問に感じた。夏合宿を通じて、先輩方のそれぞれの働きは素晴らしく、カッコ良いなと思った。一年生を楽しませようとしてくれていたことがひしひしと感じ、そしてそれぞれが自分の仕事をただこなすだけでなく、より良くするために行動していて凄いなと思った。そのような点を自分も見習わないとな、と思った。

来年、参加出来るかは分からないが先輩方のように動ける人間になりたいと思った。

友達がたくさん出来たわけではないが、有意義な時間を過ごせたかなと思う。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 竹下悠花

私は今回の夏合宿を通して、沢山学ぶこともありつつ、大東と日大の先輩や同期と沢山関わることができて刺激を受けつつ、楽しい夏の思い出を作ることができました。

まず、1日目ははじめのバスレクで隣の先輩がとても賑やかで、終始楽しく過ごせました。みんなの前でやる他己紹介は、あんなに多くの人も前で発表したこともなかったのも緊張しました。しかし、近くにいた班の先輩やそのときはまだ関わりがなかった日本大学の先輩が声をかけてくれたりどんな風に話したらいいのかを熱心に話してくださったり、とても嬉しかったです。宿舎では、初日から日大生、大東生合同でウノをやり最初は緊張していましたが、徐々に打ち解けることができ、最後のほうにはみんな和気藹々と楽しそうに話して短い時間ではあったのですが、とても楽しい時間を過ごすことができました。

2日目は、山登り、キャンプファイヤーと2大イベントがあり、楽しかったですが私にとって一番疲れた日でもありました。山登りでは序盤から辛く先輩に荷物を持ってもらい、こんな体力で登り切れるのかと不安でいっぱいでした。終始弱音は吐き続けました。それでも、班の先輩や同期、また後ろからは生活班や移動班の先輩方がたくさん声をかけてくれ、その言葉一つ一つが私の心の支えとなりました。無事山頂についたときは、とても嬉しかったです。キャンプファイヤーでは、普段は見るできない先輩の姿を見ることができて笑い

が止まらないときもありました。一方で、先輩方が誘導や一生懸命イベントを成功させようと頑張っている姿に、尊敬と同時に強い憧れを抱きました。来年は自分もあんな風になりたいと思いました。

3日目の日大生、大東生合同のディスカッションでは先輩の進行もあったおかげですが、自分の意見をしっかりと話すことができました。話し合いの中で、様々な人の色々な意見を聞くことができとてもいい刺激を受けました。夜の飲み会では、この合宿を通して友達になった同期や先輩と沢山話すことができたし、写真も撮ることが出来て思い出深い1日となりました。

4日目の総括では、私はまだ一年生ということもあり、ただ楽しかった思い出を述べることしかできませんでした。先輩方がときに目に涙をためながら話している姿に、時折思わず泣いてしまいそうになることもありました。

今回の夏合宿で楽しい思い出をたくさん作れました。また、先輩方の頑張っている姿をたくさんみているうちに、そんな先輩に来年は自分もなりたいたいと思いました。

大東文化大学 法学部 法律学科 1年 朴賢雨

合宿に参加する前はあまり行きたくないという気持ちが強くて不安ばかりありましたが、合宿に参加してみると同期も先輩もたくさん仲良くしてくれて今までにない体験をさせてもらいました。改めてこのサークルに入って良かったなと思いました。

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 門司侑大

3泊4日という短い期間でしたが、いつも過ごしている場所とは全く違う環境で様々な人と交流をすることができてとても良かったです。

最後の先輩方のお話を聞いて自分も次の夏合宿で先輩たちのように涙を流せるぐらい今後のアカデミー活動を真剣に取り組んで行きたいと思いました

大東文化大学 経営学部 経営学科 1年 矢田大騎

私は今回初めて合宿に参加しました。宿舎はアゼリアでした。実際に行ってみると、先輩方はとても優しい方達で四日間とても充実していて楽しかったです。まず初日は、バス移動が多く、バスの中でもレクリエーションがあり、隣の方と前後の人と話すことができました。私が特に楽しかったことは、隣の人と行う他己紹介です。私の隣の方は大東二年の先輩でした。今まであまり関わったことがなかったので何を話せば、いいのか最初はわからなかったけれど、他己紹介などのおかげで仲良くなれたので良かったです。二日目は登山とキャンプファイヤーという合宿の中で最も内容の濃い1日でした。今回の夏合宿は瑠璃山に登りま

した。この登山のおかげで今まで以上にWS班の人たちとの仲が深くなりました。夜に行われたキャンプファイヤーでは、その日初めて話した同じ宿舎の日大生とずっといたのでも仲良くなれました。また、キャンプファイヤーの後の宿舎飲みで様々な日大の人達とすることが出来てとても楽しかったです。3日目はディスカッションでした。私は16班で話したことがある人が全然なくてとても緊張しましたが、班員の人たちはとてもいい人たちで自分の意見をととても出しやすかったです。私は班長や班長補佐に「1年生だけどインターンに行きたい」といったら、先輩たちは「いいことだ、インターンに行きたいならまずは前に出て話せるようにならなきゃね」と言ってくださいました。後期のアカデミーでもたくさん前に出て、緊張しないようになりたいです。最終日の総括は、とても印象に残っています。私は初日に「大学、学年、性別関係なく関わりたい」と言いました。総括の時振り返ってみたら、私は4日間のほとんどが日大生と話していたことに気づきました。また、たくさんの先輩方とも仲良くなれたし、男女関係なくたくさんの人と仲良くなっていたので総括の時とてもうれしかったです。また、先輩方の総括にととても感動しました。4年生の総括にはいままでの辛さと楽しさが言葉から感じて、3年生からは先輩をととても慕っている姿を見ることができ、先輩が残り半年でいなくなると言った時にはまだ入って半年も経っていない私もとても悲しくなりました。私も先輩方のような人にこれからなっていけるように、後期アカデミーも精進していきます。

(11班)

日本大学 経済学部 経済学科 4年 出崎葵

梅沢人間力アカデミーでの最後の夏合宿が終わりました。夏合宿が始まるまでは、幹事長というプレッシャーが大きく、無事に夏合宿を終えることができるか不安ばかりが募りました。

1年生の頃から夏合宿に参加して、歴代の幹事長を思い浮かべても私などとても敵わないような先輩方ばかりで、自分がその立場で同じことをできる自信がありませんでした。また、同期に比べて計画性や周りを巻き込む力の低さを認識していたため、なぜ私が幹事長に指名していただけたのか、と考えていました。

実際に準備が始まってからも私の組織の長としての認識の甘さから、梅沢先生をはじめ同期や後輩にもご迷惑をおかけしてしまい、自分の不甲斐なさを嫌になるほど痛感しました。そんな中準備を進め、夏合宿が始まると一番感じたのは後輩の存在の大きさでした。私がつらいときににこにこして話しかけてくれる後輩が本当にたくさんいて、その度にこの後輩たちに楽しんでもらえるように頑張ろうと思えました。当日には「何かできることはありますか？」と声をかけてくれ、積極的に動いてくれる後輩の多さには驚き、また、とても頼もしかったです。3日目にあぜりあの庭で行われた打ち上げでは、後輩から「夏合宿楽しい

です」と何度も声をかけてもらい、そのこともとても嬉しく、頑張っただけよかったと心から思いました。

今振り返っても大変でつらかったことはとても多くありましたが、それ以上に今年の夏合宿は今までで一番充実したものになり、自分自身も一番楽しめた夏合宿でした。

今回の夏合宿で学べたものが多かったので、今後自分の課題などの克服に努めながら、残り半年間を後輩やアカデミーのために尽くせたらと考えています。

日本大学 経済学部 産業経営学科 3年 飯山涼斗

私は今回の夏合宿を経て改めて先輩の偉大さを実感しました。

まず、ディスカッション班の活動を経て班長である宮田さんが的確な指示を出している姿と、それを支えていた高野さんの姿がとても頼りになりました。

また、3日目のディスカッションにおいても、等田さんがお題に対して明確な意見を出してくれたおかげで、新規生が意見を出しやすくなり、円滑なディスカッションを行うことができました。

そして、同じ班のTTであり、夏合宿の幹事長の出崎さんが皆から慕われている様子が印象的で、そんな先輩の一番近くで活動出来ていることはほんとに光栄な事だと思いました。

このような頼りになる先輩方ともう夏合宿に行けないのは寂しいですが、来年の夏合宿では後輩に頼りにされる4年生になれるよう今後の活動に努めて参ります。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 東隆之介

経営研究会の夏合宿を通して、わたくし自身とても成長することができました。何故なら、部屋長という役職をいただいたことで責任感を持ちながら合宿をすることができたからです。また、夏合宿に参加するのは2回目で昨年度よりも多くの人と関わることができ、濃密なものにすることができました。また参加したいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 石井貴裕

まず、はじめに梅沢先生、このような夏合宿を今年も開いてくださりありがとうございます。とても成長することができ、かつ、これからも梅沢アカデミーで活躍できるように努力する意欲がさらにわいてきました。

では、ここから夏合宿における私の感想を述べさせていただきます。

私が今回の夏合宿での感想は大きく分けると三点あります。

1. 二年生としての責任
2. 撮影班

3. 四年生に対する思い

この三点から述べさせていただきます。

一つ目は、二年生としての責任です。私は今回で二回目の夏合宿となりました。昨年は全く行動の仕方が分からなくて緊張していたのですが、今年はある程度自ら行動を起こすこともできるようになり、一年生に対して配慮する余裕を持つことができました。その際に、私の班の一年生に対してできるだけ多く話しかけたり、ほかの班の一年生と交流を深めるために私は一年生会の幹事を務めさせていただいた際に仲良くなった一年生を紹介したりして緊張を和らげようと努めました。私は部屋長を任されていたので私の部屋の一年生にも同様に配慮しました。そして、最終日に、夏合宿楽しかったですとってもらえたときはとてもうれしかったです。これが新規生から既存生に代わると得る責任感なのかと実感しました。

二つ目は、撮影班としての感想です。撮影班に任命していただいて最初に感じたことは、不安でした。私は本格的なカメラを一度も扱ったことはなく、写真を撮ること自体苦手でした。ですが、撮影班班長の石橋さんと山本さんからカメラの扱い方や、夏合宿中での行動の仕方を打ち合わせしていくうちにやる気がわいてきて不安はほとんどなくなっていました。そして、夏合宿の当日、毎日就寝後の時間に撮影班で集まって会議を行いました。そのおかげもあり、撮影班にとってメインイベントである、登山中の撮影や学年ごとの撮影、全体写真がとてもスムーズにでき、いろいろな先輩や同期から去年より断然に早く撮影できたねとってもらえました。そういった言葉をもらってとても達成感を感じ、充実した夏合宿になりました。また来年も撮影班として活躍できたらいいなと思いました。

三つ目は、四年生に対する思いです。昨年は半年間しか四年生と関わることができなくあまり思い出はなかったのですが、二年生や三年生が泣いている姿を見て後輩から慕われる先輩っていいなと外から見ているような気持ちで見えていました。しかし、今回は約一年半ほど仲良くさせていただいた多くの先輩たちの総括を見ていたら、いなくなったら嫌だなととても感じ、今までの思い出がたくさんよみがえってきました。ですので、これから約半年間さらに先輩たちと深く仲良くなり、思い出をたくさん作っていこうと思いました。

以上の三点を持って夏合宿の感想を終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 2年 今吉優太郎

私は今年の夏合宿を2回目の参加という形で参加させていただきました。まず、あぜりあの大部屋の部屋長として、大人数の人たちをまとめることの大変さを学びました。大部屋の人たちに指示を出す側として、自覚のある行動を心がけることの大変さ、また、先輩方からの指示を的確に伝える大切さ、これらを全てできることで、周りからの信頼に繋がり、大事な時にグループとして力を発揮できるのだと感じました。さらに、自分が部屋長会議などに参

加している時、1年生とコミュニケーションを取ってくれていたのは自分以外の2年生であり、大部屋の2年生全体として指示を出すことが出来て、夏合宿の最終日を終わることができました。このことにより、大部屋の部屋長として夏合宿を終えることが出来たのは、自分以外の人たちの行動に支えられて出来たことであり、周りの人たちに感謝すべきだと改めて実感することができました。これらのように、今年の夏合宿では、大部屋の部屋長を通して指示を出す側の行動の大切さと、周りの支えに対する感謝を改めて認識することができ、この合宿に参加してよかったなと感じました。このような機会を与えてくださった梅沢先生に心から感謝しています

日本大学 経済学部 経済学科 2年 上野慶伍

今回の夏合宿では自分は生活班としての役割をいただきました。

初の夏合宿だったため生活班としての仕事はもちろん、夏合宿全体の流れも初体験でした。その中で出来るだけ先輩の、みんなの役に立てるようになりたいと思い自分なりに仕事に対して真摯に取り組むことができたと思います。やはり3年生4年生の方たちは誇りを持ち、責任を持って自分たちの仕事をしており、このように後輩を引っ張っていける存在になれるように頑張ろうと心から思いました。そのために周りを見て自分がまとめるという意味を持ち常に能動的に動けるようになろうと思います。最後に、生活班は大変で辛い仕事ではありましたが、やりがいのある仕事でもあり、この役割のおかげで夏合宿を充実した最高のものにできたのではないかと感じます。来年も今年の経験を活かし生活班として仕事ができたなら嬉しいです。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 大浦諒

私は新規生という立場で合宿に参加しました。私はこの合宿で新規生だからと言って、いつまでも既存生に甘えている訳にはいかないと思い、自分にできることをこなしました。

1つは先輩の指示に従うことです。これは組織的な動きをする中で怠ってはいけない部分だと思い、先輩の指示はよく聞くようにしました。

次に、新規生とはいえ上級生であるという事を忘れず、1年生に出来るだけの対応をしました。これは最初の先輩の指示に従うということと連結しており、それを後輩に伝え、迅速に動いてもらえるような立ち回りをしました。未熟だった点としては、ディスカッションにおいて、班員の意見をまとめる役割を頂いたのですが、決して良いとは言えない形にまとめてしまいました。それは、自分の文章を聞き、書く能力はもちろん、班員のいい意見を引き出し、それを自分の言葉でうまく表現する力がないと感じました。それは、組織において、重大な欠陥になりかねません。今後は、その事を意識し日々の活動に取り組みます。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 清水 貴史

私は合宿の三日目から途中参加でした。各班がディスカッションをしている最中だったので、自分が仲間に入れてもらえるのか、うまく意見を言えることができるのか不安でした。ですが、皆が快く迎え入れてくれ、むしろ他班の一年生や先輩方と意見交換がよく弾んだのを覚えています。その時出た意見はまだまだ未熟なものでしたが、これからのアカデミー活動を考える良い機会になったと思います。一泊二日と短い間でしたが、この合宿に参加できて本当に良かったと思います。来年、私が夏合宿に参加するときは、自分の役職を全うできるように努めます。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 小川雅子

3日目のお昼のディスカッションから参加しましたが、班のみなさんが暖かく迎えて下さり、上手く溶け込みながら多くの意見をかわすことが出来ました。お互い交流を深めつつ、普段のワークショップ班以外の方々の貴重な考えを吸収でき、大変勉強になりました。どの先輩方もわからないことは1から優しく教えて下さいました。こうして私たち1年生が楽しく終えることが出来たのは合宿という場を設けてくださった梅沢先生と先輩方の努力のおかげであると強く感じました。ありがとうございました。たくさんの同期と知り合える機会にもなったので、これからの活動にもいかせるような関係を築いていきたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 小坂理絵奈

今回、私は3日目からの参加でした。ディスカッションの途中で参加したため、班の輪に入れるか不安でしたが、先輩や同級生は温かく迎えてくださり楽しい時間を過ごすことができました。また、夜行われた飲み会では大学を問わず、多くの友達を得ることができました。充実した2日間を過ごすことが出来、この夏最高の思い出になりました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 千葉結里乃

私は簿記の講座を受講しており、普段の木アカへの参加が出来ていなかったため、夏合宿からの参加でした。そのため、合宿に行くまでは多くの不安がありました。しかし、実際に参加したところ先輩も同期も優しく、大東文化大学の人達とたくさん交流でき、ずっと楽しみました。また、二日目の山登りでは、虫と疲れで気分が下がっていた私に同じ班の先輩方が、たくさん話しかけてくれ、楽しませてくれた為なんとか登頂することができました。今回の合宿では、他の大学との交流や、普段話さない人とのコミュニケーションを通して様々な価値観を学ぶことができました。さらに、100人を超える一年生に的確に指示を出し、スム

ーズに進行できるように協力し相談しあって活動している先輩方の姿を目の当たりにして、私もそのようになりたいと強く思いました。後期の木アカは途中からの参加になりますが、合宿での経験を生かして、積極的に行動をしていきたいです。

日本大学 経済学部 金融公共経済学科 1年 藤澤倫隆

今回の合宿は自分の中で設定していた目標を叶えることができた合宿になった。今回の合宿の目標とは2つあり、1つは先輩同輩とさらに仲良くなること。2つ目はディスカッションに積極的に参加することであった。1つ目の目標に関しては山登り、ディスカッション、宿舎での活動において人と協力し合うという行動を通して数多くの人と仲良くなることができた。2つ目の目標については、自分は少し話せる関係になった状態からでは人とうまく接することができるが初対面になると気を張ってしまう節がある。しかし、今回のディスカッションの場では初対面の人とも積極的に話し合うことを自らできた。さらにここで出会った先輩とたまたま会った際ふつうに話すこともできた。この合宿は自分を高めてくれるとてもいいものになったと感じている。

(13班)

日本大学 経済学部 産業経営学科 4年 木村優佑

私は今回の夏合宿では対話の大切さを学びました。ディスカッション班とイベント班として活動していく中でイベントやディスカッションの準備や作業で何度か手間取ってしまい、遅れてしまう事がありました。その点で班員と事前の話し合いを済ませて居なかった事が、作業が進まなくなる要因となってしまいました。そのため夏合宿中にも事前に話し合いを行い、準備をスムーズに終わらせ活動に行く事を心掛けました。今後も事前に話し合いを行い、スムーズに進行出来るように心がけたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 4年 町田佳穂

今回は私にとって4回目の、そして最後の夏合宿でした。まず、13班のみんなと山に登ることができてよかったです。とても楽しく、最高の思い出になりました。また、同期会では全員が本心で語り合い、今まで以上に仲を深めることができました。短い時間でしたが同期会を開催することができ本当に良かったです。夏合宿に参加するにあたって、私は「4年生としての役目は何か」について考えることが多かったです。自身が楽しむだけでなく、最高学年として後輩に頼りにされるような仕事をしたいと考えていました。しかし、自身の力不足で後輩が辛い思いをしたり同期に迷惑をかけてしまったり、自分の課題が浮き彫りにな

った夏合宿でした。周りに助けられた分、残り半年間で自身の欠点を直して恩返ししたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 石橋遼一郎

今回は前2回とは違い、自身の欠点が顕著に表れた合宿となりました。WS 班長としてだけでなく、撮影班の班長としても考えが及ばず、配慮に欠けていた場面が多々ありました。今年失敗したことやその改善案を次の世代にしっかりと引き継ぎ、来年の合宿が後輩たちにとってより過ごしやすく、かつ有意義なものとなれば幸いです。また、今回の合宿では4年生の先輩方の偉大さを改めて実感しました。先輩方が卒業なさるまで残り半年、最大限の学びが得られるような年度の後半としたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 伊藤陽南

私はこの夏合宿を通して、実践することの大切さを学びました。大学2年生から入った私は、親しい友達が数名しかおらず、大東生もいる中とても不安でした。1日目、合宿が始まる日はほぼバスで過ごしました。隣の席の人はもちろん初対面の大東生。少し緊張しましたが、自ら何か起こさなければならぬと思いたくさん話しました。2日目の山登りでは、いつものワークショップ班で固まって登りました。見慣れた人たちで少し安心しました。3日目のディスカッションでは特に、深く追求すること、考えること大切さを学びました。あれがしたい、これができたらいい、などの希望や夢で終わらせるのではなくそのためにどうしたら良いか具体例が重要だということです。それ以外にも、ディスカッション、宿舎、部屋、キャンプファイヤー、学年会など、私が想像していた遥か上を超える人数の人とコミュニケーションを取る機会があり、貴重な体験ができました。4日目の総括では、先輩たちが涙を流して思いを語っていて、1年生の時から入らなかったことを後悔したくらい心に刻まれました。夏合宿に行って正解でした。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 篠田健登

自分は初めての経営研究会の夏合宿に参加し、生活班という役職を努めさせていただきました。正直生活班というものが、合宿が始まるまで具体的に何をするのか不安でした。しかしオリエンテーションに加え現地で4年の先輩方に色々ご指導頂き自分のやるべき仕事を明確に定め行動することが出来ました。活動時にトラブルがありスケジュール調整のためにお風呂の時間を短くせざるを得ない状況がありましたがそれに対しても、生徒たちは文句を言わずとても協力的であり本当に皆繋がっている素晴らしいサークルであると思いました。また、生活班だけでなく山登りでは移動班や撮影班が道々で待機し頑張るよう促すこ

とやアルバム用に写真撮影をし、またディスカッション班も総括時に時間が推す中最も思い出となる場なのでプラカードを使い、場を盛り上げる光景を多々目撃しました。そして大きなイベントのひとつのキャンプファイヤーでもディスカッション班が安全を守りながら司会やマイムマイムを盛り上げており、それら全てを振り返り皆が一生懸命この夏合宿を素晴らしいものにしようとしているのだと強く思いました。今回の合宿を通し改めて4年生との思い出を振り返り辛い思いをし、そして泣き、全てにおいて大学生活で絶対に心に残るものになると思っています。

日本大学 経済学部 産業経営学科 2年 高野萌

今回の夏合宿では、生活班の役職を頂きました。去年とは違い、後輩ができたことで1年生へも気を配り、日大・大東関係なくコミュニケーションを自発的にとることができました。また、同期会では、今まで話したことがなかった同期とも親睦を深めることができ嬉しかったです。来年は3年生として合宿に参加することになるので、自発的に行動するだけでなく、周りに目を配り行動できるように頑張ります。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 東堂友祐

7月からディスカッション班として準備を始め、3日目にはディスカッションでイレギュラーな出来事があったが無事に終わることができて良かった。去年は参加するだけで楽しませてもらったが、今年は役職を与えていただき、とても充実したものになったと感じた。山登りは、去年と比べるとかなり辛かった。しかし、班のみんなと登るという事が嬉しくもあり、楽しかった。夜のキャンプファイヤーでは、四年生全員が主役として前に登壇していて、たくさん笑うことができた。宿舎飲みでは、1日目に話せなかった人と話すことができた。また、一年生みんなで話し合ったり、ワードウルフをしていたりして、楽しそうで良かった。一年生が楽しそうにしているのが、一番嬉しかった。最後の総括では、3.4年生の姿や同期の姿を見て、ひたすら泣いていた。この時改めて合宿に参加して良かったと感じた。これからもこの合宿で仲良くなった人達と、大学関係なく交流していきたい。

日本大学 経済学部 産業経済学科 2年 渡辺斗宇

私は今回の夏合宿に参加して、とてもいい経験ができたと思いました。まず、多くの人と関わることができたこと、東京では味わうことのできない自然豊かな環境で生活すること、他人と一緒に生活することなどです。今まで活動の時は、先輩たちから指示を受けてから動くことがほとんどでした。でも、合宿では一人一人がよく考え、主体的に動かなければ、決められた時間内で動くことができず、仲間に迷惑をかけてしまいます。そのため、私はこの合

宿では部屋長として部屋のメンバーをまとめたり、山登りで役職のある人をサポートしたりしました。このように、今回の夏合宿に参加することで、自分で考え行動すること、主体的に行動する大切さ、人をまとめることの大変さなどを、直に感じる事ができた合宿だと思います。次回も参加してより自分の人間力を上げていきたいと思いました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 安達太郎

私は今回の夏合宿に参加して本当に良かったなと思いました。主に2つのことが普段のアカデミー活動で体験したり見たりすることができないことだと思い、良かったと感じました。まず1つ目は、先輩達の素晴らしい姿を間近で見られたことです。普段の活動でも先輩達は頼り甲斐があるなと感じていますが、今回の合宿では更にそのことを強く感じる事ができました。アカデミー活動では起こりえないような天候などのイレギュラーな状況にも冷静に対応し、自分達も忙しいのに後輩おもいで気遣ってくれるといった行為は見習っていきたいなと強く思いました。2つ目は、普段は関わりのない他大学との交流、いつもは関わりの少ない他班との交流です。このことに関しては、単純に楽しく会話をしたりする友達が増えたこともあります。その中でお互いの考え方を共有することや協力し合うことも多々ありました。このような環境で過ごしていき私は、人との繋がりやコミュニケーションの大切さなどを再認識することになりました。最後に、私はこの合宿に参加したことにより自分の近い将来の人間像としての目標を定め、他大学や他班にいる数多くの先輩や同輩との絆を深め、楽しむことができ本当に良かったです。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 池田優太

朝早いし暑いし虫多いし、色々としんどい事もたくさんありましたが、新しい出会い・経験が出来てとても楽しく充実した合宿でした。また、最後の総括の際、あのような感動の雰囲気が終わるとは思っていなかったのが少し驚きました。13班の方だけではなく、関わったことのない先輩からももらい泣きしそうになりました。経営研究会でしか味わえない事ばかりで、思い出に残る4日間でした。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 小池寛紀

今回の経営研究会の夏合宿で私は2つの事を学びました。まず1つ目に、先輩の偉大さです。私は簿記の講座を取っている為、木アカにほとんど参加していない状態での合宿参加でした。そのため普段の活動での先輩の姿を見ていなかった為、衝撃を受けました。200人を超える合宿参加者の統制、企画の発案、実行、運営、声掛けから下級生との交流に至るまで全てを完璧にこなす予定がずれば話し合い即座に対応するなど圧巻でした。また、それだ

けでは無く、全ての3.4年生が後輩から慕われている姿にも感銘を受けました。今まで漠然としていた理想の先輩像というものがここではっきりと見えました。自分も先輩方のようにになりたい、いやなれる努力をしていきたいです。次に、他大学との交流の重要性です。これまでの学校生活だけでは成し得ないものでした。己の価値観や大学毎の雰囲気や慣習は、独りでずっと考えているだけでは見いだせないと気付かされました。他の考え方をすることで新しい自分をも見つけられたような気がします。行く前は、少し渋っていた自分が恥ずかしくなるような素晴らしい合宿でした。この素晴らしい経験を生かすために後期の活動に参加して行きたいです。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 小林加奈

初めて参加した夏合宿で、始めは虫が多くてあまり乗り気にはなれませんでした。しかし、この夏合宿のおかげで同じ班の関わりのなかった人、同級生、先輩、大東生と親睦を深めることが出来この合宿に参加してよかったです。また、登山は足場が悪かったり、急斜面だったり多くの苦難がありましたが、最後まで登りきれたことは自分の中で大きな収穫だと思っています。嫌なことがあると直ぐに逃げ出してしまう私ですが周りの人も頑張っていたからこそ登りきることが出来ました。この経験は自分でもやれば出来るという自信に繋がれたらなと思っています。またキャンプファイヤーの後のレクでは先輩方が堂々と大勢の中で笑いをとり、進行をされていてかっこいいと思いました。私は失敗したらどうしようとか、恥ずかしいとか色々考えて人前に立つと堂々と出来ず、いつかあんな風になれたらなと思っています。私は途中で早退してしまいましたが、少しでも参加出来て本当に良かったです。誘ってくださった石橋さんに感謝です。週に一度の活動に後期はなるべく参加できるように頑張りたいと思います。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 迫尚美

この夏合宿でたくさんの先輩や同期と関わることができてとても嬉しかったです。大変な事もあったけれど、それ以上に先輩方の姿に感銘を受けました。あんなにも大勢の人が無事に合宿を終えられたのは、先輩方の頑張りがあったからだと思います。山登りで辛かった時、先輩が優しく接してくださって、「もう少し頑張ろう！」と思えました。また班の方々や宿舎が一緒だった方々にも気さくに話しかけて頂いて、とても嬉しかったです。総括の時、先輩方のお話を聞いて、縦の繋がりが凄いな、と改めて感じました。涙を流す先輩を見て、私も感動してしまいました。それと同時に、私も先輩方のようにになりたいと思いました。本当にこのサークルには素晴らしい先輩がたくさんいるのだなと改めて実感した3泊4日でした。私も先輩方のようにになりたいです。色々なことを学べた合宿でした。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 玉置優允

短いようで、長いような夏合宿が終わりました。最初はとても不安でしたが、終わる頃には先輩達の思いや、これから自分達が後輩を引っ張っていかなければいけないという責任感がつきました。また、特にこの合宿で身についたことが2つあります。1つ目は、仲間と協力する協調性です。合宿3日目に班のみんなでディスカッションを行い、それぞれの意見を出し合いました。これはいつも木アカで行っていると思いますが、普段の班の人とは違う人や、大東の人などを行ったため、しっかりとお互いの意見に耳を傾けることがとても大切でした。また、みんなで大切だと思ったところを選び、協力して意見を出しました。これは普段よりも何倍も難しかったですが、協力する重要性を改めて身に付けることができました。2つ目は、色んな人と対話する為のコミュニケーション力です。この合宿を通して、色んな人と自分は仲良くなることができました。特に、大東文化大学の一年生とはお互いを知らない中、20人以上と仲良くなりました。これを実行できたのは、自分にコミュニケーション力が身についたからだと思います。先輩達がディスカッションの時などに、対話がとても上手だったり、発表の時などに人前で話すのが得意だったり、日頃の先輩とは違う、1つ上の先輩を見せてもらう機会がこの合宿で多かったため、自分も自信を持ち、声をかけることができました。この2つの力がこの合宿で身につきました。最後に、身につけたこの力を活かして、普段の木アカなどの活動の場で、目立てるように頑張っていきたいと思います。また、来年は自分が後輩を引っ張っていき、自分のおかげでこのサークルが楽しいだったり、合宿に参加したいなどと思ってもらえるような存在になりたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 宮本和

今回初めての夏合宿ということで正直なところ不安しかありませんでした。自分はあまり普段の活動に参加できていないので班の中でも話せる人は少なく、友達が出来るかどうかも心配でした。しかしそんなことは杞憂に終わりました。同じ部屋になった田幡先輩と岸本先輩は初参加の自分にとっても優しく接して下さり、心穏やかに生活できました。食事の時の知らない人と卓を囲むようにという制度のおかげで日大大東関係なしに先輩や同輩と話す機会があり多くの人と接することができました。また、あぜりあ内だけでなく登山の時など積極的に話しかけに行くことで他の宿舎の人とも友人になることができました。これだけでも夏合宿に参加した成果として十分ですが、それ以上にディスカッションのやり方や先輩方の仕事に対する意識・姿勢、不測の事態に対する対処の仕方など学べるものが多くありました。ディスカッションでは班長が全員の意見をまとめ一つの意見として成立させ、先輩方は全員が一つの目標に向けて全力を尽くしているよう感じました。対処が迅速であったのもそのおかげだと思いました。個人的にトラブルもありましたが総じて有意義な4日感でした。

日本大学 経済学部 金融公共経済学科 1年 村田健翔

私は今回の合宿を通して、様々な経験を積むことができました。1番の自分の成長につながる時間となったのは、ディスカッションの際に班の代表として、班の意見をまとめあげて発表をしたことだと思います。こんな機会は普段の授業で受け身になりがちな私にとってはそうそう無い経験だったし、自信へとつなげる良い機会となりました。また、初日と最終日の全体での自己紹介と振り返りもなかなか無い経験だったのかなと思います。さらに日大だけでなく他大学との交流ができた上に、友達までできたのは、今後にとっても大きな利点となるのかなと感じました。このようにただただ学ぶ機会だけではなく、大学生として大いに新しい友達と楽しめるのは、この上ない経験だし、本当にこの合宿に参加して良かったなと思っています。とても有意義であったとともに存分に楽しめた4日間であったと考えます。また来年も参加しようと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 山崎和真

最初は不安がなくて、正直行く直前にもうこのまま帰りたいとすら思っていて、宿には自販機もないし、電波も繋がらないし早く帰りたいと思っていたけれど、終わってみればあつという間で充実した四日感でした。同じ日大の経済学部でも知らない人がたくさんいて同じ班の人以外ほとんど初めて会う人でしたがたくさんの人と話せて知り合うことができ、なかなかできない体験ができました。山登りもとてもきつかったけどみんなで励ましあいながら登れたのはいい経験でした。そして、合宿を通して一番感じたことが先輩たちの偉大さです。イベント班や生活班など多くの班がありますが、どの班の先輩達も自分の仕事に責任を持って、夜遅くまで会議をしたり、昼間も働いていたり、自分達一年生が不便なく無事に四日間生活できたのは先輩達のおかげです。そして先輩たちへの尊敬と共に自分がこんなふうになれるのかという不安も生まれました。自分はまだ未熟者で今は先輩におんぶにだっこ状態ですが、後期の活動を通して、今度は自分が一年生にすごいと思われる先輩になりたいと思いました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 脇山夕奈

高校では部活に入っていなかったのですが、このような合宿は初めてでした。参加人数も多く、不便な山奥での合宿だったので大丈夫かと心配していたのですが、先輩方のリーダーシップや周囲への気配りがとても優れていて強く感動しました。4年生はもちろん、ひとつしか年齢が変わらない2年生の頼りがいが素晴らしく、来年は先輩方に少しでも近づけるといいなと思います。山登りをしたのも初めてだったのですが、日頃外へ出たり運動したりしな

いので具合を悪くして周りの方々にたくさん迷惑をかけてしまい申し訳ない気持ちでいっぱいです。情けない後輩に嫌な顔一つせず優しくしてくださる先輩方には本当に感謝しています。来年に向けてちゃんと運動をしようと思います。また、このサークルにそこまで知り合いがないので不安でしたが、気さくな人が多くて色んな人とたくさん交流してもらえたので良かったです。大東文化大学の方と友達になれたことも嬉しいです。同じ日本大学の1年生でも知らない人ばかりだったので後期でもう少し皆のことを知れるといいなと思います。

(14班)

日本大学 経済学部 産業経営学科 4年 黒沢将太

最後の夏合宿ということで私は多くのアカデミー生と交流を深めたいと思い、参加しました。ここ2年間私は、生活班としての仕事ばかりに注力してしまい、一緒にの宿舎の人、一緒にの部屋の人との交流がおろそかになっていたと感じました。そのため、今回の合宿では高妻ロッジのメンバー、一緒にの部屋の人と積極的に話したり、トランプをしたりなどして交流を深めました。また、生活班の仕事もおろそかにすることなく宿舎の秩序を保つこともできました。これまでの私は仕事をするとき、どうしても一人で何とかしようとしてしまいがちでした。しかし今回の合宿では、仕事の振り分けを徹底することや、手の空いている人に積極的に手伝いを頼むなど、周りを巻き込んだ結果、みんなで高妻ロッジの雰囲気を作り上げることができたのではないかと感じました。夏合宿後、高妻ロッジのメンバーから「高妻ロッジで本当に良かった」、「高妻飲みやりたいです」、「夏合宿すごく楽しかったので来年また参加したいです」といった言葉を貰うことができ、とてもうれしかったです。また、部屋のメンバーにも「この部屋のメンバーで飲み会やりましょう」と言ってもらえることができ、感慨深かったです。

高妻ロッジのメンバー以外にもこれまで交流のあった人とはより仲を深め、これまで話したことのなかった人とも仲良くなることができ、とても充実した日々でした。

また、班員の成長をうかがうことも出来ました。3年生は班の中心としてしっかりと班をまとめており、2年生は役職を与えられている班員はもちろんのこと、そうでない人もフォロワーとしてサポートをしており、既存生としての自覚を感じることができました。班内でしか交流がなかった1年生が、この夏合宿で新たな先輩・同期と仲を深めている様子を見ることができ良かったです。

4年間夏合宿に参加し、毎年違う景色を見てきましたが、4年目となる今年が一番後輩の成長を目の当たりにし、同期の大切さを感じることができ、楽しい夏合宿だったなと思いました。3泊4日とても充実した日々でした。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 稲葉紘司

今年からディスカッション班の仲間に加わったことで、多くの学びがありました。初めてで分からない事が多くあったため、至らない事が多くありましたが、積極的に仕事に取り組むことで、ディスカッションや総括のやり方を学ぶことが出来ました。その中で自分の役割への貢献というものを学ぶことが出来ました。

また、ディスカッション班のみんなと連携でき、準備の段階からとても楽しく活動出来ました。みんなと活動出来て良かったです。来年も今年学んだことを生かして、皆をまとめながら頑張りたいです。

そしてディスカッション班の班長の秀先輩は、班長として常に先生にお伺いを立てながら、大変だったと思いますけど、常に適切な指示で、ディスカッション班を動かしていたのが凄かったです。同じディスカッション班として、秀先輩のサポートとして仕事出来て多くの事が学べました。ありがとうございます。

本当に皆さんお疲れ様でした。

この夏合宿の思い出はかけがえのないものです。本当にありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 松元春樹

今回、私は二年ぶりの夏合宿への参加でした。そして、今回は生活班という大役まで与えられました。意外だったのが毎週土曜日に集まることでした。考えてみれば、200人以上が参加する合宿を運営するためには当然のことでした。私が配属されたのは生活班の中でも事前準備が忙しく、失敗すれば合宿の成功に大きくかかわる予約の仕事でした。テスト前ということもあり、予約としての貢献は全くできななかったと感じています。そして、合宿を迎えました。

3年として行く合宿、班長として行く夏合宿、と考えると不安でいっぱいでした。

私の宿舎はあぜりあに最も近い「アコールド」という宿舎でした。アコールドには4年生の生活班がおらず、同期の紀君と2年の高野と協力すること、自分で判断して行動することが必要とされました。

私が主に行ったのはお風呂を回すこと、食事の配膳を新規生に手伝わせることでした。お風呂に関しては、時間の無駄を防ぐために入れ替えのタイミングでシャワーを使わない時間を極力減らすことを意識し、その意図を各部屋の部屋長に伝達しました。

すると、部屋長だけでなく、新規生も私の意図を理解してくれました。この結果、2日目には、あぜりあの人約20名にお風呂を貸すことができました。この点では、アコールド全員に助けられたと感じています。

食事の配膳では、初日の夜に新規生全員に手伝いを求めました。すると、半分くらいが新規生であったため食堂が混雑してしまいました。これによって、新規生には自分の役

割を認識させることができず、不快な気持ちにさせてしまったと思いました。その後、食事の配膳ローテーションを組んだことで役割を理解させ、新規生とのコミュニケーションも図ることができたと感じています。

この4日間で感じたことは上に立つ者としての心構えや行動の大切さでした。

前期の私には両方とも劣っていたと感じます。新規生に気を取られてしまい、班員の既存生への配慮が足りず、指示があいまいでイライラしていることが多かったです。私1人では何もすることができないということに改めてはっきりと気づくことができました。

夏合宿を通して、新規既存に関係なく、班員の気持ちに寄り添うことで班員とのより密な信頼関係を築くことができ、この信頼関係が将来の14班の存続につながると気づきました。この4日間、生活班として合宿を成功させる側についていたことで、既存生として、3年生として、班長として、人として大切なものに気づくことができました。新規生が、私の名前を呼んで話しかけに来ることが多く、とても多くのものを得ることができました。これを後期の活動で発揮できるように頑張りたいと思える、そんな夏合宿になりました。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 荻野隼

今回、2度目の参加ということで去年よりもさらに輪を広げることを目標に参加しました。食事の時間や自由時間の際に積極的にコミュニケーションをとることを心がけて4日間を過ごすことができました。また、自分は役職がなかったのですが、周りの同期は役職についている人も多く、寝る時間を惜しんで仕事をしていたので自分はまだまだ力不足だなと感じました。なので、後期のアカデミー活動を通して自己成長し、来年はもっと貢献できるように頑張ります。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 奥永帆香

夏合宿おつかれさまでした。今年の夏合宿は、後輩ができ、お仕事を頂けたことで充実感のある4日間となりました。合宿準備から先輩方のかっこいい姿を間近で見ることができて本当に幸せでした。また、大学や学年、男女問わず多くの人と関わることができ、交流も深まりました。来年は今年の学びを取り入れつつ、より一層盛り上げていきたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 澤田梨菜

夏合宿を終えて、自分は役職につきませんでした。自分にも、もうちょっと出来るこ

とがあったのではないのかなと思いました。

同じ2年生でも役職についている方の頑張っている姿を見て、次の夏合宿はもっと頑張りたいなって思いました。2年目の夏合宿でしたが、去年よりも楽しく、とても充実した4日間を過ごせました。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 高橋仁

私は合宿を通して、成長できたと思います。

私は2回目の夏合宿で移動班という役職をいただきました。

役職をいただいたときは、単純に嬉しい気持ちと、自分にできるのだろうかという気持ちでした。

準備の段階で座席を決める際に、座席決めを任されても時間内に終わらせることができず、非常に情けないと思いました。この出来事もあり、私は合宿が不安でした。

しかし、当日は積極的に自分から動くこと、連絡を細かく取り合いミスを減らすことで、先輩から「頑張っているね」と声をかけていただき、それが私のモチベーションになりました。

また、そのモチベーションを保ち最終日まで全力で取り組むことができました。

この合宿を通し、改めて積極的に動くこと、連絡をすることの大切さを学びました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 石井龍平

今回の夏合宿を通して普段関わることのなかった同期や先輩と関わることができ親密度がかなり増しました。さらに先輩方の1年生へ対する思いやりが熱くて四日間がとても短く感じました。合宿に参加する生徒が減っていると聞きましたが私は来年も参加したいと考えています。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 大橋友海

知らない人がたくさんいるという環境の合宿は初めてで、最初に行くのも怖くて不安でした。

初日の自己紹介では200人近くの前でマイク無しでのものだったのでとても緊張しましたが、人前に慣れるための第一歩ができたと思いました。

山登りは、思っていたよりもきつかったけれど、班の人と話しながら登るのは楽しかったし、先輩や同期との仲が深められたと思いました。

日大だけではなく、大東の友だちや先輩がたくさんできてよかったです。人とのコミュニケーションのとり方が少し成長できたと感じられました。

貴重な体験ができてよかったです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 草薙来美

私は、この合宿に参加するかとても迷っていましたが、参加して良かったと思いました。とても悩みましたが、先輩方や梅沢先生のお話で、合宿に参加する・しないで全然違うことを聞き、私も少しは自分が変わることができたらいいなと思い参加を決めました。合宿の日が近づくにつれて不安が大きくなり、当日も緊張と不安で押しつぶされそうでした。

4日間、交友関係を広げ、人前に出ることに少しは慣れることを目標にして挑みました。実際合宿の4日間で何度も人の前に出る機会があり、始めの自己紹介は本当に本当に緊張して正直嫌でした。その後も親睦会やディスカッションの発表などで前に出ることがあり、最後の発表の場の時には最初ほど緊張しなくなっていて、少し慣れることができたのだと思います。ディスカッションや山登りは思っていたよりも辛かったですが、終わった時の達成感は今まで感じたことがないものでした。合宿中で新しく仲良くなれた人、仲が深まった人もできて、わずかでも自分が成長できた合宿だったと思います。今後も活動を通じてもっともっと成長していきたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 栗本幸尚

最初は知らない人ばかりでとても不安でした。しかし、色んな人が話しかけてくれてとても充実した合宿になりました。また、合宿を円滑にするために多くの先輩達が働く姿を見て、私も先輩達のように活躍したいと思えるようになりました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 後藤海渡

今回の4日間の合宿は本当に楽しく充実したものになりました。この合宿で出来た友人はとてもいい友人ばかりでこれからも付き合って行き自身の成長にも繋げていけたらと思います。2, 3, 4年の先輩方が一生懸命仕事をこなしていた姿を見て来年再来年を通して自分もそのようになりたいと思いました。短い間でしたが発表などの経験を通し自身の成長を実感出来た合宿になりました。夏合宿が終わっても後期の活動に精を出し14班に貢献したいと思います。

日本大学 経済学部 金融公共経済学科 1年 皆川 結花

私は、この夏合宿を通して沢山の関係を作ることができました。同年代はもちろん、

先輩方と沢山関わることができ、普通の大学生活ではできない経験ができたと思います。

また、先輩方の頼もしい姿を沢山見ることができました。イベントやレクリエーションで楽しませてくださったり、宿舎で面倒を見てくださったりなど、とても頼りになる方々だと思いました。私は合宿中に虫に刺されて迷惑をかけてしまったのですが、先輩方が心配して面倒を見てくださり、とても感謝しています。山登りでも、苦しい時に声をかけてくださる人が沢山いて、励みになりました。最終日の総括では、先輩方の言葉に一年生ながら感動しました。

私はこの四日間でたくさんの経験をし、少し成長できた気がします。充実した時間を過ごすことができ、とても良かったです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 村尾航季

夏合宿の4日間は、私が大きく成長するきっかけになると確信しています。

1年生として参加した夏合宿はただただ楽しく、いい思い出ばかりができました。

しかし、この楽しさの裏には先輩方の多くの努力がありました。私は、あぜりあの宿舎にいたので、幹事長の出崎葵さんを始めとした多くの先輩方と関わる事ができました。話しかけると、先輩方は、「こうき！楽しんでる？」と優しく声をかけてくれて、先輩達の苦勞に気づくことはありませんでした。

それが、2日目の夜にたまたま部屋長代理として、1年生ながら部屋長会議に参加する機会があり、少しながら先輩達の凄さに触れることができました。部屋で注意することについての確認を行う場でしたが、先輩達は「これを注意しといて」と丸投げするのではなく、具体的な注意の仕方まで指示を行っていました。このことから、先輩達が裏で行動している事が私達の楽しさを支えているのだと気づきました。私が、このことを元に今すぐ行動ができるかと言われれば、不可能でしょう。しかし、私はこの夏合宿で先輩達の仕事で気づきを得ることが出来ました。この気づきが私の成長に繋がると確信しています。その為にも、これから行われるアカデミーの活動全てに積極的に参加し、人間力を磨いていきたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 山田悠愛

今回の合宿には今まで関わってこなかった人との交流をするという目標を持って参加しました。

今回の合宿に参加した結果、同じ宿舎の人を中心に、日大生、大東生関係なく交流を深めることができました。これからもこの関係を続けていきたいと思います。

また、私がこの合宿を楽しめた裏には、先輩方の働きがあったことがわかりました。

来年は合宿を盛り上げるために役職に就き、このアカデミーに貢献していきたいと思

ました。そして、後期のアカデミー活動にも積極的に参加して人間力を高めていきたいと思いを思います。

(15班)

日本大学 経済学部 経済学科 4年 宮地駿明

私は今回、夏合宿の幹事長補佐と会計班、宿舎長という重要な役職に就かせて頂きました。夏合宿を限られた期間で成功させるために後輩や同期と連携を密にとるようにしたことで、無事に合宿を成功する事が出来たと思います。また、活動の中で今まで自分と関わりのあった後輩達の成長をととても感じる事が出来、嬉しく思いました。

そして最後の夏合宿、全力で楽しもうとあまり関わりの無かった同じ宿舎の後輩に話しかけた結果、多くの人と仲良くなる事が出来ました。この関係を夏合宿だけでは無く今後も続けていくために一緒にご飯に行くなどより交流を深めていきたいと思いを思います。

最後になりましたがこのような貴重な経験をさせて頂き、心から感謝致します。この度は本当に有難う御座いました。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 紀拓海

私は今年も夏合宿に参加して様々な気づきを得ることが出来ました。まずは夏合宿の準備の段階で、私は今年も生活班として仕事をさせて頂いたのですが去年は仕事の一部を手伝っていただけだと気が付きました。また、夏合宿本番では宿舎のみんなが過ごしやすいように努めました。仕事面以外では、日大と大東の今まで話したことの無い後輩や先輩と話すことができ、良い刺激を受けました。そして、今年の合宿で最も感じたことは1個下の後輩たちの成長でした。準備の段階から去年の私よりも自分で考えて動ける子が多くいると思いを思いました。1年前は私が何か伝えても理解しているのかどうか分からない子も多かったのですが少なくとも、15班の2年生や生活班で頑張っていた2年生はみんなを自分で考えて行動できるようになっていました。夏合宿本番でもアコールドにいた2年生たちは1年生たちに積極的に話しかけ1年生が楽しめるようにしていました。来年は4年生になり、今年以上に責任感を持って行動しなければなりません、頼もしい後輩たちがいるとわかったので一緒に乗り越えていきたいと思いを思いました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 2年 石田泰之

私は今回の夏合宿で、1年生の時には感じる事の無かった充実感や達成感を得る事が出来ました。私は2年生になり、ディスカッション班という役職につきました。1年生の時には、

楽しむことがメインで、深く考えたり、気を使う事の無い夏合宿でしたが、2年生になり夏合宿を運営する側になってみて、初めて先輩達の努力や、お心遣いに気づくことが出来ました。また初めての役職で困惑することも多かったですが、先輩方に相談に乗っていただいたり、同期と一緒に悩んだりすることで、夏合宿という大きなイベントを作り上げることができたと思います。

また今年の夏合宿は役職を頂いたこともあり、技術的な面でも大きく成長できました。具体的には、先輩方への報告、連絡の仕方や、ディスカッション班ならではの、迅速な対応や、柔軟な考え方を、先輩方から学ぶことができ、それを常に実践することで、身につけることができました。

今回このようにして学んだことを、後期の活動にも繋げ、より精進致します。そして、夏合宿で出来た縦と横の繋がりをより一層深めていきたいと思っています。

日本大学 経済学部 産業経営学科 2年 奥山遥

今年の夏合宿は去年よりも充実したものになりました。去年は同期や先輩と仲良くなることだけに必死でただ楽しむだけの合宿でしたが、学年が上がったことでどうしたら一年生が楽しめるか、先輩や同期をサポートできるかなど周りのことも考えられるようになり自分の中で変化があったように感じられました。また、会計班に配属され先輩達が夏合宿に向けて日々忙しく動いている姿を間近で見て、改めて先輩達の存在の大きさを実感しました。他の役職に配属された同期の一生懸命仕事をこなす姿にも感化され、これからのアカデミー活動もしっかり頑張っていきたいと思いました。そして、今回の夏合宿では他班の同期や一年生とより仲を深めることができたのが一番の収穫です。普段のアカデミー活動では決まった人としか関わらず狭いコミュニティの中で過ごしていましたが、宿舎が同じ同期や四日間一緒にいてくれた同期とは本当に楽しい時間を過ごせました。最後に、この夏合宿を成功させるため全体を引っ張ってくださった四年生をはじめ、皆さまに感謝いたします。本当にありがとうございました。

日本大学 経済学部 金融公共経済学科 1年 遠藤勇氣

今年から、梅沢人間力アカデミーに参加させていただき、最初の大きなイベントは、この夏合宿でした。梅沢先生や、先輩方のお話を伺うと、間違いなく充実した合宿になるんだろうなと、行く前から確信していました。実際に参加をしてみると、想像の何倍も充実したものでした。具体的には、大自然の中でディスカッションを行ったことでした。普段は、大学内で行うのに対して、他大学の仲間たちと長い時間をかけて、しっかりとディスカッションをできたのは、私にとって重要な経験になりました。この合宿で築いた人間関係を、今後の活動にも活かして行きたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 川口愛佳

合宿に行く前は、初めての合宿だったこともあり馴染めるか不安でしたが最終的には日大や大東関係なく沢山の先輩、同期の人達と関わることができたので合宿へ行って良かったと思っています。毎週行っているディスカッションとは違うメンバーや、違う環境の中でのディスカッションは自分とは違う意見を聞くことができました。それらを聞き、今後の活動への取り組み方や参加する目的について再度考えることができたためとても勉強になりました。今回の合宿で学んだことを、今後のアカデミー活動でも生かしていきたいと思いました。この4日間は先輩方のおかげで、とても楽しめた合宿でした。目標となる先輩もみつかったのでとてもいい経験になりました。

日本大学 経済学部 金融公共経済学科 1年 木島知泰

私は合宿で、多くのものを得ることができました。それは、この合宿で楽しむことができたという満足感はもちろんですが、人間的な成長や今後の学校生活に対する大きな期待感を実感しました。そして、これらは大勢いらっしゃる個性も様々な人達がいるアカデミーならではの体験だったと思います。まず、成長については、プレゼンテーションの能力を高めるきっかけを掴むことができました。合宿の四日間で大勢の人達の前で話すことが随分と楽になったのです。それだけでも私にとっては、成果と言えるものでした。しかし、それだけではプレゼンテーション能力を身につけたとは言い難いです。あくまでもきっかけなのです。私はアカデミーの先輩方のような、人の心を動かし納得させるプレゼンテーションは到底できません。ですので、この合宿で培った自信と、私自身で切り拓いてゆく充実した学校生活への期待を糧に、精進していきたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 小林優希

1年の私にとって、今回の夏合宿は初めての参加だったので、不安なことが沢山ありましたが、参加してよかったと思えるものでした。普段の活動とは全く異なった環境の下でディスカッションなどを行いとても楽しかったです。大東・日大関係なく様々な人と交流し仲を深めることができました。同期だけでなく、先輩方とも交流ができるととても貴重な機会でした。3日目のディスカッションでは、今後のアカデミー活動への目標や一人一人のアカデミーの取り組み方などを実際に話し合い、色々と思うものがありました。先輩方の姿を見て、自分の至らない点を多く発見でき、目標とする先輩を見つけることのできるいい機会になりました。4日間思いっきり楽しめたのは、幹事団の先輩方のおかげだと思います。来年の合宿も参加者全員が心の底から楽しめるものになれば良いと思います。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 西條晃平

今回の合宿を通して、少しだけ自分の中の何かが成長できたように感じます。

合宿に行く前は不安でいっぱいでした。一緒に行くはずの友達が行けなくなり、仲のいい友達もいなくてこの合宿に行くのさえためらっていました。しかし、同じ部屋の人たちをはじめとした個性豊かな人たちや、優しい先輩方と生活を共にすることにより、とても楽しい合宿生活を送れました。また、はじめはほとんどいなかった友達も少しずつですが多くなっていくのを感じてとても嬉しかったです。今後の活動も自分自分を成長させられるよう頑張りたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 堀純也

私は夏合宿に参加する前、先輩方から不安を感じる必要はないといわれましたが3泊4日をほとんど初対面の人と過ごすというのは不安でした。しかし、実際に参加してみると先輩方が積極的に話しかけてくれたのでとても楽しく過ごすことが出来ました。また、バスや宿舍などで初対面の方は多かったのですがお互いに友達を増やしたくて来ているのだろうということはわかったので始めは緊張しましたが少し話し始めると学校や普段の話をして盛り上がりました。その様に楽しく過ごすことが出来たので夏合宿にきて本当に良かったと思いました。そして来年も夏合宿に参加してたくさんの友達を作りたいと考えました。また、今後のアカデミー活動もより頑張っていこうと思うようになりました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 矢嶋千裕

夏合宿を終え、私はこの夏合宿に参加できて本当に良かったなと感じました。

夏合宿に参加する前は班や一部の知り合いの人としかあまり関わらず、不安の方が大きかったです。しかし、バスの中、ディスカッション班、宿舍などで多くの新規生や先輩方と関わることができ、とても人脈が広がりました。また夏合宿でとても印象に残っているのが、先輩方の活躍です。しおりの作成やディスカッションやキャンプファイヤー等の企画の運営などで先輩方が積極的に動く姿を間近で見ることができました。夏合宿を成功させるために各々役職に就きその役目を全うしている姿はとても印象的でした。そして最後の総括で感極まってお話をされている先輩方を見て改めて縦と横のつながりを強く感じました。この夏合宿に参加しなければ、このサークルに対する考え方もきっと変わらなかったと思います。楽しいだけでなく、たくさんのことを感じ学ぶことができた夏合宿でした。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 山田晃大

今回の夏合宿は友達を増やすことが目的でした。200人以上の参加者がいるわけで、これは交友範囲を広げる絶好の機会だと思い参加しました。しかし同時に、深い関係になれる友達ができるか不安でした。200人以上と4日間を過ごすわけで、そうすると1人と話す時間は短くなり、言葉を選ばず言うと上っ面の関係で留まるのではないかと不安でした。しかし杞憂でした。このサークルは個人をちゃんと見てくれました。4日間という短い時間の中で、自分を表現する機会を与えてくれました。私が話をする则皆が真剣に話を聞いてくれました。そしてなにより私の不安を解消してくれた原因は先輩方の最後の総括です。先輩方が涙を流して話をしている姿は、いかに濃密で素晴らしい4年間をこのサークルで過ごしたのかを如実に物語ってくれました。そして自分もそのような思い出を、先輩、同期、そしてこれからできる後輩と築いていきたいという目標ができました。今回の合宿は、大勢の親友、尊敬できる先輩、1つの大きな目標を与えてくれました。来年も再来年も3年後も行きたいと思います。

(16班)

日本大学 経済学部 経済学科 4年 吉田真唯

私は4年生として最後の夏合宿に参加するにあたって、2つのことを目標にしていました。1つ目はイベント班の班長として、前任の先輩方の想を受け継ぎキャンプファイヤーを成功させること、2つ目は同期・後輩関係なく交流し、最高の思い出を作ること、です。全日程が無事終わり、後輩の総括で、「キャンプファイヤー楽しかった」という声や、「先輩方と仕事できて本当に良かった」という話を聞いていて、私はたくさんの信頼できる後輩に恵まれていると気づくことができ、思わず涙が溢れました。そして何よりも、今回の夏合宿を成功させるべく様々なところで頑張っていた同期を誇りに思います。あと半年となったアカデミー生活ですが、これからも信頼できる同期・後輩とともに精進して参ります。最後になりましたが、イベント班の班長に任命くださり、このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生をはじめとする幹事の皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 内田真衣

私は今年の夏合宿を通して感じたことが3点あります。

1点目は、後輩の成長です。私たち16班は4年生1名、3年生1名、2年生3名、1年生25名の計30名で参加しました。2年生の3名はそれぞれ役職を貰い一生懸命頑張っている姿

を目にしました。また、役職につくことで先輩、同期と蜜に関わり、多くのことを学んだように見えました。彼らを1年生の時から見てきた身としては今回の成長は大変嬉しく思いました。1年生の25名もディスカッション班や、宿舎などの自分の班と離れた場所でも友達を作り、自分の意見をしっかりと述べ頑張っている姿を見ることが出来ました。合宿参加前は「行くか迷っている」という声が多く上がっていた中、合宿後はみんなイキイキとして、「合宿楽しかった。行けてよかった」や、「後期からの活動ももっと頑張りたい」などの声を聞くことができ、みんなで行けて良かったなど感じる合宿になりました。

2点目は4年生の偉大さを改めて感じました。幹事長の出崎さんをはじめ、4年生には沢山助けて頂きました。合宿準備中から細かい所まで気を配り何度も打ち合わせをする姿や、当日臨機応変に対応する姿など、学ぶところが沢山ありました。

3点目は、自分の至らなさを痛感致しました。私は今回、幹事長補佐、生活班、16班班長として臨みましたが、全てにおいて満足のいく仕事が出来なかったと感じております。沢山の人にご迷惑をお掛けしてしまいました。その様な中、指導して下さる先輩や、支えてくれる同期、ついてきてくれる後輩がいることにとっても感謝しています。来年は自分が支えられるように努力していきたいと思いました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった梅沢先生、宿舎の方々に大変感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 川田修希

今回、私は初めて生活班という役職をいただきました。何もわからなかった昨年度よりも今年主体的に行動することを意識しました。しかし準備の段階ではやはりわからないことが多く先輩達に指導してもらってばかりでした。夏合宿本番では少しでも多く役に立とうと仕事を率先して行おうとしました。生活班の仕事はとても大変でしたが、様々な先輩方に助けていただけたためとても楽しく出来ました。また夏合宿の最終日にたくさんの先輩に褒めてもらったり後輩達にも「かっこよかったです」と言って貰えたり本当に頑張ってくれました。今年自分が出来なかったことや少しでも尊敬する先輩方に近づけるよう今後のアカデミー活動を精進していきたいと思えます。最後にこのような機会を作ってくくださった梅沢先生、本当にありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 川端啓

私は今回2回目の夏合宿で、撮影班という役職をいただきました。まず自班の16班では1年生が25人も来てくれてとても喜ばしいことでした。その中でも今まで関わらなかった班員と夏合宿の中でとても仲良くなることができました。また4年の吉田まゆさんが最後だったこともあり、寂しさとともに後期吉田まゆさんから少しでも多くのことを学ぼうと思

えました。次に撮影班といたしましては先輩方がとても優しく、楽しい役職でした。特に学年、全体写真を撮るときは猛暑の中で多くの方々に待ってもらっているので、撮影班、そして移動班に協力してもらいながら、積極的に声を掛け合い上手くできたと思います。夏合宿では多くの方々の尊敬すべき所と私自身の足りない部分と多くの学びがありました。この学びを今後のアカデミー生活で活かしていきたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 宮田昂育

今年は昨年に引き続き 2 回目の夏合宿に参加させて頂きました。昨年初めて夏合宿に参加した時と比べて、見えるものと感じるものが大きく変わったなと思いました。また今回の夏合宿ではイベント班という役職を与えて頂き、やはり昨年度とは大きく異なり、自分自身とても成長した 4 日間でした。

私のイベント班としての主な仕事は初日のバスレクと 2 日目のキャンプファイヤーでした。任された仕事はしっかり役目を果たす、これを念頭に 4 日間過ごしました。実際にバスレクの司会をやらせて頂き、人を楽しませる、笑わせるのはこんなに難しいのかと感じるとともに、改めて先輩の偉大さを感じました。随所で 1 年生がつまらない思いをしてないか、何か困っていることは無いか、常に気を配り周りを見ながら進行していくのはとてもやり甲斐を感じました。とても小さなことであっても、合宿を終えていま振り返ってみれば、想像以上に大切な事であったと思います。

キャンプファイヤーにつきましては、失敗があれば、それは全体に大きく影響してしまうということを教わりました。失敗しないためにあらゆる場面を想定したシミュレーションを行い、万全を期してキャンプファイヤーの運営を行いました。イベ班全員のキャンプファイヤーを盛り上げて成功させるという執念の動きを姿を目にして、とても刺激を受けると同時に、私も負けていられらなと感じました。改めて先輩方の偉大さと行事の運営に関わることの大変さとやり甲斐を感じました。先輩方には感謝の気持ちしかありません。

イベント班の一員として微力ながら夏合宿を運営する側に携わらせて頂き、今回の夏合宿もとても有意義な時間を過ごせて、かなりの充実感を味わうことが出来ました。

1 年生の時には気付くことのできなかつた先輩の動きと偉大さを吸収したことが今回の夏合宿の大きな収穫であり、来年は自分も先輩方のような動きをしたいです。そのために今後のアカデミー活動の中で、多くの学びを得ながら成長していけるよう、活動してまいります。最後にこのような貴重な機会を与えて下さった梅沢先生、先輩方、宿舎の方に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 新井友理

私は、今回途中から参加させていただいて 1 泊 2 日という短い間でしたがとても楽しく良

思い出ができました。途中からで馴染めるかな、日大以外もいるんだよな、と不安でしたが、たくさんの方が声掛けてくれて着いた瞬間からホッとしました。4年生を中心とした幹事をしてくださった先輩方に感謝を申し上げます。ありがとうございました。夏合宿で出来た繋がりを大切に、これからも活動頑張っていきたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 伊藤駿佑

私は今回の夏合宿を通して、どのようにして先輩方が人間力を高めていったのかが少しわかったような気がしました。高校までは各クラスで二人一組で行う様々な「係」というものがありました。しかし、このサークルでは一つの係に対する仕事量がとても多くなっており、人数も二人という少人数制ではなくなっているため、一人一人が主体的に行動し、連携をとることが大事になってきていると思いました。そこで一人一人が夏合宿をより良いものにしようという共通の意識を持って、お互いを高め合い、仕事に取り組むことによって自分の人間力を成長させることができるのではないかと私は思いました。今までの活動では先輩に助言をもらいつつ、活動していたので、後期の活動では私達一年生自身で主体的に考えて行動するという意識を持って活動したいと思います。

最後になりますがこのような機会を与えてくださった先輩方や先生、宿舎の関係者の皆様には深く感謝しております。本当にありがとうございました。

日本代表 経済学部 産業経営学科 1年 伊藤圭彦

合宿を振り返ってみてまず最初に思い浮かんだことは「先輩ってすごいな」でした。アクシデント等が多発し、予定通りに進まない中で誰一人としてイライラする方はいませんでした。むしろ僕たちを気遣ってくださり、なるべく予定が円滑に進むようにサポートしてくださりました。僕は合宿の前に自分の事情で忙しく、準備もそこそこで出発しなければなりませんでしたが、他の方々のように合宿の目標はありませんでした。しかし先輩方はそんな僕でも温かく迎え入れてくださり、バス移動等の退屈な時間も僕たちが暇しないように気遣ってくださりました。僕はこの合宿で先輩方の偉大さを知ることができました。本当に合宿に行ってよかったと思います。

日大大学 経済学部 経済学科 1年 大貫有子

初めは行くか迷っていた夏合宿でしたが、なぜ迷っていたのか分からないくらい充実した3泊4日を過ごす事ができました。充実していた1番の理由は大東、日大関係なく友好関係を築くことができたことです。バスの座席、宿舎の部屋割、ディスカッション班、打ち上げなど全てにおいて様々な人達と関わる事ができました。特にディスカッション班では1~4

年生と幅広く意見交換をする貴重な経験ができ、とても勉強になる事が多かったです。今回の合宿を通して先輩から学んだ事が沢山あります。とても頼りがいがある私もこんな先輩になりたいと思いました。後期からはもっと積極性をもってアカデミーに取り組んでいきたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 金井泰平

私はこの合宿を通して様々なことを学びました。山登りやキャンプファイヤーなど、印象に残る行事はたくさんありましたが、普段の生活が1番思い出に残っています。例えば、宿での自由時間、食事、バスの移動などです。本当に最初は不安が大きく、みんなと上手くやっ
て行けるのかなどという思いを抱いていましたが、それは皆さんも同じだったようで直ぐに打ち解けることができました。この過程は自分にとって大きく成長できたと自信もって言えます。知らない人が多い中で生活するという普段ではできない貴重な体験ができました。そしてなんととっても驚いたのは先輩達のすごさです。的確な指示、瞬時な状況判断など1~3歳差だけで自分がここまで変わらなくてはという目標と、見習わなくてはという尊敬で溢れました。他にも細かい部分を含め、自分はこれからどう改善していけばいいのか、どこに自信を持っていいのかという方向性に対し、客観的な分析ができたと思います。この濃かった4日間を後期につなげ、いずれ尊敬される先輩を目指して頑張りたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 金子莉乃

私はこの4日間とても有意義な時間を過ごすことができました。出発するまでは不安でいっぱいでしたが、先輩方のおかげでとても楽しむことができ、たくさんの友人も作る事ができました。また、どんな状況でも臨機応変に対応している先輩方の姿をたくさん見てとてもカッコいいなと思い、自分もこうなりたいと感じました。今年は自分のことでいっぱいになっていたのも、来年はもっと周りを見て先輩方をサポートできるように頑張りたいと思いました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 齋祥悟

今回夏合宿に新規生として参加させていただきました。普段関わりのない他大学との交流や友達との生活を体験しました。それらの活動を通しコミュニケーション能力の向上や自己主張の大切さ、様々な人の多様性を学びました。普段私たちは日本大学という小さいなかで友達を作り、アカデミー活動では話し合いをしています。なので普段の環境からなのか発言方法や内容が一定に固定されているよう思いました。しかし大東文化大学との交流を通し、普段とは違う環境での意見が聞け、こんな考えがあるんだなど興味が持てました。この

ように小さい枠組みで話を聞くのではなく様々な人の価値に触れるのは大切な事だと思いました。アカデミーはそんな経験を得る場所を提供してくれて、合宿により得たものは大きいと思いました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 斎藤百夏

私は8月2日～5日と合宿に参加し、様々な体験をしました。

入学して初めての合宿ということもあり、「友達出来るのか」「楽しくやっていけるか」等、不安が沢山ありました。しかし、いざ合宿が始まってみると、先輩方が企画した他己紹介やビンゴゲーム等、同じ学科の人達と仲良くなれるようなイベントがあったので最初にあった不安はすぐになくなり、友達ができました。

その時できた友達と食事したり、部屋で話したりして、さらに打ち解けることができました。やはりこれからの大学生活、友達がいた方が楽しく充実した日々を送れると思います。なにより私自身友達が欲しいという気持ちがあったので、合宿という行事を通して同じ大学の人や違う大学とふれあえたのはとても良かったです。

まだ名前と顔が一致しない同期や先輩がいるのでこれからのサークル行事で話せるようになれば良いと思います。また今回仲良くなれた人とは更に仲良くなりたいです。

そして、先輩たちの活躍を見て来年の頑張る意欲が湧きました。来年の合宿は頑張ります。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 堺大輔

夏合宿は自分の中で成功だと感じています。私は様々な人と交流を深め多様な考えに触れることを目標にしていました。この合宿で、多くの人と話す機会があり、お互いの価値観を共有することができました。このサークルの全体の目標はよくわかりませんが、個人的な目標自体は達成できたと感じています。とても充実した時間でした。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 嶋崎陽介

今回この合宿に参加するにあたって、私にはいくつもの不安がありました。しかし、帰って来てみると意外とあっという間の出来事であり、楽しかったということが印象に残っています。特に私はバスや宿舎、山登り、ディスカッションの際の先輩方の活躍が大きなものであると感じました。どの場面でも先輩方が話しかけてくれたり、ディスカッションでは意見をまとめたりとリードしてくださりました。こうして縦のつながりが増えるのだなと実感しました。そして先輩方のサポートから同期の友人ができることもあり、横のつながりも築くことができました。自然に囲まれ、電波も届かないような環境でつらいなと最初は思いましたが、そういった環境に身を置くことで普段とは違う生活が可能であり、また、宿舎の方

がおっしゃっていたのですが「スマホと会話をしない」ということが人同士の関係を深めるのによかったと思います。

短い期間ではありましたが、大勢の前で発表したり、人間力の向上につなげられたと思います。この合宿を企画してくださった先生、先輩方には感謝しかありません。ありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 高木陽香

今回新規生として合宿に参加した私の夏合宿の目標は大東生、日大生、上級生、同輩、関係なく沢山の方とコミュニケーションをとり様々な考え方を共有して人間的に成長をする、というものでした。初対面の人と生活を共にすること自体初めてだったので先輩に対して失礼な事をしないか、上手くコミュニケーションがとれるのか、とても緊張しましたが、この合宿に参加しているほとんど全ての方が気軽にそして優しく接して下さったので私自身も純粋にこの合宿を楽しめました。特に多くの時間を共にした同じ宿舎の方々はずぐに名前を覚えてくださって、気軽に読んでいただいたり、大学や年齢関係なく一緒にゲームを楽しんだりどこを切り取っても素敵な思い出ばかりです。ディスカッションの時間ではどうすればより良い活動になるのか、沢山の意見が飛び交い他の方の意見や先生の指摘をいただき自分の考察力や伝え方の能力不足を痛感しました。これらの経験をもとに普段からより慎重に深く考えようと思いました。この合宿を通して正直に1番実感したことは、先輩方の臨機応変な行動や入念に準備がされていた事による計画力です。合宿中、私たち1年生はどのように行動すれば良いのか、どのような判断をしたらいいのか、ほとんど先輩方の指示で動いていた様に思えました。1年前には私たちと同じ境遇だった2年生の先輩が俊敏に動いている様子を見て来年同じように働けるか不安になりましたし、3年生、4年生のプランニングの力や判断力は本当に驚き私もそのような人になりたいと切に思いました。今後もこのような先輩方と一緒に活動できるのを誇りに思い、その時間を大切にしようと思いました。最後にこのような機会を与えてくださった梅沢先生に感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 田中美帆

私は今回の夏合宿を通して様々な体験が出来ました。今回、途中参加という事で友人ができるか、楽しく過ごせるかなどの沢山の不安がありました。しかし、実際参加してみると他大学の方、先輩方、皆さんが優しく接して下さり沢山の楽しい思い出を作ることができました。また、他大学、先輩との交流を通じてコミュニケーションの大事さを改めて実感しました。同室に知り合いが居ないこともあり不安でしたが、自ら積極的に話しかけることによって人脈が広げられたと思います。初めてなことばかりの合宿でしたが、改めて先輩方の偉大さ

を実感することが出来ました。来年の合宿では、少しでも先輩方に近づけるように頑張ります。

日本大学 経済学部 経済学科国際コース 1年 棚田咲紀

私は合宿の3日目から参加したのですが、みんなすぐに仲間に入れてくれて本当に嬉しかったです。先輩たちが指示を的確に出して下さったりまとめてくださったり、時には場を盛り上げてくださり感謝しかないです。自分も今後みんなから信頼される先輩になりたいと強く思いました。これからのアカデミー活動では、先輩の背中をしっかりと見てついていきたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 中根優太

僕は今回の夏合宿に参加して、人との関わり合い、助け合いの重要さに改めて気付かされました。この夏合宿の成功も先輩方がお互いをフォローしながらやって成し遂げた結果もさることながら、信頼関係がないとできないことです。総括の3.4年生の涙を見て僕はこのサークルで自分は何か成長できるかもしれない、人間力とは何かという事が分かるかもしれないと思いました。この経験を活かして、今までとは違い先輩方に言われてからではなく自分から積極的に行動していきたいと思っています。最後になりますが、このような機会をくれた先輩方、先生に本当に感謝しております。ありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 橋本美緒

この夏合宿を通し、多くのことを学びました。この夏合宿に参加する前、私は人見知りなので、友だちができるかやみんなの前で堂々と発表できるかという不安な気持ちが大きくありました。実際に夏合宿に行くと、話したことがなかった人とご飯を食べたり、自由時間を過ごす中でコミュニケーションが取れて、その不安はすぐなくなりました。また、先輩方がこの合宿のために朝から夜遅くまで動いて下さっていた姿がとても印象深いです。私たちがスムーズに動けるように指示を出したり、山登りの時に優しく声をかけて下さったりと先輩方の存在の大きさを改めて感じました。ディスカッションでは、日大、大東、学年が違う班員から自分とは違う考えや意見を聞き、その中で自分の考えを深められたと思います。また、発表者を決める時の同期の積極性に刺激を受け、私も発表する機会を増やし、人前で話すことに慣れたいと強く思いました。これからも木アカに積極的に参加し、自分の力を伸ばしていきたいと思っています。それに加え、今回の合宿で知り合った人たちとの仲も引き続き深めていきたいと思っています。

日本大学 経済学部 金融公共経済学科 1年 平尾太一

私はこの夏合宿で、合宿を上手く回すために一生懸命働いていた先輩の姿を沢山見てきました。予定に変更があっても活動に支障がないように立ち回り、ミス無く仕事をこなす姿に尊敬しました。この先輩方の姿を見習って、日々自身も成長できるように頑張りたいと思いました。合宿を有意義なものに計画してくださった先輩方や優しい同期に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 福原滉己

まず今回の夏合宿楽しく思えたのは先輩達のおかげだと思ってます。それを強く感じたのはキャンプファイアーです。キャンプファイアーではじゃんけん列車やマイムマイム、面白い司会など全ては先輩達がいて初めて成り立っていたものだと思いますし、自分もすごく楽しめました。他にも宿舎で皆をまとめてたり、一年が寝てる間も先輩方は活動していて、本当に尊敬します。自分も、こうした先輩方の行動を見て、来年自分がその立場になった時は、こうした先輩方の行動を見習って自分の仕事を全うしたいと思います。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 房園健也

僕は今回のアカデミー合宿に参加して特に良かったと思うことが二つあります。一つ目は普段関わらないような大東文化大学の生徒と交流できたことです。合宿に参加する前は知り合いがほとんどいなかったので楽しみより不安の方が大きかったけれど実際に参加して仲を深めることができたので良かったです。二つ目は先輩たちの行動を間近で見れたことです。先輩たちは合宿を素晴らしいものにしてくれるために合宿の前から多くの準備をしてくれて、一年生が夜寝ている間も仕事をしてしてくれていました。このような先輩を見習って今後の生活を送っていこうと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 細谷直希

この合宿に行って良かったことの中で特に良かったと思う2つを挙げたいと思います。

1つ目はどんな事にも迅速に対応できる行動力、大勢の人をまとめる統率力、皆を楽しませる発想力、他にも様々な力を持っている先輩方を間近で見ることができたことです。自分もこんな先輩になりたいと強く思い、とても尊敬しました。

2つ目は人脈を広げることができたことです。この合宿の中で日大1年だけでなく、先輩、そして大東の人達、様々な人達と関わることができました。この繋がりを合宿だけのものにせず、これから先ずっと続いていく繋がりにするためにもこれからの活動に力を入れてい

きたいと思いました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 松井将樹

今回夏合宿に参加させていただいて、普段できないような様々な経験ができました。なかでも印象に残っていることは先輩の行動力と宿舎で過ごしたことです。先輩方が役割を決め、いろんな企画を用意して下さっていたり、沢山の一年生をまとめ上げていたり、来年自分にもこんなことができるのかと思いついていました。また、宿舎で過ごしたことは先輩方と仲良くなれるきっかけにもなりました。最初は知らない人も多く仲良くなれるか不安でしたが宿舎で一緒に過ごすうちにたくさん話したり遊んだりできました。沢山の先輩同期と仲良くなれて嬉しかったです。来年の夏合宿には先輩の行動を単に見るだけでなく自分もみんなを楽しませ、支え合っていけたらいいと考えています。このような素晴らしい夏合宿に参加させていただいて本当にありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 松本彩里

今回の夏合宿に参加する前は不安や緊張しかありませんでした。しかし、私は今回の夏合宿に参加して、大学や年齢関係なく、たくさんの人と関わることができました。特に他大学との交流は、とても新鮮で、貴重な体験でした。大自然の中でのディスカッションは、たくさんの緑に囲まれ、いつもとは違うメンバーで意見を交換しあい、普段の木アカとはまた違った気分に参加することができました。自分の意見を言うのは苦手だけど、こういう機会を1回1回大切に、少しずつ慣れていけばいいなと思います。また、先輩方が朝早くから夜遅くまで係の仕事などを一生懸命やっている姿を見て、とても尊敬したと同時に憧れました。私も来年は先輩方に近づけるように頑張ります。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 真弓陽行

自分は今回の合宿に参加するまではインターンと梅丸会に出た後に辞めるつもりでそれくらい魅力のないサークルだと思っていました。しかし合宿のために準備を頑張ってくれている先輩の姿を見て憧れを抱きました。合宿に参加して誰かのために働きたいと思ったのはこのサークルが初めと言っていいほど素晴らしい合宿でした。来年は先輩の力になれるように頑張りたいです。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 溝上菜月

私は今回の合宿は、4日から1泊のみの参加となりました。行くまでは既に出来上がった輪

の中に途中から入らなくてはいけなかったのもとても不安でしたが、先輩や同級生が「大丈夫？」「新幹線で来たの？」「日大？名前は？」と沢山声を掛けてくれて、とても温かく迎えて下さったので行くまでの不安が嘘だったかのように楽しむ事ができました。ディスカッションでは、外で行ったので虫がとにかく沢山飛んでいて、私は虫が苦手なので羽音などが気になってしまっていたのですが、1つの議題に対して2回に分けて行った事で普段のアカデミーの活動の時よりも深い話が出来たと思います。また、打ち上げなどでは班の皆とより仲を深められたのでよかったです。総括では先輩方の話にとっても感動しました。自分も先輩方のように最後の合宿で涙を流せるくらい普段の木曜アカデミーの活動も含め、来年以降の合宿も頑張りたいです。短い間でも普段は出来ないような貴重な体験が出来たので、行ってよかったです。来年もまた参加したいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 柳翔子

私はこの夏合宿を通して、自分より他の人を優先して動く先輩方の姿が強く印象に残っています。スケジュールが押ししている中でも冷静かつ的確な指示で全体を動かし、嫌な顔ひとつせず仕事をこなす姿はとてよかったです。この先輩方の姿を忘れず、日々自身も成長できるように頑張りたいと思いました。また、サポートしてくださった先輩や同期にとっても感謝しています。ありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 山下京香

今回初めてこの合宿に参加して、最初は今まで関わりがなかった人や大東の人たちと上手くやれるか不安が大きかったです。みんなが優しく、先輩方がいろいろと準備をして引っ張ってくださったおかげで、多くの人と関わって楽しい合宿にする事が出来ました。東京では体験することの出来ない沢山の自然に囲まれた環境で、普段同じ班ではない人とディスカッションを行うことができ、とても新鮮なでした。山登りでは多少の困難はありましたが、お互いに励まし合いながら同じ班のメンバーとさらに仲を深めることができたので、今後のサークル活動も良い方向に進めることが出来るのではないかと思います。また今回の合宿だけでなく、普段の活動で他の班の人とも一緒に活動する機会が増えたらなと思います。最後に、今回の合宿で学んだ先輩方の多くの人を一度に動かしたり、臨機応変に対応する行動力や判断力を来年からは自分が実際に行動に移して、生かして行きたいです。

(17班)

日本大学 経済学部 経済学科 3年 春本哲郎

私は今回で3回目となる夏合宿に参加させていただきました。今年の夏合宿は、2つの目標がありました。1つ目は参加してくれた新規生に「楽しかった」と言ってもらうことです。WS班長を務めさせていただいていることもあり、これまで参加した2回の夏合宿とは違った責任と覚悟を感じていました。私が所属する17班は新規生を多く集めることができず、さらに班長の交代や4年生の不在など、他班に比べて圧倒的に力不足が露呈していたと思います。にもかかわらず、今年の夏合宿に17班から5人の新規生が参加してくれました。5人という数字は決して多くはありませんが、この5人の新規生に夏合宿に参加してくれたことへの感謝を表して、是非満足してもらいたいと思い、夏合宿に臨みました。

2つ目はイベント班として230人全員を楽しませることです。昨年に引き続きイベント班の仕事をお願いした中で、今年はキャンプファイヤーの司会を務めさせていただくことになり、私を任命してくださったイベント班班長の吉田さんの期待に応えたい、最後の夏合宿になる4年生全員を楽しませたいと思いました。様々なトラブルを抱えながらも、結果として4年生の皆さんから「ありがとう」「楽しかった」といったお言葉をいただくことができただけでなく、学年問わず多くのアカデミー生が喜んでくれたこともあり、私個人としては最高に嬉しい瞬間でした。これらのお言葉をいただけたのは、イベント班全員が各々の役割を全うし、4年生の背中をみてきた3年生が2年生と力合わせたからこそ生まれた全員の成果だと思います。今年のイベント班の一員でいることができて本当に幸せでした。

最後に、このような他所では経験できない夏合宿を企画・運営してくださった梅沢先生をはじめ幹事の皆様、先輩同輩後輩に心より感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。来年も是非夏合宿に参加し、これまでの3回とは違った景色を同期みんなで見たいと願います。

日本大学 経済学部 産業経営学科 3年 山田康加

私は今回初めて夏合宿に参加させていただきましたが、今までの学生生活の中でも特に有意義な時間を過ごすことができたと感じました。なぜなら、大東と日大といった大学の垣根を越え、多くの人と関わることができたからです。

私は編入した関係で今年からアカデミーに参加させていただいているため、ワークショップ班以外の方との関りはあまりありませんでした。そのため、初対面の方とうまくコミュニケーションとれるのかという不安を持ちながら参加しました。しかしながら、そのような不安は最初のバスで先輩がやさしく話しかけてくれたことやバスでのレクリエーションを通して、解消されました。また食事の時間からキャンプファイヤー、ディスカッション等までで様々な方とお話することができました。さらにディスカッションでは、普段のWS班とは異なる方とディスカッションを行ったため、新鮮かつ自分では思いつかないような意見を共有できたという点で、特に印象深く残っています。

そして、もう1つ印象に残っていることがあります。それは先輩・同期・後輩たちの合宿

運営力です。生活班・移動班・ディスカッション班・イベント班・会計班の皆さんが、私たちの合宿を安全・快適・有意義に過ごせるように、身を粉にして働いている姿を拝見して、感謝してもしきれない感情を抱きました。特にトラブルが発生した時への対応力や柔軟性は、各班が団結力のおかげで解消できていたのだと痛感しました。私は3年生ですけども新規なので、そこに携わることができないことが深く心残りとなりました。しかし組織運営のノウハウを今回感じ取らせていただいたので、今後の人生に活かしていきたいと強く感じました。

最後にこのような機会を与えてくださった梅沢先生、諸先輩、同期、後輩、宿舎関係者の方に感謝しております。夏合宿で築いた経験を大切に、今後のアカデミー活動に邁進していきたいと考えております。

日本大学 経済学部 産業経営学科 2年 寺園理乃

私は、今回の夏合宿を通して先輩方の偉大さを実感しました。2回目の参加となる今年の夏合宿では、生活班という役職を頂き参加しました。事前準備では、夏合宿に必要な備品の買い出し、お酒やおつまみなどの予約などを行う中で、想像していたよりも苦戦することが多くありましたが、新規生として参加した昨年よりも夏合宿の運営に携わっている事を実感しました。また当日は決められた仕事だけではなく、臨機応変に行動したり、率先して行動したりしている先輩方の姿を目の当たりにし、自分の未熟さ、そして先輩方の偉大さを改めて実感したので、これからのアカデミー活動に積極的に取り組み、成長したいと感じました。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった梅沢先生、幹事の皆様、先輩方、また宿舎の方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 小川開生

今回初めての合宿ということで、多くの不安なことがありました。例えば知らない先輩の方や大東生とうまくコミュニケーションが取れるかどうか、ディスカッションの際に自分の発言をしっかりと周りに伝えることができるかなどがありました。ですが人脈形成の機会がこれほど多く用意されている事はこのアカデミーの強みであり、それを活かさない手は無いと思いこの合宿に参加しました。班長の春本さん、同部屋の宮田さんをはじめどの先輩方や大東生も気さくに声をかけてくださり出発前の心配は全くなくなりました。ディスカッションの際も班長が上手に私を含め全員の意見を聞いてまとめてくださり、その意見に対する考えやアドバイスなどを的確に頂けた事で私の中の考え方が広げられました。

私はこの合宿を通して色々な役職についている先輩方みんなが生き生きして取り組んでいることに感銘を受けました。イベント班はバスのレクリエーションからキャンプファイヤーまで、生活班は日々の生活の管理、移動班は私たちが道を間違えないための誘導、撮影班

は楽しそうなみんなの写真の撮影と皆さんお忙しいはずなのに生き生きと笑顔で活動している様子を見て私もこのような先輩になりたいと感じました。特に私たち17班の班長である春本哲郎さんには本当に憧れています。なぜなら人数の少ない17班のみんなに声をかけたり、みんなを笑わせようと明るく振舞っていたり、キャンプファイヤーの際には司会としてその実力を存分に発揮しており、こんな先輩になりたいなと憧れを持ちました。まとめとしては多くの人と多くのイベントを通してコミュニケーションを取れたことは自分の中の世界を広げるきっかけとなり、これからの人生に大きな財産となると感じました。これから普通の木アカから積極的に参加し、多くの経験を積んでいきたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 田村柗介

私は今回の夏合宿に行く上で、多くの人と喋った事がないこと、またそのような環境でうまく馴染めるのかという点がとても心配でした。特に大東生とは顔すらも合わせた事がないのでとても緊張していたのは事実です。ただ、今回この合宿に参加したのは普段のWS班のメンバーではない初対面の先輩や同期とのコミュニケーションをとり、多くの人と話せるようになりまた友達になりたいという思いからなので、自分から積極的にコミュニケーションを取りに行こうと思ってこの合宿にのぞみました。

実際に合宿に参加してみて思ったこととして、宿舎のメンバーに恵まれた点や思っていたよりみんながフレンドリーでとても馴染みやすい環境であった点です。私は宿舎の部屋にとっても仲の良い先輩がいたのでその点ではかなりあたりだったのですが、先輩などは知らない人が多かったので、先輩や大東の人と仲良くなるために積極的に話しかけに行きました。1日目にはあまり話せなかった人も4日目には普通の友達みたいに話せるようになりました。3日目のディスカッションでも新しいディスカッション班での活動だったのですが、みんなとても話しやすく、みんなで意見を出しまとめて発表する事が出来ました。また登山では普段のWS班17班で行ったのですが、それはとても仲が良い17班にとっては良い思い出になりました。

そして4日間を通して一番強く心に残った点として、先輩方の活躍が挙げられます。私は一年生なので役職としての仕事は何もなかったのですが、先輩方は仕事をしていて、自分たちが部屋に入った後も夜遅くまで仕事をしていました。そういう姿をみて私も来年以降先輩のように率先して働けるような人になりたいと思いました。

まとめとして今回の合宿では先輩同輩関係なく様々な人とコミュニケーションをとり人脈を広げられたなあと感じました。また自己紹介やディスカッション班での発表、総括を通して人前で話す能力が少しはついたと思いました。

これからの活動でも積極的に発表をして合宿での経験を生かし自分を成長させていきたいと思っています。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 畑武蔵

自分はこの合宿で普段関わりのない人との交流をたくさんできたら良いと考えていました。実際合宿に行ってみると、他大学の生徒や他学年の先輩達など普段関わることのない人達と関わることができました。

それと、合宿ではディスカッション力を養うことができました。ディスカッション班で知らない人同士、一つのお題について考えを共有し一つのより良い考えと洗練していく、このディスカッション力は今後のアカデミー活動においてもとても重要な力であると感じました。後期からの活動では合宿で養った人脈、ディスカッション力を活かして活動に力を入れていきたいです。

(18班)

日本大学 経済学部 産業経営学科 4年 田幡将長

私は今回の夏合宿を通じて、改めて同期の大切さや先見性の大切さを学びました。

まず、今回の夏合宿で同期とはこれまでのアカデミー生活で1番深く関わりました。そのため考え方の違いや不満など、これまでには無かった問題もあがりました。しかし事前準備などを通して同期の凄さや大切さを改めて実感することができました。特に移動班ではたくさん同期に助けられました。私は移動班の班長を務めさせて頂きました。同期の移動班は皆、他の班と兼任をしていたため1人で頑張ろうとしていました。しかし、私が行き詰まった時に相談に乗ってくれるのはいつも同期でした。皆自分の仕事で忙しいにもかかわらず、本当にたくさん助けてもらいました。夏合宿3日目の同期会の際、短い時間ではありましたがとても楽しい時間を過ごすことができました。夏合宿の疲れを感じさせないほど、本当に幸せな時間でした。

次に、今回の夏合宿で移動班班長としての役職を通して先見性の大切さを学びました。私は先を見通して考える事が苦手です。しかし短い準備期間、イレギュラーな事が多く起こる夏合宿では先を見据えて行動する事がとても重要でした。自分の考え方のあまさによって思うようにいかないこともありました。

今回の夏合宿は今までで1番厳しい夏合宿でしたが、1番達成感を得られた夏合宿でもありました。この夏合宿の経験を活かしてこれからのアカデミー活動や私生活に活かしたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 4年 宮田秀俊

夏合宿を終えた今、率直に感じるのは達成感、それと空虚感の2つです。私は主にディスカッション班班長として4年生の最後の夏合宿に参加させていただきました。事前準備や当

日の動きは思っていた以上にハードで、正直3年生の頃は全く想像もしていない程でした。特に合宿中の自己紹介やディスカッション、総括は班長として自分がうまく進行してスケジュール通り円滑に進めなければいけないというプレッシャーもありましたし、大自然の中声を張って誘導や指示を出さなければいけない機会も多々ありました。だからこそ、大きなトラブルもなく夏合宿を無事終える時には非常に大きな達成感を感じ、嬉しかったです。もちろんこの成功は自分一人で成し遂げられたものではなく、班員や幹事の協力があってこそのもので、大いに感謝しています。総括で合宿のことを振り返り話していると、この達成感、そしてもう自分はアカデミーの夏合宿に来ることはないのだという空虚感から自然と涙が溢れました。1年生の頃から毎年この夏合宿に参加してきました。参加を迷う年もありましたが結局参加してよかったといつも思います。その夏合宿がもう来年からないと思うと寂しさ、虚しさを感じざるを得ないです。このサークルは縦と横の繋がりが強いと度々言われますが、そのことをこの4年間の夏合宿を通じ、身をもって体感することができたと思います。大自然の中で生まれた友情は簡単には壊れるものではないですし、夏合宿がきっかけで仲良くなった先輩、同期、後輩も数え切れないほどいます。今年もそうでした。キャンプファイヤーや宿舎飲みを通じ、大学や学年の垣根を超えた仲間がたくさんできました。そのような素敵な仲間とアカデミーで共に過ごせる時間も残り僅かなので、残された時間を大切にしていきたいと心の底から思いました。最後になりますが、このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生、本当にありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 大竹雄斗

私は今回、3年生という去年より一層責任感の強い立場として以下の2つのことを学びました。1つ目は運営の大変さです。1年生の頃から夏合宿のために奮闘する先輩方を見てきましたが、具体的にどういった点で苦労しているのかというのをしっかり理解していませんでした。しかし、今回私は会計班という役職をいただき、金銭の管理の難しさを実感しました。また、イベント班や移動班などの先輩や同期から苦労話を聞く機会が多く、こんなにも身を削ってくれていることに対して尊敬と感謝の念が溢れてきました。2つ目はアカデミーの温かさです。これは学んだというよりは再認識したことです。今回、私はディスカッション班の班長も務めさせていただきましたが、そこではほぼ全員が初対面の後輩でした。けれども、後輩たちはまるで普段のWS班の後輩であるかのようにフランクに話しかけてくれました。そのおかげで私も臆することなく円滑にディスカッションを取り仕切ることができました。この他にも温かさについては数え切れない程触れてきましたが割愛します。今回の夏合宿は私の中では大満足と言っても差し支えありません。これらの学びを通して、さらに来年は最高学年として後輩たちを引っ張っていきたい所存であります。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 岡田昂大

3年目の夏合宿では、イベント班と幹事長補佐と18班班長の3つの役職を頂きました。イベ班ではトラブルやイレギュラーが多々発生しながらも臨機応変に4年生が中心となって問題を乗り越えました。4年生のリーダーシップ性や柔軟な思考力、落ち着きなど本当に頼りになりました。またこの経験を通して同期の結束力も強固なものとなり、全員で来年のイベ班も引っ張っていきたいと思いました。幹事長補佐では幹事会に参加しながら230名を超える規模の夏合宿の運営の裏側を間近で見ることができ、大変勉強になりました。また三日目朝の幹事会では梅沢先生から組織論についてのお話を頂き、私たちがただの大学生がやるような合宿とは全く違うことを行なっていることに気づきました。これらは幹事長補佐をさせて頂いたが故に知ることができました。本当にありがとうございました。そして18班班長として当日参加20名の新規生を連れ、大自然の中、彼らに何をどう伝えれば私たちがこのアカデミーに所属し続けている理由を示せるのか迷い悩んでいました。答えが見つからないまま当日を迎え、背中で語るしかないと思いなんでも頑張りました。イベント班、幹事長補佐の役職のおかげもあり前に出て実際に新規生に先輩の頑張る姿を見せる機会もありました。彼らがこの合宿で何かを掴み、将来アカデミーを引っ張っていく存在に成長してくれるといいなと思っています。後期のアカデミー活動でも既存全員で工夫しながら新規生の定着を目指します。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 竹久保来嘉

私は今回で、夏合宿に3度目の参加となりました。今年も去年と同じく移動班として役職につかせていただきました。3年生ということもあり、去年よりも主体的に動き仕事を率先してこなすことができました。しかし移動班、班長の田端さんとは最後まで力の差を見せつけられていました。また、今年は初めて宿舎があぜりあになり、夏合宿幹事長の出崎さんの振る舞いには感銘を受けました。今回はハプニングも多かったですが、苦悩と葛藤のなかで最後までやり遂げた姿を見てこんな風になりたいと、憧れの存在ができました。今年の夏合宿は行ってよかったと本当に思えました。最後になりますが、こんな素晴らしい機会を与えてくださった幹事の皆様と、梅沢先生、本当にありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 3年 平塚愛

今年は後輩とのコミュニケーションを重視しお菓子を用意したり自分から声をかけたりして話しやすい雰囲気を作るよう心がけたことで、打ち上げの際には多くの後輩から一緒に写真を撮りたいです！と声をかけてもらうことができ、とても充実した夏合宿になりました。しかしながら反省すべき点も多くありました。去年に引き続き会計班という役職を頂きましたが、何をすべきか把握しきれなかったことで自分から動くことが出来ず、2年生への

指示出しや予算案の作成など多くの面で会計班班長である同期や先輩方に頼ってしまいました。また、同じWS班の同期が積極的に仕事を探したり周りへ指示を出したりと動いている姿を見て自分の不甲斐なさや未熟さを痛感しました。今後のアカデミー活動では、今回の反省点を生かしさらに成長できるよう精進していきたいと思います。このような貴重な経験を与えて下さった梅沢先生に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 松永大憲

3年生となった今年の夏合宿は、自班の後輩も増え、さらに移動班として参加させていただき、非常に充実したものになりました。私はこの夏合宿を通して、4年生の偉大さ、そして後輩の存在の大きさを改めて痛感いたしました。自然豊かな土地ゆえの急な気候変動などのトラブルも考慮し、様々な対応を瞬時に考え、実行し、200人以上の人をまとめ、リーダーとしてみんなの先頭を走ってくれた先輩方の背中是非常にかっこよく憧れのものでした。来年は自分たちが最高学年となるので、先輩方のように後輩から憧れられる存在になりたいとより強く感じました。そして、昨年まで新規生だった2年生が各班の仕事を全うしている姿を見て、いい刺激をもらうとともに後輩の成長を実感できました。また、新規生の子たちからも、夏合宿とても楽しかったとの声をもらい、とても感激いたしました。このような貴重な機会を与えてくださった梅沢先生には心から感謝申し上げます。この夏合宿での経験を活かし、後期の活動もより真摯に取り組んで参ります。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 衛藤咲月

私はディスカッション班という役割いただきました。役職をいただくことは初めてでどのように行動をしたらいいのか分からず1日目は自分の役割を全うできなかったのでお役に立てなかったのが悔しかったです。それから、先輩や同期の動く姿を見て2年生にもなって動けないことはだめだと改めて思い自分なりに一生懸命役割をこなしました。この経験を活かして後期の活動からは自分に出来ることは全力で取り組み、もっと自分が活躍できる範囲を広めていきたいと思いました。

あと今年は縦と横の繋がりが強くなったと感じた合宿でした。初めて他の大学、班の人と一緒に仕事をして、ただ飲みに行く時よりも仲が深まったように感じました。他にも2回目の夏合宿なので去年知り合った人達ともさらに仲良くなれ、今回知り合った人もたくさんいたので良かったです。普段の都会のビルの中とは違う自然に囲まれた環境では気持ちが開放的になることも手伝い、たくさんの人とお話のできたので良かったです。まだまだ他班1年生の知り合いは少ないのでこれからの活動を通して自分から積極的に話しかけ仲良くなっていきたいと思っています。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 金親英吾

今年の夏合宿はとても充実した物でした。その中で特に印象に残ったものは、イベント班のメインイベントでもあるキャンプファイヤーです。私たちイベント班は合宿の前から入念な準備やシミュレーションを重ね、キャンプファイヤーは成功を収めることができました。しかしそのキャンプファイヤーを通じて、やはり上級生の偉大さを感じました。合宿に行く前は4年生が引っ張ってキャンプファイヤーの計画を立て、イベント班のメンバーをまとめていました。合宿中には不測の事態が多々起きましたが、臨機応変に対応し、的確に指示をする4年生の姿がありました。今回私は、イベント班という仕事を通じて、全員に楽しんで頂こうと考えておりました。私自身合宿をととても楽しむことができました。また、イベント班として自分にできる仕事を全力で全うできたと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 須賀光星

昨年とは違い、2年生となり学年が上がり、役職もいただき、先輩方と仕事をご一緒させていただく機会も多くありました。今回の合宿は1年生が多く大変でしたが、先輩方が臨機応変に対応しているのを見て、感銘を受けました。夜遅くまで幹事長をはじめとし、先輩方が会議している姿も多く見受けられました。昨年私が参加したとき、先輩方が裏でこんなに頑張っているなんて知らなかったし、先輩方が更にカッコよく見えました。会議を毎日行い、アカデミー全体のことを考えているからこそ、こんなに規模の多いアカデミーをまとめることができる、組織力の凄さを改めて実感しました。自分は人見知りで消極的な性格であり、昨年の合宿では大東の友達を3人ほどしか作れませんでした。しかし先輩方から『同期を大切にしろ』とよく言われており、自分も人見知りを変えたいと思い、この合宿ではたくさんの人に話しかけることを目標にしました。結果的に多くの人と話すことができ、日大大東の同期みんなと話し、覚えることができました。大東の同期と一緒に仕事もし、熱い話もでき、意外と真面目な人多いなと感じました。逆に日大生にはないものを持っていたのでとても良い刺激になりました。これからも同期を大切に切磋琢磨していきたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 吉川崇平

私は今年の夏合宿を通して、230人という組織の中で、様々な人と接することで本当にたくさんのことを学びました。多くの友人ができ、また人間的にも成長できたと思います。準備期間においては、あぜりあ・生活班・宿舎に任命していただき、Excelを用いた作業や、当日の動き方の会議などを通じて、生活班という、合宿全体をサポートする仕事の大切さや難しさを学びました。また、出崎さんや町田さんをはじめとする4年生の偉大さをとても強く感じました。初日には、初めてのあぜりあで宿舎内の動き方があまりわからず、あぜりあに

は3年生の生活班の先輩がいないこともあり、しっかりと仕事ができるかとても不安でした。そんな中で、試行錯誤し、四年生の先輩方にもご指導いただき、なんとか生活班の動き方を掴んだ、そんな初日でした。二日目では、初日で気づいた様々な注意・変更事項などを生活班で話し合い、例えば、トイレ内の張り紙や、ごみ分別の注意など、その改善案を実行していくなかで、人に物事を伝えることの難しさや、風紀委員の立場の難しさをとても強く感じました。私は山登りには行かず、あぜりあ待機組として、急病人の看護等の仕事をしていました。その時に、あぜりあの宿舎にお勤めの方々とお話しさせていただき、宿舎の方々の優しさに触れ、私たちは宿舎にご迷惑は絶対にかけてはならないという責任感をより一層強く持ったことを覚えています。また、キャンプファイアーや懇親会では、たくさんの友人ができ、とても楽しかったです。三日目は、ディスカッションの印象が本当に強く残っています。ディスカッション班の班長である湯原さんを中心に、サークルの様々な課題について話し合い、その改善案を話し合う中で、班員それぞれのサークルに対する考えや思いが交錯し、本当に充実した時間が送れました。欲を言うならば、もっとディスカッションの時間があったらなと思います。また、打ち上げでは同期会をし、同期の仲を深めることができました。四日目は、やはり総括が一番印象に残っています。生活班として、他の班の4年生の方々と接する機会も多く、幹事会の様子も少しですが見ており、先輩方の涙に本当に感動し、感謝の念や、来年への決意を強く持ちました。私は、この合宿を通じて、梅沢人間力アカデミーの素晴らしさを改めて感じることができました。そのような場を設けて下さった梅沢先生には、本当に感謝申し上げます。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 青木颯我

今回の夏合宿では、先輩たちの頑張りを目で見て肌で感じることができ、とても有意義なものになりました。というのも普段の活動では、先輩たちがどのように自分たちに対して行動しているのかが見えづらいため実感しづらかったのですが、夏合宿では山登りやキャンプファイアー、懇親会などの準備をしている先輩たちの姿が見え、あらためて先輩たちの偉大さに気づかされたのと同時に、ありがたさや貢献度、献身性を実感しました。また先輩たちの夏合宿に対する思い入れにもとても驚かされました。最後の総括で涙を流している先輩たちを見て、1年生である自分自身に共感できる部分は少なかったが、思い入れの強さを体感することができました。一つのことをとても熱心に行い、最後涙を流すまでになるには大変な苦労があったのだらうと思います。しかしそれを乗り越え、責任を果たそうと奔走した先にある感謝の言葉や達成感、充実感を語る先輩たちの姿はいつも以上に輝いて見えました。そして自分が上級生になったとき同じようになりたいと強く感じました。とても充実した3泊4日で、本当に参加してよかったです。今回の経験は非常にモチベーションを刺激され、後期の活動の励みになりました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 荒井結妃

今回の夏合宿は長野の大自然という初めての環境の中で大学や学年を超えて親交を深めたり、山登りやディスカッションなどを通して初めての体験を沢山することができ、とても充実した時間を過ごすことができました。また、実際に参加して合宿の運営全体を通して先輩の姿から立ち回りや積極的に動く姿から学ぶことも多くあり、勉強になりました。今回は先輩方について行くばかりの合宿になってしまいましたが、後期の活動では自ら能動的に活動し、自主性を高められるように意識し、来年の合宿では率先して役職を全うできるよう頑張っていきたいです。来年もぜひ参加したいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 飯尾淳

この合宿で私が感じたことは多くの人と喋ることによって、コミュニケーション能力が改善されたことだと思います。三泊四日の経営合宿ではバスの座席から就寝部屋まで全て初対面の人がいたのがとても驚きでした。そしてそのことによって必然的に話さなければいけない状況に置かれたことがまた非常に新鮮でした。大学生活も3ヶ月が過ぎて新しい人との関わりが少なくなっていたのでとてもよい機会になりました。来年も行きたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 石橋英里

今回合宿に参加するにあたって、初対面の人ばかりの空間で4日間過ごす、バスの席の隣も、宿舎も知らない人と同じ部屋ということが、中高一貫校で6年間ずっと同じメンバーで過ごしていた私にとって全く予想もつかないことばかりで不安ばかりでした。しかし、合宿が終わった今振り返るとそんな不安も馬鹿馬鹿しくなるぐらい日大、大東関係なく友達ができ、先輩ともたくさん話せて、刺激をもらえて、充実した4日間になりました。特に4日間を通して、先輩方が色々な場面で活躍しているのを見て、最終日に先輩方の総括を聞いて、自分が経営研究会で4年間過ごした後あの場に立った時どんなことを思うのかを知りたいと思うと同時に、これから先できる限りのことに挑戦して後悔のないより充実した4年間にしたいと思いました。また、初対面の人ばかりの中緊張をほぐしてくれた普段から仲良くしている同級生や、いろいろな場面で気をかけてくださり、助けてくださった18班の先輩方に感謝してもしきれません。本当に楽しくて最高の4日間でした。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 押手咲樹

この夏合宿を通して、経営研究会に入る意味を実感できました。先生の話はもちろん、先輩

たちが私たちの初めての合宿を楽しんでもらえるようにするために、前々から計画を立てて準備をしてくださったりグループディスカッションで段取りがうまく進めるようにアドバイスをくださったりしていただいて、感謝を感じるとともに心から先輩たちに対する憧れを強く抱きました。先輩たちに少しでも近づけるように、また来年もこの夏合宿に参加して、自分がもらった役割に責任を持ち、そしてしっかり果たせるような人間になりたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 葛山裕紀

私は合宿を通して一つ大きく成長できたと思っただけがありました。それは人の前で話す力です。元々、私は人の前で話すことが苦手で、毎回話そうとするとあがって早口になってしまっていました。合宿でも最初の挨拶のときはいつも通りあがってしまい、早口になってしまっていました。また、残り何秒かを確認する為のフリップを見る余裕もありませんでした。しかし、三日目のディスカッションの発表では緊張感のある空気の中自分の意見を発言することができ、最終日の総括では合宿で感じたことをはっきりと話すことができ、フリップを見る余裕も持つことができました。人の前で話しをする力は、スピーチやプレゼンテーションなどの能力に直結しているため、そういう意味では大きく人間力をつけることができたと思えました。逆に先輩を見ていると自分には足りないものが見えてきて、自分もまだまだだと思いつつ早くこの人たちに追いつきたいと思うことができ、日々のアカデミー活動をもっと積極的に行なおうと思えました。合宿は楽しいことばかりではありませんでしたが、4年生の総括を見てこんなに大事だと思える場所や仲間を持つことの素晴らしさを知ることができたので残り3回の合宿も絶対に参加しようと思えました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 白井愛羅

今回初めて1年生として夏合宿に参加してみて、参加する前はどのようなことをするのか、友達ができるかなど不安でした。ですが始まってみるとバスの隣の先輩が優しく話しかけてくださったり、山登りは班で協力して助け合って登ったりなど、ほんとうに楽しい時間を過ごさせてもらいました。特に、三日目の夜の飲み会では、必然と18班で集まって写真が撮れて、私は本当に18班で幸せだなあと改めて感じる事が出来ました。宿舎でもみんな仲が良く寝る時間ギリギリまで本当に楽しかったです。それと同時に掃除や食事の支度などをして下さったり、夜遅くまで仕事をして下さっている先輩の姿をみて本当にすごいなあと尊敬しました。

4日目の総括では、私は初めてだったのでどういう感じでやるのか全く分からなかったのですが、4年生に向けて感謝の気持ちを伝えている2,3年生の先輩方をみて本当にいいサークルだと感じました。また、4年生のお話の時には私まで涙が出そうになりました。このサ

一クルの絆の強さを間近で感じる事が出来て感動しました。先輩方も18班も宿舎のみんなもいい人たちばかりでより一層大好きになりました。

この4日間で本当に貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 鈴木花梨

今回の夏合宿で、私は「4日間楽しむ」ということだけを目標に参加しました。結果として、4日間本当に充実していて参加して良かったと思える夏合宿でした。

夏合宿に参加する前は、WSの先輩ともまだあまり話せていなかったし、宿舎で同期の友達いないし、と不安な要素しかありませんでした。しかし、山登りやディスカッションを通して話したことの無い先輩方や大東の人達とも話すことができ、多くの人と関われる良い機会になりました。また、私たちが楽しく合宿に参加できたのは、先輩方それぞれ仕事を一生懸命行って下さったお陰です。先輩方が積極的に動いている姿を見て、カッコいいと思ったし、来年からは私もみんなのために働ける人になりたいと思いました。今回の夏合宿では楽しいだけでなく自分自身で反省することがありました。宿舎で日大の女子1年が私一人だったということもあり、話についていけず、同期と仲良く出来ずにいると、先輩に「去年はこんなじゃなかったんだけどね、ごめんね。」と謝らせてしまいました。自分から積極的になれなかった自分が悪いはずなのに、謝らせてしまったことが申し訳なかったし、悔しかったです。来年は絶対に後悔しないように積極的に動いていきたいです。合宿を通して色々な人と関わり、合宿が終わっても男女問わず連絡をしてくれる人がいて、こういった仲間と継続して関係を保っていけたらいいなと思います。今までは不安だったアカデミー活動もこれからはとても楽しみです。夏合宿に参加をして本当に良かったと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 関和慶

今回経営研究会の合宿に参加して、参加してよかったなと思いました。この合宿での一番の収穫は普段の活動では作る事の出来ない新しい縦と横の人間関係と作る事ができたということです。また、多くの人と関わり、多くの言葉を交わしたことで、いろいろな考え方も学ぶことができました。そして、自己紹介・ディスカッションの意見共有・総括の際には、200人という大勢の前で話すという貴重な体験をすることができ、自分自身また少し成長できたのではないかなと思います。また、宿舎やキャンプファイヤーなどいろいろなところで活躍する先輩方の姿を見て、自分もあのようになりたいという気持ちになりました。また来年も合宿に参加したいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 高橋佑季

私は経営研究会に入って初めて合宿に参加することを嬉しく思う反面、不安に感じていることも多くありました。初日は帰りたい気持ちでいっぱいでしたが、山登り、キャンプファイヤーなどのイベントを通して、今まで知らなかった人との友達の輪が広がっていき、多くの同期や先輩方と仲良くなることができました。こういった場では自らが主体的に動かなければ仲良くなることができないので、とても貴重な経験ができたと思っています。また、先輩方の総括を間近で見て、続けることの大切さや、それによって得られる仲間の存在など学ぶこともとても多く、最高の合宿でした。

山登りは辛かったですが、また2年でも参加したいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 高橋玲奈

今回この夏合宿でたくさんの経験をすることができました。普段東京では味わえない大自然に囲まれながら3泊4日過ごすということだけでも貴重な経験であり、開放的な気持ちになれたことで、より一層リラックスして活動に参加することができました。また、正直山登りは大変でしたが、班のメンバーと声を掛け合い山頂まで登りきるということの達成感はとても大きく、諦めないという気持ちが前より強く自分の心に芽生えたと思います。山頂からの景色はとても壮大で感動したし、仲間とともに目標に向かって頑張ることでより感動的な景色に見えたのだと思います。ディスカッションでは、一人ひとり意見を出し合うことでこういう考えもあるのだなと気づくことができました。その中で、自分の視野の狭さに気づくこともあったので、これからはもっと色々な視点から物事を考えていきたいと思いました。最初の自己紹介で、友達をたくさん作りたいと言ったのですが、4日間を通して、日大大東関係なく友達を作ることができたのが嬉しかったです。自分からたくさん声をかけることができたのは、大きな成長だなと感じました。また、たくさんの先輩方が声をかけてくださり、とても嬉しかったです。この合宿で出会った方々とずっと交友関係を続けていきたいと思いました。初めての合宿で、たくさん先輩方にご迷惑をおかけしてしまったので、来年は自分がこの合宿を支えていきたいと思ったし、先輩方を見習っていきたいと思いました。そして、自分が4年生の時涙がでるような総括をしたいと強く思いました。この4日間、私は合宿を通して成長できたので行って本当に良かったです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 土屋貴寛

私は高校時代にほんの短期間しか部活動に所属していなかったため、合宿というものを経験したことが無く、ましてや宿泊部屋や行き帰りのバスの座席までランダムで初対面の人が隣という事で、初対面の人と喋ることや、自分から関わりに行く事があまり得意ではない僕は合宿に行く前から不安を抱えていました。しかし、いざ合宿が始まると、バスの中でも宿舎でもディスカッションや打ち上げなどでも大東文化大学や日本大学である事は関係無

しに様々な学年の人達と仲良くなれ、合宿前に抱えていた不安など初日の内に消えてしま
うと共に、合宿を通して今まで臆病で消極的であった人と関わる事への自信もつきました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 永田龍治

私は今回の夏合宿に参加して、とても有意義な時間を過ごすことができました。夏合宿の初
めの自己紹介の時に私は、夏合宿の目標として交友関係を広げると言いました。そして私は、
同じ宿舎や部屋、さらにオリエンテーション班などで積極的に話しかけ、不安もあったので
すが、なんとか目標を達成することができました。それだけでも夏合宿に参加した意味があ
ったと思います。そして、今回とても印象に残っていることは、山登りです。はじめはもっ
と緩やかな山を登っていくのだと思っていたのですが、実際は急な坂を登ったり降ったり
と、厳しい道のりでした。しかし、先輩方が声をかけてくださったりしてくれて、無事に乗
り切ることができました。そして登り切った頂上では、素晴らしい景色が待っていて、とて
つもない達成感を得ることができました。三泊四日の合宿ではじめは長いのではないかと
思ったのですが、行ってみたらあっという間で、すぐに終わってしまいました。それだけ時
間がたつのが早く感じて、有意義な時間を過ごすことができたのだと思います。最後になり
ますが、とても楽しかったです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 長濱脩人

今回の夏合宿は、今年の夏一番の思い出となりました。また、初対面の人と打ち解けるとい
う長所を磨くことができた事、積極的に人とコミュニケーションをとる事の大切さを再認
識できた点で、非常に大切なことを学べた充実した夏合宿となりました。合宿の出欠を最初
にとった際には、仲のいい友達が皆欠席してしまうということで、私も不参加の方針でした。
さらに、合宿に誘っていただいた先輩たちの言葉もあまり信用することができずにいまし
た。しかし、普段一緒にいる友達以外と交流を持つことで、視野が広がるという岡田先輩の
お話を聞いて感化され、参加することを決めました。先輩がおっしゃっていた通り、とて
も素晴らしい夏合宿でした。初日は、バスの周りに知人はおらず、不安なスタートでした。
しかし、同席した人達は自発的に話す人が多く、出発してすぐに打ち解けることができまし
た。宿舎では初日は不安がありました。初日に多くの人と打ち解けられませんでした。さら
に、見た目から人を判断する傾向にある私は、宿舎に打ち解けにくそうな人を多くみつけ、
三泊が絶望的に思えました。しかし、二日目の夜の懇親会では、せっかくのご縁を大切にし
ようと思い苦手な人にも積極的に話しかけていきました。すると、見た目からはとても想像
がつかない程真面目な側面があったり、話の馬があったりして語り合う程の中になること
ができました。連絡先も交換したので、合宿後も続く関係になると思います。ここから、人
の本質は話してみないとわからないこと。さらに、人と打ち解けるためには積極性が大切で、

いろいろな人と打ち解けていかないと人生は豊かにならないということを学ぶ事ができました。学んだことをすぐ生かした結果、自分から話しかけた大東の湯原亜美先輩が、同じ地元で隣の高校だったことがわかりました。私から話かけていなければ繋がらなかった出会いだと思います。また、ディスカッションでも、班の人と多く話すことのより円滑に話を進めることができました。これらから、自発的なコミュニケーションとは出会いをつなげるきっかけになるのだと感じました。出会った人とのご縁を大切にする、一期一会の気持ちを大切にしていきたいです。また、二日目の山登りでは険しい山道を先輩や友達と歌を歌いながら登ったり、励ましあったりと、最高の思い出と絆ができました。さらに、キャンプファイヤーでは火を囲んで男女仲良くマイムマイムや、じゃんけん列車など、大自然の中でしかできない青春の時間はとても楽しかったです。人として大切なものを学ぶ事ができた夏合宿はとても実りあるものになりました。また、大学生活の大切な思い出の一ページとなりました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 新實濤奈

私は合宿前日まで、同部屋の人達と上手くやっていたか、沢山の人と関わっても今後も付き合っていくような仲になれるのかなど、不安が沢山ありました。しかしいざ合宿が始まると、自己紹介やビンゴゲーム、山登り、キャンプファイヤー、打ち上げなど、みんなが仲良くなれるイベントが沢山あったおかげで、多くの人と関わり仲良くなる、という目標を達成することが出来ました。後期の活動では、パワーポイントの上達や企業研究の効率の良い調べ方が身に付けられるようにしたいです。また来年の合宿では新たな目標をたて、それを達成出来るようにしたいと思います。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 橋田美乃

夏合宿を通して多くの人と関わり、自分自身何か積極的に動こうという意識が芽生えた気がします。200人以上の前での自己紹介や総括、山の中でのディスカッション、山登りなど初めての体験ばかりの夏合宿でした。また、みんなが過ごしやすいように合宿全体を運営している先輩方の姿をみて、来年は自分もこんな風になりたい、誰かに尊敬されるようになりたいと思いました。今回の夏合宿で学年、大学関係無く沢山の方と関わる事ができとても充実したものとなりました。この関わりを大切にしてこれからの活動も頑張りたいと思います。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 平沢拓巳

夏合宿に参加することに対して、最初は否定的でしたが、先輩方に誘われて行くことに決

めました。夏合宿を終え、特に思い出に残っていることは2つあります。

1つ目は、他大学、同大学の初対面と人々との交流です。自分は、人と話すのは不得意ではないですが、多少の不安がありました。しかし、同部屋での生活、ディスカッション、キャンプファイアーなどで知り合い、意気投合し、また会おうねと言える友達がたくさん出来ました。同じ目標を持った友人を作ることができたことは、これからの人生において、とても有意義なことだと思います。2つ目は、先輩方の活躍です。この夏合宿は、先輩方の活躍がなかったら全く成り立たないと痛感しました。先輩方の楽しむ時は目一杯楽しむ、仕事をする時は全力で仕事に取り組む姿はとてがかっこよく、自分もこのような先輩になりたいと強く思いました。来年は自分も先輩という立場になるので、夏合宿に参加し、成功の一部になれるよう、自分のできることを全力で取り組みたいと思います。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 町田達也

私は、この夏合宿に参加しようかどうか最後まで悩んでいました。しかし、今ではこの夏合宿に参加して本当によかったと思っています。普段関わることの無い人達と話す機会があったり、新しい友達ができたり、同じWS班の同期との仲がより深まったりと素晴らしい経験が得られました。こんな機会を得られたのは、梅沢先生とこの合宿のために尽くした先輩方のおかげだと思っています。合宿中の先輩方の働きには憧憬の念を抱く点が多々あり、100人以上いる新規生を束ねて指示をくれたり、新規生に積極的に声をかけたりする姿に感銘を受けました。来年の夏合宿にも是非参加し、今回の夏合宿でみた先輩達の行動を生かして来年の新規生に憧れられる先輩になりたいと思いました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 村上楓雅

まず、私は夏合宿にいったくさんの友人ができました。そして、いつものコンクリートジャングルとは違う長野という緑に囲まれた地域で3日間を過ごすことで心身ともにリフレッシュすることができ、その緑の中で新しくできた友達と議論を交わすことは新鮮な経験であり、深い思い出となりました。そのほかにも、先輩が自主的に運営し、ハプニングがありつつもプログラム通りこなす姿がかっこいいと思いました。私も来年はもっと自主的に動き、まとめられるようになりたいと考えました。そのためにも後期の活動を一生懸命取り組んで、力をつけたいです。また、来年は2年生だからと気後れするのではなく主体的に活動し、細かいところに気が付いてサポートできるように頑張り、よりよい合宿にしたいと思いました。

日本大学 経済学部経済学科 1年 守口龍太

初めて参加した夏合宿で不安も多かったのですが、普段の生活を離れて、自然豊かな環境で行ったディスカッションや登山、打ち上げはどれも初めてのものばかりでとても貴重な経験となりました。4日間を通して普段関わることのなかった先輩方や同級生、大東の方とも新たな関わりを持つことができ、とても楽しかったです。また、多くの場面で活躍する先輩方のとても頼もしく、偉大な姿に強く感動しました。4日間とても充実した時間を過ごすことができました。

(19班)

日本大学 経済学部 金融公共経済学科 4年 新井雄貴

私は1年生の頃から欠かさず夏合宿に参加していたので、今年で4度目の夏合宿になりました。今年の夏合宿は全員の協力があつてこそ成功することが出来たと思っています。私は、今年移動班のほかに撮影班を兼任する形で夏合宿に参加したのですが、撮影班を行うのが初めてということもあり、自分の中では移動班と撮影班の兼任はとても難しく、このままでは、班の足を引っ張ってしまうとさえ思うことがありました。しかし、移動班や撮影班のみんなが協力的で私達4年生が指示しなくても動いてくれることもあったのでとても頼もしく、活動がとても円滑に進めることが出来ました。また、後輩や同期に支えてもらってばかりいた私のことをそれでも慕ってくれたり、頼ってくれる後輩や同期の力になりたいという一心で夏合宿に取り組んでいました。今年は何度目の移動班ということもあり、田幡・等田・平野と連携して移動班の活動に臨みました。バスの手配や遅刻早退者への対応など事前準備から2、3年生の移動班と協力し合い、夏合宿当日を迎えられたのでその段階でうまく連携がとれていたのではないかと思います。撮影班として集合写真の撮るうえでの事前の打ち合わせや顔合わせを行うことで、こちらもしっかり夏合宿当日を迎えることが出来たのではないかと思います。夏合宿のなかで一番大変だったことは、移動班と撮影班の活動がかぶってしまった時です。特に山登りでは移動班として学生が列から逸れていないか、体調不良者がいないかなど気を配りながら、みんなの山登りの風景を時には山を走りながら撮ることが大変でしたが、とてもやりがいのある活動でした。また、移動班や撮影班として活動しながら4年生として下級生の手本となるような振る舞いや行動を示していくことや夏合宿を最高のものにしていくことを意識していましたが、出来ているか自分には不安でした。しかし、移動班や撮影班の後輩やワークショップ班の後輩や今年の夏合宿で初めて知り合った後輩に、「夏合宿とても楽しかったです。」「夏合宿に行けて本当に良かったです。」といった声をたくさん聞くことができ、頑張つて活動してきた本当に良かったと思えました。最後の総括では感極まって涙してしまいましたが、それだけ本気で取り組んでこれたのだとその時気づくことができました。私はもう学生として夏合宿に参加することはできない

のですが、来年再来年と続くであろうこの素晴らしい夏合宿を後輩たちが今年や今年以上に盛り上げ、後代に残すことを願っています。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 飯田凌

私は今年で3回目の夏合宿になります。今年も昨年同様イベント班として参加させていただきました。昨年とは違い、後輩がおり教えなければならないこと、四年生の先輩からしっかりとバトンを引き継がなければならないことなどもあり、参加前は不安でした。

しかし、そんな心配は無用でした。準備の段階からみんなで集まり、どんな風にしたらみんなを楽しませられるか、と後輩も先輩も真剣に議論してる姿を見て、不安は吹き飛びました。このメンバーなら最高のイベントを作り上げられると確信しました。

夏合宿当日、バスレクもキャンプファイヤーも大成功し、最高の思い出になりました。トラブルもありました。機材トラブルや予定とは違う動き。そこで頼りになったのは同期の存在です。

トラブルが起きた際に迅速、かつ柔軟に解決策を考え出し、対応する同期の姿を見て、素直に尊敬したと同時に、もっと自分も頑張りたいと思いました。

頼りになる先輩、頼もしい後輩、かけがえのない同期の存在を再認識できた素晴らしい夏合宿でした。来年も是非参加したいです。梅沢先生、このような貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 3年 塩原成海

私は夏合宿の前日に風邪をひいてしまい、ただでさえ忙しい先輩方に無駄な心配をさせてしまったり、ワークショップ班長として、指示を出せるコンディションではなかったりした為、同期に任せきりで周りに多大な迷惑をかけてしまいました。また、19班のメンバーと最初から最後まで登山することができず、断腸の思いでした。しかし、このことから気づく点もありました。それは、自分を支えてくれる仲間の存在です。私の代わりに班をまとめてくれる19班の同期や、常に体調を気遣ってくださった先輩や後輩がいました。心優しい素敵な仲間にもまれてアカデミー生活を過ごしてきたことに今まで以上に気づかされ、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、今回で2年目となったイベント班では、夏合宿前からみんなで集まり、いかにしてバスレクやキャンプファイヤーを盛り上げられるかについて話し合い、活動をしてきました。キャンプファイヤー当日は、みんなが楽しんでいる姿を見ることができて、イベント班一丸となって活動してきたことが報われたように思えて非常にやりがいを感じました。キャンプファイヤーが終わってから、後輩に「来年も一緒にイベント班やりたいです」と声をかけてもらったことで、今までの自ら進んで後輩と交流をしなかった自分がとても愚かに思え

る程に嬉しくて、もっと頑張って活動をしていこうと気を引き締めることができました。3年目の夏合宿に参加したことで、改めてアカデミー生という存在の偉大さに気づくことができた為、これからも仲間たちを大切にしながらお互いに支えあいながら精進していきたいです。最後になりましたが、このような貴重な機会を設けてくださった梅沢先生をはじめ、幹事の皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 3年 皆川航輝

私にとって夏合宿は3回目となるのですが、まだまだ学ぶべき事があると感じた合宿でした。私はこの合宿で特に学ぶことができたのは高い学年として後輩の見本となる事はもちろん、先輩や同期の支えになる事の大切さです。私はこのサークルに入った当初、人見知りな性格で先輩や同期の方々に話しかけてもらってばかりでした。しかし、今回の夏合宿ではバスレクや宿舎での活動を通じて、多くの後輩を気にかけることができたのではないかと考えています。また、雄大な自然や都会では決して味わえない澄んだ空気を全身で感じる事ができてとても感動しました。来年で最後の夏合宿となりますが、これまでの集大成として良いものにしていきたいです。

日本大学 経済学部 産業経営学科 3年 横元義樹

私がこの夏合宿で得た学びは2つあります。

1つ目は協力することの大切さです。今回の夏合宿において私は撮影班という役職を頂きました。撮影班は全体や学年の集合写真を撮る仕事があり、その際に誘導して整列させる必要があります。ですが、参加したアカデミー生は300人を超えるため、移動班の協力を得ることになりました。当初は数名の移動班に協力してもらう予定でしたが、当日では動く予定ではなかった方々も積極的に動いてくださいました。私の力不足を感じる反面、役職や学年、大学の垣根を超えて協力することで成功に導くことができるのだと深く感銘を受けました。さらに、夜遅くに行われた会議後に宿舎まで送り届けてくださったのは移動班の方々であり、様々な方々の支えや協力があつたからこそ『写真を撮る』という仕事をこなせたのだと痛感しました。この経験を今後のアカデミー活動はもちろん、日々の生活においても生かしていきたいと考えています。

2つ目は先輩としての自覚です。私は昨年の夏合宿では役職もなく2日目の夜に早退したため、同期には役職についている人がいたにもかかわらず、先輩としての自覚もなくただ楽しんでいました。しかし今年は撮影班と部屋長の2つの役職を頂き、3年生という学年になったため、自分が後輩を引っ張っていくという自覚を持ってこの4日間を過ごすことができました。ですが4年生の先輩に助けをいただく場面が多く、自分の不甲斐なさを感じる場面もありました。

来年は自分が4年生となり、先輩がいない立場となります。このことから、自分が先輩であるという自覚をしっかり持ち、さらに後輩を引っ張っていけるようになりたいと考えています。

日本大学 経済学部 経済学科 2年 大河内 誼人

今回の夏合宿は2回目の参加でしたが、1年生の時と比べて周囲を見る余裕が増え、学べるものがより多いものとなりました。1年生時の夏合宿からアカデミーの活動に参加した私は、当初知り合いがほぼいなく不安であったため余裕がありませんでしたが、今年は大東生にも知り合いがいて肩の力を抜き参加できたため、先輩や同期が合宿の運営をしている様子をしっかりと見ることができました。そこで、組織として行動することの責任の重さや、連帯行動させることの難しさを学べたのではないかと思います。また3日目夜の同期会では去年に増して盛り上がり、同期との間で絆を深めることができました。

その一方で、まだあまり話したことのなかった4年生の先輩方がいらっしやったことや組織の運営に尽力できることがもっとあったのではないかとということが心残りです。

それなので、来年以降は自身も夏合宿を盛り上げられるように動きたいと思います。このような意識を持つようになる機会をいただけたことに感謝します。

日本大学 経済学部 産業経済学科 2年 岸本 達朗

やはり自然は素晴らしいものだと2回目の夏合宿を参加してみて感じました。何故なら普段の生活を都会で過ごしている私には空が私の頭の上いっぱい広がる光景を目にする機会など全くないからです。広々とした森林の景観や、風が木の葉を揺らす音などを聴くと自分が自然の中で如何に小さい存在かを認識することができました。夏合宿中のこのような経験の中で己や物事を鳥瞰的に見れるようになったのではないのかと思います。

また、先輩方の存在は大きなものだと感じました。ワークショップ班でも、宿舎でも、ディスカッション班でも場を盛り上げたり、まとめたりしているのはやはり先輩方であり、私は去年と全く変わっていないなと実感しました。しかしながら、去年よりは大学や学年に限らず色々な人と関わったことは私の中で成長できたことであると感じています。

このような自然の中で200人以上の人と関わるができる貴重な経験を与えて下さり誠に感謝しております。

日本大学 経済学部 産業経営学科 2年 後藤 靖博

今年で2回目の夏合宿だったのですが、1年生の時と比べて変わった点がひとつありました。それはイベント班という役職をいただいての参加だったということです。その中で昨年

度とても大きくかつこよく見えていた先輩方が、合宿に至るまでの期間に幾度にも渡って打ち合わせを重ねていることで、あの 200 人という普通のサークルではあまり体験出来ない規模の人達をまとめたり楽しませたりすることが成し遂げられていたのだということが分かりました。そしてイベント班という組織の中では、やはり 3.4 年生の先輩方の存在がとても大きく、何度も助けて頂きました。キャンプファイヤーの結果としては大成功と言っていい盛り上がりが出せたのではないかと思います。また、同期や後輩からも「キャンプファイヤー楽しかったよ」と多くの人から言ってもらえたので、とても大きな達成感を得ることが出来ました。また、戸隠高原では、東京にはない大自然に囲まれることで、空気の綺麗さだったり湿度の低さ、自然の反射板などとても快適で貴重な時間を過ごすことが出来ました。来年も役職をいただくことが出来たら、イベント班で培った経験を生かして、先輩の支持に従うだけでなく主体的に動けるようになりたいです。最後になりますが、このような素晴らしい環境を調べ、この大人数が一堂に会する機会を設けてくださったことに感謝申し上げます。

日本大学 経済学部 産業経営学科 2年 山崎哲汰

今回の夏合宿を通して学べたことは、人の温かさ、自然の素晴らしさ、先輩の偉大さの 3 点です。

1 点目の人の温かさについては、私は去年の 9 月にこのサークルに入り、知り合いの人は自分の班の人と他班の数人だったのですが、移動の時間を始め様々なイベント、会う人全てがほぼ初対面という環境の中で皆が優しく接してくれたことから学びました。

2 点目の自然の素晴らしさについては、緑に囲まれた宿舎と山登りから学びました。東京ではあんなにも多くの緑に囲まれて生活をする事が出来ないですが、戸隠の自然からは時間を忘れさせてくれるようなリラックス効果を得られました。また、山登りでは、登っている時は辛かったのに、山頂からの絶景を見ると今までの疲れが吹き飛んでいきました。このように、自然に囲まれると心身ともに癒されることを肌で感じる事ができ、非常に良かったです。

3 点目の先輩の偉大さについては、主に移動班の先輩から感じました。右も左も分からない私が疑問に思ったことをすぐ解決してくださったり、かつ 1 歩 2 歩先の行動を先読みして迅速に指示を出す姿は非常にかつこよく、憧れました。

自分にとってこの 3 泊 4 日は非常に密度の濃い時間で、夏休みの最高思い出になりました。来年は憧れている先輩に 1 歩でも近づけるように、またさらに縦と横の人脈を広げられるような夏合宿にしたいです。このような素晴らしい機会を設けて下さりありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 赤澤優佑

今回初めての夏合宿は、非常に貴重な経験になりました。特に宿舎やディスカッション、そして行き帰りのバスなどで、普段は交友のない他班の人や大東文化大学の方とも交流を深めることができよかったです。私は人見知りであり人と交友するのが得意では無いのですが、今回の合宿で自分を変えようと思い、積極的に話しかけたり明るく振る舞ったりした結果、友達を増やすことができました。そして友達や知り合いが増える事によるメリットも発見できました。それは自分の新たな一面に気づくことができるという点です。今回の夏合宿では、私の発言において第三者への配慮が足りないという指摘を受けました。これまで受けたことのない指摘に驚きましたが、思い当たる節も多くこれから意識を変えていこうと思いました。こういった指摘も多くの人と交友したからこそ得られたものであり、後期のアカデミー活動でも人との繋がりを大切にしていきたいと思います。

日本大学 経済学部 金融公共経済学科 1年 大間陽平

私がこの合宿で感じたことは、団体で動くことの難しさです。特に移動班や生活班の先輩は大きな声を出して点呼をとり、移動を促している姿を見て班や宿舎などの大勢を一気に動かすことはとても大変なことだと感じました。また、そういった先輩の姿はとても格好よく感じました。来年も参加したいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 大森仁

私はこの夏合宿を通して大きく分けて 2 つの体験をすることができました。1 つ目は自然です。都会には体験できない自然の荘厳さに触れるおりに自分の抱えている悩みの小ささを感じ、自分を成長させる糧にすることができました。2 つ目は交友関係の拡大です。たくさんの人と会話することで、以前は大学のクラスという小さなコミュニティでの凝り固まった考えしか持っていなかったのですが、他大学の生徒や、普段サークルで関わらないような先輩との交流の中で様々な考え方や感性に触れることができ、以前より多角的に物事を捉えられるようになりました。これらの体験を通じ、人間として一回り成長することができました。このような機会を与えてくださりありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学部 1年 斎藤大輝

私はこの3泊4日の夏合宿を通して多くのことを学びました。まず1つ目に交友関係の大切さです。私がこの経営研究会に入った理由の1つに人脈を広げることがあり、夏合宿には、その目標を達成しようと思い参加しました。夏合宿が終わって振り返ってみると、この目標は達成出来ました。バス移動から宿舎、ディスカッションなど、まだ友達になっ

いアカデミー生と交流する機会があり、これを通して交友関係を深めることが出来ました。2つ目は、先輩方の素晴らしさです。私は1年生であるので、初めての夏合宿に少しばかり不安を抱えていましたが、夏合宿オリエンテーションの時から、何も分からない1年生達を引っ張って下さいました。そして、合宿が始まると、先輩方は、みんなが夏合宿を楽しく安全に過ごせるように色々な面から一生懸命動いてくださり、とてもかっこよく思いました。私もこのような先輩方のようになって来年の夏合宿では後輩を支えていけるように、アカデミー活動に邁進していきたいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 白岩玲

今回の夏合宿を経て、2つのことを学びました。

まず1つ目は、合宿進行に携わる先輩方から、どんな問題も放置せずに解決し、円滑に進めることが大切さです。合宿に行く前は同じ班の先輩が合宿についての相談にのってくださり、合宿中はバスや宿舎など場所を問わず、私の疑問に答えてくださったり、予定が変わっても臨機応変に対応し、さらに私たちの体調を気にかけてくださったりと、いついかなる時も多くの先輩方の支えがあったことを実感しました。先輩方のおかげで、他班の方々と交流ができ、たくさんの思い出を作ることができました。役職や学年を問わず、合宿を成功させようとする先輩方の思いや姿勢は、私の新しい目標になりました。

2つ目は、普段ではできない体験を通じて、今までとは違うものの見方ができるようになることです。自分の家の近くを歩いてもごくわずかな生物しか見ませんが、宿舎について少し歩いただけで、様々な種類の植物や昆虫を見かけました。登山そのものをはじめ、澄んだ空気や雲と同じ高さからの眺めなど、今まで知らなかったもの、忘れていたことがどれだけ多いのかをこの合宿で気づくことができました。知らないこと、わからないことを見つけたとき、それを理解しようとすることで、新しい発見や、見落とししていたことへの気づきができることを学びました。

どちらの学んだことも、生きていくうえで大切なことだと思います。新たな目標を見つけられたこの合宿はとても貴重な体験になりました。来年は、今回先輩が支えてくださったように、新しく入ってくる後輩たちをサポートして夏合宿に貢献したいです。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 須永啓太

今回の合宿で、私はとても積極的な人間になれたと思っています。今までの私は、自分と関わりのない人に話しかけるのがとても苦手でした。見かけで人を判断して、自分と性格が合わなそうな人には話しかけないことが多々ありました。しかし、今回大東生や他班の人と交流することで自分の考え方が誤っていることが分かりました。人を見かけで判断せずに積極的に話しかけていくことで、沢山のひとと交流でき様々な考え方を享受することができま

した。

今回の経験を忘れずに、来年の夏合宿は自分の役割を意識して楽しみたいと思います。今回の夏合宿を企画してくださった梅沢先生並びに先輩方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 田中勝也

初めての夏合宿を通して、人と協力することの大切さを知ることができました。初めて会う人と同じ宿舎になり、決まった時間通りに行動するためにみんなで協力しなければならないからです。

私は朝がすごく苦手で起きれるか不安でしたが、集団行動の中でそれを乱してはいけないという思いから寝坊することはなく、自らしっかり起きることができました。

ディスカッションでも初対面の人と意見を交換するために、一人一人が自分の考えを持つことが大事です。私は自分の考えを強く持っていなかったので、積極的に参加することができませんでした。その点を反省して、後期からのアカデミー活動では自分の意見を積極的に発言することを心掛けたいと思います。

たくさんの先輩の背中を見て、様々なことを学べた貴重な体験ができました。このような機会を設けてくださり誠にありがとうございました。

日本大学 経済学部 経済学科 1年 野口峻平

夏合宿を通しての学びは、たくさんの人と交流することの重要さと、多くの人の支えで夏合宿が楽しめたことの2点です。

1 点目のたくさんの人と交流することの重要さについては、合宿の始まりから学びました。バスの中では知らない人と話したり打ち解けることができるか不安でしたが、話してみたら案外すぐに打ち解けて、バスの席の隣や宿舎内の人だけでなく、他の宿舎の人や大東の先輩方、友人の友人にも気軽に話しかけることができるようになりました。このように交流を重ねていくことで、短い時間で自分の特徴を伝えることの重要性を感じました。結果として、まだ話したことのない人に自ら話しかけ交流を深めていき、総勢 220 人もの大きな合宿で、自己アピール能力を高められたと思います。

2 点目の多くの人の支えで楽しめたことについては、支えてくれた人の中でも、安全に合宿を過ごすために指示してくれたり、他人との関わりを広くしようと協力して行動してくれた先輩方、性別関係なくたくさん話しかけてくれた同期たちから学びました。多くの人のおかげで大東の人とも仲良くなれて、プライベートでも遊ぶ約束をする程に仲を深めて楽しむことができました。

しかしその一方で、私は協調性を優先して、自分から意見を言うことを躊躇してしまうとい

う欠点に気づかされました。これは、たくさんの人と4日間過ごしたことで気づくことができました。この欠点を直すために、どのような事にも客観的な視点を持ち、主観的な視点だけの意見を言わないように心がけ、広い視野でいろいろな意見をまとめられる人間になれるよう、木曜アカデミーのディスカッション等で、自分なりに成長のための試行錯誤をしていきたいと思います。

この夏合宿の成功は、先輩方が多くの時間を費やして計画を立ててくれたことがあってからこそだと私は思います。このような貴重で素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝します。誠にありがとうございました。

日本大学 経済学部 産業経営学科 1年 和久井良大

初めての合宿から学べたことは、3つあります。

まず1つ目は積極性の重要性です。私は消極的な性格なので、日大と大東合わせて230人という大型サークルの合宿に気後れしていました。ですが、ここで消極的な面を克服するチャンスだと思って今回の合宿に参加しました。実際に合宿に参加してみると、ここで話しかけなくては自分を変えられないと思い、自分なりに積極的に話しかけていき、性別や学校に限らず多くの繋がりを持つことができました。

2つ目は、縦横の繋がり的重要性です。同じ部屋であった先輩方はオンオフの切り替えが素晴らしく、遊ぶ時にはしっかり遊び、仕事をする時にはしっかりこなしており、本当に尊敬できました。そして、自分もそういう先輩になりたいし、ならなければいけないのだと感じました。

3つ目は、環境が変わることの素晴らしさです。普段はコンクリートに囲まれた教室でディスカッションをしていましたが、今回の合宿では広大な自然の中でのディスカッションということで気分転換となり、煮詰まることなくとても気持ちよく伸び伸びとした話し合いをすることができました。

この4日間は非常に貴重で自分にとって今後の人生の糧となる合宿になりました。

このような機会を設けてくださった梅沢先生、先輩方に感謝致します。ありがとうございました。